

1. [はじめに](#)
2. [無料ダウンロード音声について](#)
3. [CONTENTS](#)
4. [ハリウッドセレブの“素顔の”英語](#)
5. [ハリウッドスターのインタビューで英語力パワーアップ](#)
6. [インタビュー・ページの読み方](#)
7. [Hilary Swank](#)
8. [Hugh Grant](#)
9. [Scarlett Johansson](#)
10. [Helen Mirren](#)
11. [Orlando Bloom](#)
12. [Brad Pitt & Angelina Jolie](#)
13. [Daniel Radcliffe & Emma Watson](#)
14. [Cate Blanchett](#)
15. [George Clooney](#)
16. [Jude Law, Norah Jones & Wong Kar-Wai](#)
17. [奥付](#)

はじめに

『イングリッシュ・ジャーナル』から厳選されたスターのインタビューが聞ける！

この本は、アルクの月刊誌『イングリッシュ・ジャーナル』の「The Voice of EJ」に2005～2008年にかけて掲載されたハリウッドスターのインタビューの中から10本を選び、1本6～7分の長さに再編集して収録したものです。

各インタビューごとに、音声にきわめて忠実な英文トランスクリプト、対訳、語注、用語解説などが掲載され、インタビュー音声をそのまま収録しているので、入手したその日からすぐ、スターたちの本物の声でリスニング練習ができます（※インタビュー音声は無料でダウンロードできます）。

レベル別・モデル学習法で英語力アップ！

さらに、インタビュー・ページの前には、本書の内容を利用した、英語力レベル別の学習モデルプランが掲載されていますので、これを使って、ご自分のレベルに応じて、リスニング力はもちろん、スピーキング力を含む英語力全体までもステップアップさせることができます。

各インタビューの末尾には、この学習ページに対応した「理解度チェック」が付いていますので、自分がどの程度聞き取れたか確認するために、ぜひご利用ください。

また、長年ハリウッドスターを取材してきたベテラン映画ライターによる、スターたちの普段の英語の話しぶりに関するエッセイも、どうぞお見逃しなく！

10本のインタビューに登場する俳優たちは皆、今、非常に注目され、活躍しているスターたちです。

さあ、まずは、憧れのスターの話がどのくらい聞き取れるか、早速挑戦してみましょう！

表紙写真：Rex Features/アフロ

無料ダウンロード音声について

本書に対応する音声は、すべて無料でダウンロードしていただけます。下記URLにアクセスし、『ハリウッドスターの英語3』を選択、フォームに必要事項をご記入の上送信いただくと、ダウンロードページURLのご案内メールが届きます。

ALC Download Center
ダウンロードセンター

ダウンロードした音声ファイルはiTunesなどの音声再生ソフトで取りこんでご利用ください。音声再生ソフトでのファイルの取り込み方法や携帯音楽プレーヤーでの利用方法については、ソフトやプレーヤーに付属するマニュアルでご確認ください。

取り込んだ音声ファイルは、音声再生ソフトで次のように表示されます。

出版社名（アーティスト名）：「ALC PRESS INC.」と表示。

書名（アルバム名）：

『ハリウッドスターの英語3』

トラック名（曲名）：どの学習に必要な音声なのか**がすぐわかる**よう、[トラック名_アーティスト名]で曲名が表示されます。（例：[01_Hilary Swank]

本書では、ダウンロードした音声を使用する部分は**DL Track01**のように、トラックの通し番号で記載しています。該当のトラックを再生して学習してください。

[はじめに](#)

[無料ダウンロード音声について](#)

取材歴15年の映画ライターが聞いた
[ハリウッドセレブの“素顔の”英語3](#)

〔レベル別・本書を使ったモデル学習プラン〕
[ハリウッドスターのインタビューで英語力パワーアップ](#)

[インタビュー・ページの読み方](#)

Hilary Swank

女性ボクサーを描いた『ミリオンダラー・ベイビー』で、**30**代前半にして2度目のアカデミー主演女優賞受賞という偉業を達成したヒラリー・スワンクが、イーストウッド監督の映画作りや、栄華とは無縁の生い立ちについて、気取りのない口調で語る。

▶用語解説

▶語注

Hugh Grant

ケンブリッジ大学を舞台にした『モーリス』での美青年ぶりで世界中の女性を魅了したヒュー・グラントもいまや**40**代。お得意のロマコメや「イヤな奴」役などで軽妙洒脱な名演技を見せる彼が、「中年の危機」やコメディー作品について、格調高いイギリス英語でシニカルに語る。

[▶用語解説](#)

[▶語注](#)

Scarlett Johansson

子役時代から培ってきた演技力とコケティッシュな魅力で今最ももてやはされている若手女優のひとり、スカーレット・ヨハンソンが、ウディ・アレン作品を中心に、アレン監督との関係や共演男優について、そして今後の夢について語ったインタビュー。

▶用語解説

▶語注

Helen Mirren

現英国王室を正面から描いた問題作『クイーン』でアカデミー主演女優賞を受賞した、英国を代表する名女優、ヘレン・ミレンが、イギリス人の王室への複雑な思い、エリザベス女王を演じた際の役作りについて語る。女王役にふさわしい典雅なイギリス英語が聞ける。

[▶用語解説](#)

[▶語注](#)

Orlando Bloom

「ロード・オブ・ザ・リング」シリーズに続き、「パイレーツ・オブ・カリビアン」三部作にも出演、瞬く間に大スターになった英国人俳優が、**30歳**を迎えてアイドル的キャラクターから「真の役者」への脱皮を目指す心境や、環境問題について語った興味深いインタビュー。

[▶用語解説](#)

[▶語注](#)

Brad Pitt & Angelina Jolie

ハリウッド最強のビッグ・カップル、ブラッド・ピット&アンジェリーナ・ジョリーが、初めて2人揃って記者団に答えた**2007**年カンヌ映画祭での記者会見。ピットがプロデュース、ジョリーが主演した『マイティ・ハート』や親としての愛情について、仲良く答える。

[▶用語解説](#)

[▶語注](#)

Daniel Radcliffe & Emma Watson

世界的大ベストセラーを映画化した「ハリー・ポッター」シリーズの1作目から初々しいコンビを組んできた2人もいまや**10**代後半。5作目の『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団』のテーマについて、これからの夢について、若者らしい口調で語ったインタビュー。

[▶用語解説](#)

[▶語注](#)

Cate Blanchett

その演技力を高く評価された『エリザベス』から約**10**年。続編『エリザベス：ゴールデン・エイジ』でも圧倒的な演技力と存在感を示したケイト・ブランシェットが、歴史上の人物の心理を深く掘り下げる苦労や、新たな芸術監督の試みについて語る。

[▶用語解説](#)

[▶語注](#)

George Clooney

金儲け主義を潔しとせず、資金集めから始めて社会派の映画作りを続けるジョージ・クルーニーは「ハリウッドの良心」とも言える存在。オバマ氏とも親交の深い彼が、現代アメリカが抱える問題について、そして有名人であることの意味について語った含蓄深いインタビュー。

[▶用語解説](#)

[▶語注](#)

Jude Law, Norah Jones & Wong Kar-Wai

中国の名監督ウォン・カーウアイが、英国人俳優ジュード・ロウとアメリカ人歌手ノラ・ジョーンズを主演に作ったロマンティックな映画、『マイ・ブルーベリー・ナイツ』。3人が、この素敵な異文化コラボレーションの体験について、それぞれの立場から語る。

▶用語解説

▶語注

奥付

ハリウッドセレブの“素顔の”英語 3

How do the celebrities talk?

Text by Tominaga Yuki

現在のハリウッドの姿を表す多彩な顔ぶれ

第3弾を迎えた『ハリウッドスターの英語』は、2008年現在のハリウッドを端的に表す顔ぶれを揃えている。オスカー受賞者、期待の若手、スター・カップル、ハリウッド映画に欠かせない英国俳優、そしてアジアの才能だ。

ヒラリー・スワンクは『ミリオンダラー・ベイビー』で2度目のオスカー受賞を果たした。30代前半で主演女優賞2冠というのは簡単には成し遂げられない偉業だ。受賞前から本命視されていた取材時も、受賞後も、慢心した様子はもなかった。与えられた栄誉を素直に喜びつつ、浮き足立つことはない、地に足の着いた女性なのだ。映画スターとはかけ離れた普通の女性に見えと言われれば、「それは俳優にとって最高の褒め言葉」と喜ぶ。自分の持ち物を入れるのに白いビニール袋を平気で使うと話す。こんなエピソードが嫌みなく聞こえるのは、気取らない性格がみ出ているからだろう。その口調には、ボーイッシュな役柄とは異なる女性らしさも感じられる。『ミリオンダラー〜』で演じたのは、自身の生い立ちと似たトレーラー・パーク出身の女性。ヒロインの壊れた家庭の描写が実際のトレーラー・パーク居住者に不快感を与えかねないという危惧もあったが、それに対するヒラリーの反応は見事だった。「個人的に取る人がいれば、ご自身で解決すべき問題を抱えているということじゃないかと思います」という発言には、どん底から自力ではい上がってきた経験者ならではの説得力がある。

ハイソなイギリス英語で洒脱な毒舌を振るうヒュー・グラント

インタビュアーにとって、ヒュー・グラントはなかなか手強い相手だ。何度か来日している彼の取材で神経をすり減らした記者は少なくない。通り一遍の質問が続くと目に見えて不機嫌になり、素つ気ない答えになる。その代わり、気分が乗ってくると毒舌全開の格調高いイギリス英語で、ちよつとヒヤツとするような危険な発言を連発する。文字にして読むと、かなり辛辣な印象だが、実際に話す口調は軽妙洒脱で、聞き手を楽しませようとするホスピタリティすら感じてしまうのはだろうか。今回のインタビューにも彼らしさがあふれている。度を越した有名人願望や、シリアスな俳優としての評価にこだわる人々に対するチクリとした批評、中年男の危機を自虐ネタに自身をも笑い飛ばしながら、創造的でありたいという気持ちや、働くことの大切さ、仕事への誇りもさり気なく語られた、興味深いインタビューだ。

初めてスカーレット・ヨハンソンを取材したのは『バーバー』の日本公開時。ということは彼女はまだ16歳くらいだったことになる。当時から彼女はふてぶてしいほど落ちていた。だが、決して背伸びした風ではなく、10代の少女らしい、まっすぐな心情が伝わってきた。エレン・ペイジが『JUNO／ジュノ』で演じたヒロインによく似た雰囲気だ。ニューヨーク訛りのハスキーな声で、やや早口に淡々と話す彼女は『ロスト・イン・トランスレーション』で一躍スターになり、大胆な発言や行動で、世間を騒がせたが、同世代の女優の一步も二歩も先を行く実力で、キャリアは順風満帆。20代を迎えた今の彼女からは余裕が感じられ、以前よりリラックスした話しぶりだ。収録インタビューで夢として語った監督デビューも、製作中のオムニバス映画New York, I Love Youで実現させ、歌手としてアルバムも発表、ますます活躍の場を広げている。

生まれながらのスター、オランダの素顔はフレンドリーなエコ派

TVドラマや映画で女王を演じる機会の多いヘレン・ミレンにとって、『クイーン』のエリザベス2世を演じることは避けようのない運命だったのかもしれない。歴史上の過去の人物ではなく、今も君臨する女王その人の内面を掘り下げる作業は並大抵の努力ではなし得ないものだ。役作りについて尋ねられた彼女が、女王をロンドンのビッグベンに例えてみせたのが興味深い。何百万回と車で通り過ぎてなのに、きちんと見たことは一度もない。つまり、テレビやラジオで見知っている女王について、何も知らなかったということだ。映画では完全に女王の口調をコピーしたヘレンは、実際の話し方もノーブルだ。言葉を選びながら尊敬を込めて、女王の孤独、感情をコントロールする精神力の強さについて語っている。少女時代を振り返り、「有名な女優になりたいとは思いませんでした。映画スターになりたいわけでもなかった」と語る彼女がなりたかったのは「偉大な女優」。大きな悲劇と苦悩の渦中であって毅然とした女王を演じ、オスカー主演女優賞に輝いた彼女は、自らの夢を実現させたのだ。

子どものころにスターになりたいと思ったかどうかは定かではないが、本人の意志にはかかわらず、スターになる資質を持った人はいるものだ。オランダ・ブルームは『ロード・オブ・ザ・リング』シリーズ第1作で脚光を浴びた瞬間から、スターになる覚悟が出来ていたようだ。全く無名の若手だった彼が初来日し、ショーン・ビーンと2人一緒に取材を受けていた時の様子は今も鮮明に記憶している。キャリアも長く、熱心な女性ファンも多い（実際、取材に来ていた女性記者たちの大半のお目当ては彼だった）のに、職人のようにで口下手なショーンに対して、オランダはフレンドリーでまったく人見知りせず、気の利いた受け答えで、すでに完ぺきな若手スター然としていた。この度胸の良さがスターの資質のひとつなのだ。『パイレーツ・オブ・カリビアン』シリーズと2つのメガヒット・シリーズや大作への出演が続き、文字通りのスターとなった今も、親しみやすさは変わらない。記者たちと友達同士で会話するように、将来について、環境問題について話している。

ハリウッド一のビッグ・カップルは会話の息もぴったり

今や“ブランジェリーナ”というコンビ名（？）まで持つ、ハリウッド最大のスター・カップルとなったブラッド・ピットとアンジェリーナ・ジョリーは、人々の好奇の目までも武器にする。パパラッチ的な追跡を告発するスターが多いなか、幼い我が子たちと一緒にカメラの前に立ち、いわば「ブランジェリーナ劇場」を見せている彼らのようなケースは稀だ。本書に収録されたのはブラッドがプロデュースし、アンジェリーナが主演した『マイティ・ハート』のプロモーション会見で、2人とも子を持つ親としての立場からのコメントもしている。早口ではつきり話すアンジェリーナの後で、つぶやくように低い声のブラッド。アンジェリーナ主導のように思えるが、彼女の発言をうまく補足していくブラッドの名アシストぶりはなかなかのもので、やはりお似合いの2人なのだと改めて思う。

ダニエル・ラドクリフとエマ・ワトソンは共にまだ10代。年若いファンも多く、役のイメージを壊してはいけないという思いもあるのか、2人とも発言は優等生っぽい。質問に対する答えは理路整然としているが、口から出る言葉のスピードに考えが追いつかないかのように、言いよどみながら、懸命に言葉を探す様子に好感が持てる。同じ質問をされて、「あなたからどうぞ」とエマに言われ、「いいよ」と応えたものの、「えーつと」と口ごもるダニエルが微笑ましい。この時、彼が「Oh dear」と言っているのが、いかにも英国人らしい。

ヘレン・ミレンが『クイーン』で演じた自国の女王について尊敬を込めて語っているのに比べると、オーストラリア出身のケイト・ブランシェットは、外側から英国王室を観察し、自身の演じたエリザベス1世について、より自由に語っているのが面白い。「エリザベス1世とはまったく違った為政者」と断りを入れながらも、“鉄の女”の異名を持つマーガレット・サッチャー元英国首相を役作りの参考にしたというのは、異国人ならではの視点だろう。役柄に応じて、米語やアイルランド訛り、地元オーストラリア訛りなど様々なアクセントを自在に使い分けているが、普段の口調はイギリス英語に近く、発音もはっきりしていて聴きやすい。

「ハリウッドの良心」クルーニーとお手本にしたい国際派カーウアイ監督

『オーシャンズ11』シリーズをはじめ、数々のエンターテインメント作で華のあるダンディな男を演じるジョージ・クルーニーが人道支援や政治にも熱心であることは、よく知られている。映画をプロモーション中の記者会見やプレミア会場のレッドカーペットでは脱線気味の悪乗りを見せることもしばしばだが、同じ場所でスーダンのダルフルで起きた虐殺について、あるいはアメリカ大統領選について話題をふられれば、一瞬にしてトーンを変え、明晰な自説を披露する。ニュースのアンカーマンだった父親譲りの弁舌はさわやかでカリスマ性があり、思わず耳を傾けたいくなる雄弁家。ハリウッドにおける人望の厚さはもちろん、彼を未来の大統領に望む声があることも納得できる。彼自身が、自由の国・アメリカの理想を追求する人であることが言葉の端々からうかがえる。スターの栄光について「何事も運です（**It's all about luck.**）」と言い切る潔さもスマートだ。

既刊の『ハリウッドスターの英語』シリーズでも言い続けてきたことだが、外国語として英語を話す者にとって目指すべきは、ネイティブのように話すことではなく、言いたいことが相手に伝わる英語を身につけることだ。『マイ・ブルーベリー・ナイツ』で、主演のジュード・ロウ、ノラ・ジョーンズと取材に応じているウォン・カーワイ監督は、まさにその実例だ。訛りもあり、動詞の時制や単語の間違いはあるものの、平易な表現を駆使しながら、よどみなく話し続ける。ジュードもノラも、もちろん記者たちも彼の発言を正しく理解し、会話が弾む。

イギリス英語（ジュード）、米語（ノラ）、そして母国語が中国語のカーワイにとっての外国語としての英語。三者三様の口調を聴けるこのインタビューは、国際化がますます進むハリウッド（2008年2月の第80回アカデミー賞で俳優の受賞者にアメリカ人は1人もいなかった）の現在を象徴する。「ハリウッドセレブの“素顔の英語”」を具現化したものと言えるだろう。

富永 由紀●映画ライター。映画雑誌『フリックス』の編集部を経て、1999年からフリーランスとなり、映画誌、女性誌、インターネット・サイトなどで執筆。国籍を問わず面白い映画を求め、作品にかかわった人々から話を聞くのが何よりの喜び。

英語力パワーアップ

映画スターの生素材を使ったりスニング学習のメリットとは？

Text by Matsuoka Noboru

01 生の英語素材には魅力がいっぱい

生のインタビュー素材には、教科書の英語にはないさまざまな魅力があります。

第1に、話している人物が声優やナレーターではなく、本人が自分の思いや考えを自分の言葉で話している点です。本書では、ハリウッドスター本人が、シナリオではなく自分の言葉で話しているのですから、映画ファンにはたまりません。映画ファンならずとも、世界的なスターの話なら、教科書を読むナレーターの英語より、興奮度ははるかに高くなるはずです。

第2に、生の素材の魅力は、バラエティーに富んでいることです。画一化された教科書英語とは違って、人それぞれの話し方の癖が、スピードや言い回し、アクセントなどに見られ、個性を楽しめることです。

第3は「不完全」であることです。教科書の英語は完璧なセンテンスの集合体ですが、そのような英語は現実の人間の発話には存在しません。会話は瞬間芸ですから、間違いもすれば、言い直しもし、言葉に詰まることもあれば、途中で中断することもあります。生の素材は、こうした現実の「正しい不完全な英語」を教えてくれる貴重な教科書なのです。

02 リスニングは4技能の原点

本書は、音声素材を使ってリスニング力をパワーアップすることを目的に編集されたものです。したがって、音声を聞くことが練習の中心になり、テキスト（スクリプト、対訳、語注）はあくまでも補助的なものとして考えられます。しかし、リスニングは4技能（聞く、話す、読む、書く）の原点です。リスニングのパワーアップはスピーキング力の向上に直結します。同時に、音声を文字にすれば、リーディング、ライティングのパワーアップにもつながります。また、これらのプロセスで語彙力の増強も同時進行します。本書の利用を聞き取り練習にとどめず、欲張ってあなたの英語力全体のパワーアップにつなげてください。

03 学習方法

本書を利用した学習方法の例をレベル別に紹介します。各レベルとも **STEP 4**の後に「理解度チェック」（各インタビューの最後に掲載）があります。**GOAL** に示された得点をクリアしたら、1レベル上の方法でチャレンジしてください。なお、各レベルとも、**STEP 5**以降はスピーキングやリーディングのパワーアップにつながる〈発展学習〉です。範囲や回数は指定していませんので、自分のペースに合わせてあれこれ試してみてください。

松岡 昇●青山学院大学大学院国際政治経済研究科修了。
専門は、国際コミュニケーション、社会言語学。獨協大学、東洋大学、淑徳大学講師。
アルクの看板通信講座「1000時間ヒアリングマラソン」コーチ。
著書の『日本人は英語のここが聞き取れない』『続・日本人は英語のここが聞き取れない』が、大好評発売中。

初級者

TOEIC 500点未満

話の「森」（＝大筋）が見える

初級レベルでは、語注類と **Reporter** の質問文（英文、訳文）の助けを借りて、合計**10**回の聞き取りで話の「大筋」がつかめることを目標とします。

たとえ最初はまったく聞き取れなくても、以下のステップに従って、まず、用語解説と語注（背景知識とボキャブラリー）をあらかじめ頭に入れることで徐々に聞き取りが容易になり、次いで、**Reporter** の質問文を理解することでインタビューの答えの「大筋」を予想できるようになります。

どれほど速い英語でも、途中で音声を止めることはせずに、自然の英語の流れに身を任せてください。少しずつ聞こえてくる語句が増えてくるはずです。

STEP 1 全体を聞く

まずは 音声を最初から最後までノンストップで2回聞く。気持ちでは、いつでも、最初の1回で「森」（＝大筋）をつかむつもりで。（1～2回目）

STEP 2 用語解説＋全体を聞く

トラックごとに、テキストの「用語解説」に目を通してから 音声を聞く。この作業が最後まで終わった後で、再度、全体を最初から最後までノンストップで2回聞く。（3～5回目）

STEP 3 語注＋全体を聞く

トラックごとに、テキストの「語注」に目を通してから 音声を聞く。この作業が最後まで終わった後で、再度、全体を最初から最後までノンストップで2回聞く。（6～8回目）

STEP 4 質問文＋全体を聞く

Reporter の質問文（英文と訳文）をテキストで読む。その後、全体の音声最初から最後までノンストップで2回聞く。（9～10回目）

GOAL

STEP 5

スクリプトを1文ずつ読み、内容を確認する。

STEP 6

自分のスピードで音読をする。

STEP 7

1文ごとに、スクリプトを見て読み、顔を上げて（スクリプトから目を離し）同じ文をもう一度繰り返して言う。

STEP 8

スクリプトを見ながら、音声のシャドーイング（音声を止めずに、すぐ後から影のように付いて英文を音読する練習）をする。音声に付いていけるようになるまで繰り返す。

中級者

TOEIC 500～750点

話の「森」と「木」（＝要点）が見える

中級レベルでは、語注類と **Reporter** の質問文（英文）の助けを借りて、合計7回の聞き取りで話の「大筋」と「要点」がつかめることを目指します

このレベルでも、固有名詞（人名、映画のタイトルなど）が多いため、何の予備知識もなく聞けば「大筋」をつかむことさえ極めて困難です。用語解説と語注から背景知識とボキャブラリーを仕入れ、また **Reporter** の質問文を英文であらかじめ読むことで、聞き取りやすさが違ってくるはずです。

和訳の作業は、速い英語では、理解の妨げにしかありません。和訳をあきらめ、音声を止めずに、英語の流れに身を任せると、少しずつ日本語を介さない「映像」（＝話されている内容のイメージ）が見えてきます。

STEP 1 全体を聞く

まずは音声を最初から最後までノンストップで1回聞く。気持ちでは、いつでも、最初の1回で「木」（＝要点）をつかむつもりで。（1回目）

STEP 2 用語解説＋全体を聞く

トラックごとに、テキストの「用語解説」に目を通してから 音声を聞く。この作業が最後まで終わった後で、再度、全体を最初から最後までノンストップで1回聞く。（2～3回目）

STEP 3 語注＋全体を聞く

トラックごとに、テキストの「語注」に目を通してから 音声を聞く。この作業が最後まで終わった後で、再度、全体を最初から最後までノンストップで1回聞く。（4～5回目）

STEP 4 質問文＋全体を聞く

Reporter の質問文（英文のみ）をテキストで読む。その後、全体の音声を最初から最後までノンストップで2回聞く。（6～7回目）

「理解度チェック」を行う

GOAL

STEP 5

スクリプトを1文ずつ読み、内容を確認する。

STEP 6

自分のスピードで音読をする。

STEP 7

1文ごとに、スクリプトを見て読み、顔を上げて（スクリプトから目を離し）同じ文をもう一度繰り返して言う。

STEP 8

スクリプトを見ながら、音声のシャドーイング（音声を止めずに、すぐ後から影のように付いて英文を音読する練習）をする。音声に付いていけるようになるまで繰り返す。

STEP 9

スクリプトを見ずに、音声のシャドーイングをする。音声に付いていけるようになるまで繰り返す。

上級者

TOEIC 750点以上

話の「森」と「木」と「枝葉」（＝詳細）が見える

上級レベルでは、語注類の助けのみを借りて、合計5回の聞き取りで話の「大筋」、「要点」、そして「詳細」がつかめることを目標とします。

このレベルの人は、いきなり1、2度聞いただけでも、「大筋」や「要点」はかなりのところまでつかめるはずです。しかし、細かい部分を聞き取ることには、もうひとつ自信が持てない段階です。やはりポイントは、背景知識とボキャブラリーです。「知っている話題」は細かい部分まで比較的楽に聞き取れるものなのです。

詳細を聞き取ろうと力を入れると、瞬時に理解できない特定の語句が気になり、理解の流れを妨げます。語注類をチェックした後は、力を抜いて英語の流れに身を任せてください。はじめのうちはザルのように細かい情報が素通りしていく不安を覚えますが、徐々に慣れて、リラックスした状態で「枝葉」まで見えるようになってきます。

STEP 1 全体を聞く

まずは 音声を最初から最後までノンストップで1回聞く。気持ちでは、いつでも、最初の1回で「枝葉」（＝詳細）までつかむつもりで。（1回目）

STEP 2 用語解説＋全体を聞く

トラックごとに、テキストの「用語解説」に目を通してから音声を聞く。この作業が最後まで終わった後で、再度、全体を最初から最後までノンストップで1回聞く。（2～3回目）

STEP 3 語注＋全体を聞く

トラックごとに、テキストの「語注」に目を通してから音声を聞く。この作業が最後まで終わった後で、再度、全体を最初から最後までノンストップで1回聞く。
(4～5回目)

GOAL

STEP 4

スクリプトを1文ずつ読み、内容を確認する。

STEP 5

自分のスピードで音読をする。

STEP 6

1文ごとに、スクリプトを見て読み、顔を上げて（スクリプトから目を離し）同じ文をもう一度繰り返して言う。

STEP 7

スクリプトを見ながら、音声のシャドーイング（音声を止めずに、すぐ後から影のように付いて英文を音読する練習）をする。音声に付いていけるようになるまで繰り返す。

STEP 8

スクリプトを見ずに、音声のシャドーイングをする。音声に付いていけるようになるまで繰り返す。

STEP 9

対訳を見ながら、1文ずつ口頭で英訳する。

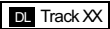
STEP 10

インタビューの内容を自分の英語で要約する。

インタビュー・ページの読み方

この本のインタビュー・ページの本文は、次のように構成されています。最初の扉ページで、それぞれのスターのプロフィールや、話し方の難易度や特徴をチェックし、自分のレベルや関心に合わせてインタビューを聞いて／読んでみましょう。

音声トラック

 **Track XX** とあるアイコンがある部分は無料ダウンロード音声と対応しています。ダウンロードした音声を再生して学習してください。また本文のトラックには、その収録パートで述べられている内容の参考になるよう、中見出しを付けてあります。中見出しは必ずしも英和对訳にはなっていません。
※本書の音声は書籍付属のCDを使用しているため、**Track62**の最後に「**This is the end of this CD**」という音声が残っています。ご了承ください。

英文スクリプト

音声に忠実に書き起こした英文トランスクリプトです。ただし、単語と認識し難い発声や相づち、言いよどみ、どもりなどは、表記されていない場合があります。

和訳例

英文のスタイルにできる限り即した訳になるようにしています。学習の参考にしてください。ただし、どのレベルの方も、最初は訳例を見ないで英文をリスニング／リーディングされることをおすすめします。

語注

英検2級・**TOEIC730**点レベル以上の語彙を中心に、注意が必要と思われる単語や表現について、ここで使われている意味の訳語を付けてあります。必要なものについては、訳語の後に★印で補足説明を付けてあります。

用語解説

主として、固有名詞と、話の理解に必要と思われる背景や事情について、解説を付けています。

※英文中の色が変わっている部分をタップすると用語解説もしくは語注に遷移します。*から始まっている下線箇所は、下線部分を含め複数の用語解説もしくは語注を含んでいます。*をタップすると下線部分全体の用語解説もしくは語注に遷移します。



Hilary Swank

写真：Retna UK/アフロ

アカデミー主演女優賞に**2度**輝く 演技派女優の素顔

Hilary Swank

“She told me that I could do anything I wanted as long as I worked hard enough.”

「母は、一生懸命やりさえすればやりたいことは何だってできる、と私に教えてくれたの」

Supervising Editor's Comment

米国中北部地域出身のため、can'tなどの[æ]が「エーア」のように延び、setなど[e]の母音がやや「ア」に近くなったりする。また、文末などで柔らかな上昇調を使うことがあるが、これは米国の若い世代の女性に多い話し方だ。しかし、それ以外、特徴的な訛りはほとんどない。全体的にはやや速めだが、落ち着いた話し方で、声もはっきり出ているため、聞き取りやすい英語と言えよう。

Interview Data	
収録日	2005年3月7日
収録地	ロサンゼルス（アメリカ）
スピード	普通
語彙	普通
発音	明瞭

ヒラリー・スワンク
Hilary Swank
1974年7月30日、アメリカ・ワシントン州生まれ。『ベスト・キッド4』（1994年）で注目を集める。人気テレビドラマ「ビバリーヒルズ青春白書」に出演（1997～’98年）。『ボーイズ・ドント・クライ』（1999年）でアカデミー最優秀主演女優賞を受賞。『ミリオンダラー・ベイビー』（2004年）で2度目のアカデミー最優秀主演女優賞に輝いた。
女性ボクサーを描いた『ミリオンダラー・ベイビー』で、30代前半にして2度目のアカデミー主演女優賞受賞という偉業を達成したヒラリー・スワンクが、イーストウッド監督の映画作りや、栄華とは無縁の生い立ちについて、気取りのない口調で語る。

The Biggest Challenge

DL Track02

用語解説 語注

Reporter: You've physically [transformed](#) yourself for roles before, so it's not surprising -- I realize that's part of the actor's [craft](#) -- but what surprised you about what you had to do for [this role](#)?

Hilary Swank: How much mentally this was a challenge. Um, obviously the physical part is obvious. When I was asked to gain 10 [pounds](#) of muscle, I did gain 19. Like you said, that's a part of my job, and if I'm gonna play a boxer, I'd better look like a boxer. But I think just mentally the challenge that [I'd](#) faced, whether it be of -- you know, telling myself, "Oh, I can't, 'cause I'm really tired today," or -- of course I would go, but that was really, I think, the biggest challenge that I had. And the biggest, probably, lesson that I learned [is](#) that the [obstacles](#) I would set for myself were the biggest [thing](#) I had to overcome.

Reporter: You're not just physically changing yourself, but you're also changing your attitude about something as basic as getting hit.

Swank: Uh-hum.

Reporter: Because I think -- in fact, [Morgan](#) was just saying this in New York -- I think most people's response, and I so, I know mine is, if somebody hits me, I'm gonna [back away](#) or, or try not to get hit, and instead as a boxer when you're getting hit you have to keep going.

Swank: The first time I hit somebody I said, "Ah! Sorry." And my trainer [about](#) threw me out of the gym. Then I said to him, "Sorry!" He's like, "You're still doing it!" And I [went](#), "S . . ." and stopped. And then realized that, you know, I didn't understand the game of boxing. Um, I didn't understand boxing and I didn't really even think about boxing. I didn't really get the [appeal](#) of hitting someone and getting hit. And then I, what I realized as I learned more about it is that it's so [strategic](#). It's like a great chess game.

And when you're in the ring, you are one with that person, and there's nothing else that you're thinking about except [their strengths, their weakness](#), and [in turn](#) you learn your strength and your weaknesses. And the amazing thing about that is each new person you'd be boxing, you would learn different strengths and weaknesses because of them. Also, the second that you think, "I got this one" and get [cocky](#), you'd lose. It's just a [reminder](#) to always stay [humble](#) and be thankful and respectful to the other person that you're fighting, working with, meeting. It was a really interesting [parallel](#) to life, really. Boxing is [a great parallel, um, an analogy](#) to life, in my opinion.

And I trained four to four and half hours a day, six days a week, for three months. That was before we started filming. And as we filmed I kept training, um, and boxing and [working out](#). You know, I had to eat about 210 grams of [protein](#) a day and there was a point where I could only eat 50 grams of [carbs](#) a day. And just to give you an example of that; eight-[ounce](#) glass of apple juice has 30 grams of carbs in it. So it was challenging and it was a really strict diet. I was drinking egg whites and, uh . . . I needed nine hours of sleep a night for my body to be able to recover, um, your muscles have to rest. But I couldn't go that long without eating, so I'd have to wake up and drink [protein shakes](#). You know, it was interesting.

Reporter: What did you learn from [Clint Eastwood](#) that you think will stay with you?

Swank: Yeah. Um, I would say that if I had to pick one thing -- oh, it's hard to pick one. Um, I think ultimately: this business doesn't have to work the way it does. Clint works very differently -- and it can be [civil](#) on a set; and it can be fun; and everyone should respect everyone else.

Reporter: Well, and that was uh, [illuminating](#) for you?

Swank: Yeah, because I don't think I've ever worked on a movie that there wasn't screaming or drama or working 14, 16, 18, 22 hours. The longest day we had was 12 hours and that was with a [company move](#).

Clint is [down to earth](#): He will wait in line behind 50 people in a lunch line; No one even asked him to go forward 'cause he won't do it. Th -- he gets on his hands and his knees and he moves his own marks; he doesn't act like a movie star; he [hangs out with](#) the [crew](#). Hardly ever in his [trailer](#) unless he had, you know, a big scene that he had to go look at his [lines](#) 'cause he's also directing. Um, you know, so he had to look at his lines every once in a while. But it just shows.

And any other actor that's worked with him will say the same thing. A Clint Eastwood movie proves that it doesn't have to be the way it is.

Reporter: I mean, there is [Oscar buzz](#), we see it on the Internet all the time about this role or this movie. Is it easier [having been buzzed before](#)?

Swank: Uh, you know, I think before I felt like I was kind of shot out of a cannon. I did some, [a small movie](#) that you hope would have an audience and people would go to, 'cause it was an important movie and, you know, I was proud to be a part of it, and . . . It's always a surprise. People talking about the Academy Awards, it always takes you by surprise. You know, I'm a girl from a [trailer park](#); I never imagined having an Academy Award. I just wanted to act and escape and [relate](#), and I pinch myself all the time.

It is always surreal even though, you know, obviously I experienced it before. Because ultimately you take on a job because you love the story and you want to tell that story and you want to be a part of it. Obviously, working with Clint and Morgan, the whole thing was a dream come true for me. I really, really am proud to be a part of this movie. And I think ultimately when you're doing it, you're not really thinking about the outcome, you're just in it. And the experience, as a whole, was so amazing. And I learned so much from Clint and am so grateful to him. All the talk is great. I mean I think it's Clint's best acting performance [to date](#), he's 74 and he is, I think, astonishing in it.

Reporter: You're a girl from a trailer park, from [Lincoln, Nebraska](#). How do you think the folks in the trailer park are going to take to the [depiction](#) of people from [fly-over country](#), because Maggie's family is, you know, not . . .

Swank: Well, my family is not like Maggie's family, thank God. My mother is really an amazing [woman who has, gave me](#) the, one of the biggest gifts, I think -- no -- the biggest gift you can ever give someone, and she told me that I could do anything I wanted as long as I worked hard enough. And she believed in me. To me, that's also kind of a theme of this movie -- you know, that relationship. The power of a [mentor](#) and someone believing in you, is a very, very powerful thing.

But, you know, I think that families, there's [dysfunctional](#) families, there's things that are worse than this family, um, I think it [runs the gamut](#). And, you know, I've seen a lot of characters in my life, that's . . . part of my job is to play those characters and those people, and tell those stories. And, you know, you can't worry about what people are gonna think, and, and if they take it personal, they might have some issues they need to work out.

Unlike a Movie Star

DL Track05

用語解説 語注

Reporter: You walked in the room and you're so unlike a movie star. I could see you, like [on](#) the [clothes rack](#) near me in [Nordstrom](#) or something; you'd be like a [regular](#).

Swank: That's great. That's one of the best [compliments](#) I think any actor can get because, you know, I live in New York, I ride the subway and I walk around and I don't [isolate](#). And I think that some people can really [fall into a trap](#) of being a movie star. And I think the second that that happens you really lose touch with people, and ultimately that's what we're doing -- is telling people's stories. Um, so that's a really nice compliment, thank you.

tanslation ▶

*Interviewed by Jordan Riefe / Planet Syndication
Narrated by John Rankin*

最大の試練

DL **Track02**

記者：あなたはこれまでも役のため肉体改造をなさってきたので、びつくりはしませんが――それが俳優の技術の一部だとわかっていますし――この役のためにしなければならなかったことで、何が驚きでしたか？

ヒラリー・スワンク：これがどれほど精神的に厳しいものだったか、という点ですね。明らかに、肉体的な部分はわかりやすいですよ。筋肉を**10ポンド（4.5キログラム）**ほど増やしてほしいと言われて、実際に**19ポンド（8.6キログラム）**増やしました。おっしゃるとおり、それが私の仕事の一部ですし、ボクサーを演じる以上、ボクサーらしく見えたほうがいいわけですから。でも、純粹に精神的な面で私が直面した困難は――つまり、「ああ、今日はすごく疲れてるから無理だわ」と独り言を言うことだったり――もちろん（練習には）行きましたけど、思えば、それが本当に、私が直面した最大の試練でした。そしておそらく私が学んだ一番重要な教訓というのは、自分自身のために自分が設定した障害が乗り越えなければならない最大のものだった、ということだと思います。

記者：単に肉体的に自分自身を変えるだけではなく、殴られるという、きわめて基本的なことに對して意識改革をされましたよね。

スワンク：ええ。

記者：それというのも、思うに――実は、モーガンが先日ニューヨーク（での会見）でこう言っていたのですが――ほとんどの人の反応は、私もそうなんですけど、誰かが殴りかかってきたら、後ずさりするか、殴られないようによけようとするものだと思うのですが、ボクサーなら逆に、殴られているときに向かつていかなきゃいけないですよ。

スワンク：初めて人を殴ったとき、「あら！　ごめんなさい」と言っしまいました。それで、あやうくトレーナーにジムから放り出されそうになりました。それで彼に「ごめんなさい！」と言ったら、彼は「まだやってる！」って。それで私はまた「ごめ・・・」と言って、途中でやめました。それで私は、そう、ボクシングの試合というものを理解していないことに気付いたんです。ボクシングというものをわかっていなかったし、ボクシングについてちゃんと考えることすらありませんでした。人を殴り、殴られることの魅力が、いまひとつわかっていませんでした。そしてやがて、より深く学ぶにつれてわかったのは、これがきわめて戦略的なものであるということでした。さながら素晴らしいチェスの試合のようなものです。

そしてリングの中にいるときは、相手と一つになり、相手の強さ、相手の弱さ以外は何も考えず、言い換えると、自分の強さと弱さも知ることになるのです。そして素晴らしいのは、新しい相手とボクシングをするたびに、彼らのおかげで、また別の強さや弱さを知ることになるのです。さらに、「これはもらった」と思って図に乗った瞬間、負けてしまいます。とにかく、常に謙虚で、戦う相手と一緒に仕事をする人や会おう人に対して感謝し敬意を持つようにすべきだということを思い出させてくれるのです。それは本当に、人生に相通じる興味深いものでした。私の考えでは、ボクシングは人生に見事に相通じるもの、人生の例えなんです。

私は3カ月間、週6日、1日4時間～4時間半、トレーニングをしました。撮影に入る前の話です。そして撮影に入ってから、トレーニングとボクシングとワークアウトを続けました。そう、毎日**210グラム**ほどのタンパク質を摂取する必要がありました。そして、ある時点では、1日当たり**50グラム**しか炭水化物を摂取してはいけないう時期がありました。それがどのくらいかというと、例えば、**8オンス（約240ミリリットル）**入るコップ**1杯**のリンゴジュースに含まれている炭水化物が**30グラム**です。だから、それは非常に過酷で、本当に厳しい食事制限でした。卵の白身を飲んでいましたし・・・体が回復できるよう、毎晩**9時間**の睡眠が必要でした。筋肉を休めなくてははいけませんから。でも食事をとらずにそんなに長時間は過ごせないんで、（途中で）起きて、プロテイン・シェークを飲まなくてははいけませんでした。ですから、興味深い体験でした。

【原文】▶

イーストウッドとともに

DL **Track03**

記者：クリント・イーストウッドから学んだことで、これからあなたの中に残ると思うものは何ですか？

スワンク：そうですね。もし1つだけ選ばなくてはいけないとしたら――1つに絞るのは難しいわ。ええと、つまるところ、この仕事は現在のようなやり方でなくてもやれる、ということだと思います。クリントさんの仕事のやり方はまったく違います――撮影現場で礼儀正しくもできるし、楽しむこともできる。そして、誰もが他人に敬意を払うべきなのです。

記者：つまり、それはあなたにとって目を開かせる発見だったのですか？

スワンク：ええ、だって私はこれまでに、叫び声も、大事件も、**14、16、18、22**時間働き詰めということもないような映画をやった記憶がないですから。（この映画で撮影が）一番長かった日は**12**時間でしたが、それはスタッフ全員の移動があったときでした。

クリントさんは地に足が着いた人です。彼は昼食の列で**50**人の後ろに並んで待つんです。誰も先に行くように勧めようとしなかったんですが、それは彼が絶対に聞き入れないからです。彼は四つんばいになって、自ら立ち位置の印を動かしたりします。彼は映画スターのように振る舞ったりしません。スタッフと行動を共にします。そう、監督もしているため、重要なシーン（の撮影）があつて、前もって自分のせりふを確認しておく必要があるのでもない限り、自分のトレーラーにこもることもほとんどありません。その、ほんのたまに、自分のせりふを確認する（ためにトレーラーにこもる）ことはありましたけど。でも、それは見ればわかります。

彼と仕事をしたことがある俳優なら、誰でも同じことを言うと思います。クリント・イーストウッドの映画は、現状のやり方を踏襲する必要はないということを証明しているんです。

【原文】[▶](#)

トレーラー・パーク出身の女

DL **Track04**

記者：その、オスカーの可能性がさやかれていますね。この役やこの映画に関するうわさをインターネット上でしょっちゅう見かけます。前にも同様の経験をされているから、少しは気が楽ですか？

スワンク：ええと、そうですね、前は、いわば大砲から発射されたような気分でした。私が出演したのは小さな映画で、重要な映画だから、願わくは観客をつかみ、みなさんに見てもらいたいと思っていましたし、あの映画に参加できたことを誇りに思っていました・・・ただ、いつだって驚きですよ。周りの方がアカデミー賞の話をしてくださるのは、いつだって驚きです。だって、私はトレーラー・パーク出身の女です。アカデミー賞を受賞するなんてことは、思いもよらなかったのですから。ただ演技をして、逃避して、共感したかっただけで、いつも（夢じゃないかと）自分をつねっているほどです。

それはいつだって非現実離れしたものです、確かに以前にも経験したとはいえね。なぜなら、結局、仕事を引き受けるのは、自分がそのストーリーを気に入る、それを伝えたいから、その物語に参加したいからです。もちろん、クリントさんやモーガンさんと共演することや、すべてが私にとって夢のようなことでした。私は本当にこの映画に参加できたことを誇りに思います。思うに、結局、やっている間はあまり結果のことは考えてないんです。ただ没頭してるんです。この経験全体が、とにかく素晴らしかったです。私はクリントさんから多くを学びましたし、心から感謝しています。彼と話し合うことのすべてが素晴らしいんです。この映画でのクリントさんの演技はこれまでで最高のものじゃないかしら。彼は**74歳**ですけど、この映画での彼は驚異的だと思います。

記者：あなたはネブラスカ州リンカーンにある、トレーラー・パーク出身の女性です。（映画の中の）アメリカ中部の人々の描写について、トレーラー・パークに住む人々はどのような反応を示すと思われますか？　というのも、マギーの家族は、ほら、ちょっと・・・

スワンク：私の家族はマギーの家族とは違います、ありがたいことに。母は本当に素晴らしい女性で、私に最も偉大な贈り物のひとつを、私が思うに——いえ——人が誰かに与え得る最も偉大な贈り物を私に与えてくれましたし、それに母は、一生懸命やりさえすればやりたいことは何だってできる、と私に教えてくれました。そして、母は私を信じてくれました。私にとっては、それもまた、この映画のテーマのひとつだと思います、そのような関係がね。良き指導者と自分を信じてくれる人が持つ力は、非常に、とてつもなく強力なものなのです。

でも、そうですね、家族というのは、壊れた家族もありますし、この家族よりひどい家族もあると思います。それこそビンからキリまでですよ。私もこれまでの人生で、ありとあらゆる人物を見てきましたし、それが・・・そのような人物や人々を演じて彼らの物語を伝えることは、私の仕事の一部だと思っています。人がどう思うかということを気にしてはいられませんし、もし個人的に（中傷されたと）取る人がいれば、ご自身で解決すべき問題を抱えているということじゃないかと思います。

【原文】[▶](#)

映画スターらしくない女優

[DL](#) [Track05](#)

記者：あなたが部屋に入って来られて思いましたが、全然映画スターらしくない方ですね。ノードストロームの洋服売り場かどこかで、近くに立っていそうな感じです。ごく普通のお客さんみたいに。

スワンク：うれしいですね。それはどんな俳優にとっても最高の褒め言葉だと思います。だって、私はニューヨークに住んでいて、地下鉄にも乗るし、歩き回るし、人を遠ざけたりもしません。映画スターであることで、ある畏にすっからはまってしまう人もいると思います。そして、そうなった瞬間、何が起ころかというと、人々から乖離してしまうんです。でも、結局のところ、それが私たちがやっていることですから——人々の物語を語ることが。だから、それはとても素敵な褒め言葉だと思います。どうもありがとう。

[【原文】](#) [▶](#)

Vocabulary List

A

□**appeal** 魅力、興味を起こさせるもの

B

□**back away** あとずさりする、身を引く

□**buzz** うわさ

C

□**carb** 炭水化物 ★= carbo-hydrate

□**civil** 礼儀正しい、丁重な

□**clothes rack** 洋服掛け

□**cocky** 図に乗る、自信過剰な、うぬぼれた

□**compliment** 賛辞、褒め言葉

□**craft** 技術、技能

□**crew** 一団、チーム

D

□**depiction** 描写

□**down to earth** 現実的な、地に足の着いた、率直な

□**dysfunctional** 正常に機能しない、機能不全の

F

□**fly-over country** アメリカ中部 ★政治・経済・文化の中心地である大都市が偏在する東海岸と西海岸間を行き来する「飛行機が上空を通過するだけの土地」の意。

G

□**go** ★= say

H

□**hang out with ~** ~と付き合う、~と行動を共にする

□**humble** 謙虚な、つつましい

I

□**illuminating** 啓発する、明らかにする、光明を投ずる

□**in turn** 同時に、言い換えると

□**isolate** 孤立させる、隔離する

L

□**line** せりふ

M

□**mentor** 良き指導者、助言者、庇護者

O

□**obstacle** 障害

□**Oscar** オスカー像 ★アカデミー賞受賞者に与えられる小さな黄金の立像。転じてアカデミー賞を指す。

□**ounce** オンス ★1オンス= 29.57ミリリットル。

P

□**parallel** 匹敵（するもの）、比較、対比

□**pound** ポンド ★1ポンド=約 453.6グラム。

□**protein shake** プロテイン・シェーク ★タンパク質を大量摂取できるよう配合された流動食のような飲み物。

□**protein** タンパク質

R

□**relate** 共感する

□**reminder** 思い出させるためのもの、注意、暗示、注意喚起

□**run the gamut** ビンからキリまで全域にまたがる ★gamut は「全領域、全範囲」。

S

□**strategic** 戦略的な

T

□**to date** 今までのところ

□**trailer park** トレーラー・パーク ★トレーラー・ハウスを止めておく場所のこと。レジャーとしてではなく、持ち家を手に入れることができない人々が居住地として住むことが多い。

- trailer** トレーラー ★俳優、特にスターの控え室として映画撮影現場に設営される、トレーラーハウス（自動車で牽引する移動住宅）のこと。
- transform** 変貌させる

W

- work out** トレーニングする、体づくりをする

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	スワンクは、自分がボクサーらしく見えるよう筋肉を10ポンド以上増やした。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	スワンクは、この映画にかかわる以前からボクシングの知識も経験もあった。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	ボクシングの試合は人生のようだと言う人がいるが、スワンク自身はそうは思っていない。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	イーストウッド監督の撮影現場は厳しく、1日に12時間を超える長時間の撮影は当たり前のようなようだった。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	イーストウッドは映画界の大物であるにもかかわらず、現場ではみなと行動を共にし、大スターのような素振りを見せなかった。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	イーストウッドの映画作りはハリウッドの伝統的手法そのものだ、とスワンクは評している。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	スワンクは、前回のアカデミー賞受賞について、裕福でない家庭に育った者にとっては思いもよらないことだったと述べている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	スワンクは、今回の映画のアカデミー賞受賞の可能性については、ストーリーが気に入り仕事を引き受けた時点である程度予感した。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	スワンクの母親はスワンクに挑戦する勇気を与えてくれ、また、彼女のことをいつも信じていてくれた強力な理解者だった。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	スワンクは、自分が「映画スターらしく見えない」と会見の記者に言われ、それを褒め言葉として受け止めている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

答え [▶](#)

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	スワンクは、自分がボクサーらしく見えるよう筋肉を10ポンド以上増やした。	C	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	スワンクは、この映画にかかわる以前からボクシングの知識も経験もあった。	C	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
3	ボクシングの試合は人生のようだと言う人がいるが、スワンク自身はそうは思っていない。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
4	イーストウッド監督の撮影現場は厳しく、1日に12時間を超える長時間の撮影は当たり前のようなようだった。	A	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
5	イーストウッドは映画界の大物であるにもかかわらず、現場ではみなと行動を共にし、大スターのような素振りを見せなかった。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	イーストウッドの映画作りはハリウッドの伝統的手法そのものだ、とスワンクは評している。	A	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
7	スワンクは、前回のアカデミー賞受賞について、裕福でない家庭に育った者にとっては思いもよらないことだったと述べている。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	スワンクは、今回の映画のアカデミー賞受賞の可能性については、ストーリーが気に入り仕事を引き受けた時点である程度予感した。	A	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
9	スワンクの母親はスワンクに挑戦する勇気を与えてくれ、また、彼女のことをいつも信じていてくれた強力な理解者だった。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	スワンクは、自分が「映画スターらしく見えない」と会見の記者に言われ、それを褒め言葉として受け止めている。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

用語解説

this role

★*Million Dollar Baby*（『ミリオンダラー・ベイビー』、2004年アメリカ映画）でスワンクが演じた主役の女性ボクサー、マギーのこと。監督クリント・イーストウッド、共演モーガン・フリーマン。互いに心に傷を持つ女性ボクサー、マギーと、老トレーナー、フランキー（イーストウッド）が、トレーニングを通して深い絆で結ばれる人間ドラマ。2005年アカデミー賞で、最優秀作品賞、監督賞、主演女優賞、助演男優賞の主要4部門を制した。

[▶本文に戻る](#)

Morgan (Freeman)

モーガン（・フリーマン） ★（1937-）。アメリカの俳優。過去3度のノミネートを経て、『ミリオンダラー・ベイビー』で初のアカデミー賞最優秀助演男優賞に輝いた。代表作に『ドライビング Miss デイジー』（'89年）、『許されざる者』（'92年）、『ショーシャンクの空に』（'94年）ほか。

[▶本文に戻る](#)

Clint Eastwood

クリント・イーストウッド ★（1930-）。アメリカの俳優・映画監督。『荒野の用心棒』（'64年）に代表されるマカロニ・ウェスタン（イタリアで撮影された西部劇）で人気を博し、「ダーティーハリー」シリーズ（'71、'73、'76、'83、'88年）でスターの地位を確立。監督としては『許されざる者』（'92年）でアカデミー賞最優秀監督賞を受賞。『ミスティック・リバー』（2003年）で再び同賞最優秀監督賞にノミネートされる。そして自ら主演も務めた『ミリオンダラー・ベイビー』は、アカデミー賞7部門にノミネートされ、うち主要4部門を受賞。いまや名実ともにアメリカ映画界を代表する巨匠となっている。

[▶本文に戻る](#)

having been buzzed before

★映画『ボーイズ・ドント・クライ』でアカデミー賞を獲得したときのことを言っている。

[▶本文に戻る](#)

a small movie

★スワンクが初のオスカーに輝いた『ボーイズ・ドント・クライ』（1999年）を指している。スワンクは、性同一性障害に苦しみ、男性として生きようとして無残にも殺害された実在の女性を熱演。初のアカデミー賞最優秀主演女優賞に輝いた。

[▶本文に戻る](#)

Lincoln, Nebraska

ネブラスカ州リンカーン ★ネブラスカ州はアメリカ中部の州で、リンカーンはその州都。スワンクは、実際にはワシントン州出身。

[▶本文に戻る](#)

Nordstrom

ノードストローム ★アメリカの百貨店。

[▶本文に戻る](#)

語注

transform

変貌させる
[▶本文に戻る](#)

craft

技術、技能
[▶本文に戻る](#)

pound

ポンド ★1ポンド＝約 453.6グラム。
[▶本文に戻る](#)

I'd

★正しくは I。
[▶本文に戻る](#)

is

★正しくは was。
[▶本文に戻る](#)

obstacle

障害
[▶本文に戻る](#)

thing

★正しくは things。
[▶本文に戻る](#)

back away

あとずさりする、身を引く
[▶本文に戻る](#)

about

★= just about、nearly
[▶本文に戻る](#)

go

★= say
[▶本文に戻る](#)

appeal

魅力、興味を起こさせるもの
[▶本文に戻る](#)

strategic

戦略的な
[▶本文に戻る](#)

their strengths, their weakness

★= his/her strengths, his/her weaknesses。次の your strength and your weaknesses は your strengths and your weaknesses となるべき。
[▶本文に戻る](#)

in turn

同時に、言い換えると
[▶本文に戻る](#)

cocky

図に乗る、自信過剰な、うぬぼれた
[▶本文に戻る](#)

reminder

思い出させるためのもの、注意、暗示、注意喚起
[▶本文に戻る](#)

humble

謙虚な、つつましい
[▶本文に戻る](#)

parallel

匹敵（するもの）、比較、対比
[▶本文に戻る](#)

a great parallel, um, an analogy

★a great parallel を an analogy と言い換えている。analogy は「類似、共通点、一致」。
[▶本文に戻る](#)

work out

トレーニングする、体づくりをする
[▶本文に戻る](#)

protein

タンパク質
[▶本文に戻る](#)

carb

炭水化物 ★= carbo-hydrate
[▶本文に戻る](#)

ounce

オンス ★1オンス＝ 29.57ミリリットル。
[▶本文に戻る](#)

protein shake

プロテイン・シェーク ★タンパク質を大量摂取できるよう配合された流動食のような飲み物。
[▶本文に戻る](#)

civil

礼儀正しい、丁寧な

[▶本文に戻る](#)

illuminating

啓発する、明らかにする、光明を投ずる

[▶本文に戻る](#)

company move

★ロケーションの場所の変更のためにキャストや撮影スタッフ全員が移動したことを指している。

[▶本文に戻る](#)

down to earth

現実的な、地に足の着いた、率直な

[▶本文に戻る](#)

hang out with ~

～と付き合う、～と行動を共にする

[▶本文に戻る](#)

crew

一団、チーム ★ここでは撮影スタッフのこと。

[▶本文に戻る](#)

trailer

トレーラー ★俳優、特にスターの控え室として映画撮影現場に設営されるトレーラー・ハウス（自動車で牽引する移動住宅）のこと。

[▶本文に戻る](#)

line

せりふ

[▶本文に戻る](#)

Oscar

オスカー像 ★アカデミー賞受賞者に与えられる小さな黄金の立像。転じてアカデミー賞を指す。

[▶本文に戻る](#)

buzz

うわさ ★下の buzz は動詞として使われている。このインタビューが行われたのはアカデミー賞授賞式の前なので、こう言っている。

[▶本文に戻る](#)

trailer park

トレーラー・パーク ★トレーラー・ハウスを止めておく場所のこと。レジャーとしてではなく、持ち家を手に入れることができない人々が居住地として住むことが多い。映画の中では、主人公マギーの故郷の家族がトレーラー・パークに住み、収入を偽って生活保護を受けるなど、ずさんだ生活をしているさまが描かれている。

[▶本文に戻る](#)

relate

共感する

[▶本文に戻る](#)

to date

今までのところ

[▶本文に戻る](#)

depiction

描写

[▶本文に戻る](#)

fly-over country

アメリカ中部 ★政治・経済・文化の中心地である大都市が偏在する東海岸と西海岸間を行き来する「飛行機が上空を通過するだけの土地」の意。

[▶本文に戻る](#)

woman who has, gave me

★has (given) を gave と言い直している。

[▶本文に戻る](#)

mentor

良き指導者、助言者、庇護者

[▶本文に戻る](#)

dysfunctional

正常に機能しない、機能不全の

[▶本文に戻る](#)

run the gamut

ピンからキリまで全域にまたがる ★gamut は「全領域、全範囲」。

[▶本文に戻る](#)

on

★near、by、next toの方が適切。

[▶本文に戻る](#)

clothes rack

洋服掛け

[▶本文に戻る](#)

regular

★= regular customer

[▶本文に戻る](#)

compliment

賛辞、褒め言葉

[▶本文に戻る](#)

isolate

孤立させる、隔離する ★本来、他動詞だが、アメリカ英語ではこのように自動詞的に用いる例もよく見られる。I don't isolate myself とする方が文法的に正しい。

[▶本文に戻る](#)

fall into a trap

★fall into the trap と言うことが多い。

[▶本文に戻る](#)



Hugh Grant

写真：Tristan Gregory/Camera Press/ アフロ

Hugh Grant

“I genuinely believe that light comedy acting is as hard, if not harder, than serious acting.”

「僕は、軽いコメディーの演技はシリアスな演技と同じくらい難しい—それ以上に難しいわけじゃないとしても—と心底から思ってるんだ」

Supervising Editor’s Comment

英国英語は、米国英語よりも強弱のメリハリが強く、高低の変化も多い。彼の場合は特に、いわゆるオックスブリッジ出身者の話し方だ。どことなくツンとした話し方で、日本人には馴染みのないような単語を多く使い、遠まわしに物事を表現するのが特徴。しかも、早口。「Midlife Crisis」中程のDo you know there was about six months ... の速さと崩れは、非常に英国英語らしい。しかし、同時に英国英語の難しさも象徴した個所だ。

Interview Data	
収録日	2006年3月24日
収録地	ニューヨーク（アメリカ）
スピード	速い
語彙	難しい
発音	明瞭

ヒュー・グラント
Hugh Grant
1960年9月9日、イギリス・ロンドン生まれ。名門オックスフォード大学で英文学を学ぶ。仲間と立ち上げた喜劇団で各地を巡業後、映画界に進出。『モーリス』（1987年）で脚光を浴び、『フォー・ウェディング』（1994年）で、スターの仲間入りを果たす。以後、「ブリジット・ジョーンズの日記」シリーズ（2001年、04年）などのロマンチック・コメディーを中心に幅広く活躍。ケンブリッジ大学を舞台にした『モーリス』での美青年ぶりで世界中の女性を魅了したヒュー・グラントもいまや40代。お得意のロマコメや「イヤな奴」役などで軽妙洒脱な名演技を見せる彼が、「中年の危機」やコメディー作品について、格調高いイギリス英語でシニカルに語る。

In the Limelight

DL Track07

用語解説 語注

Reporter: OK. We've got our first question here. Based on your experience of fame and [celebrity](#), do you think [Tweed](#) was ever a nice person?

Hugh Grant: Ha-ha. Um, no. I don't, actually. I think he was very [damaged](#) very early on. I think he was born damaged, actually. [Insofar as I think](#) that the [gene](#) that some people are born with, which makes them want to be famous, want to be in the limelight is damage. It's like being born [deformed](#), actually. Ha-ha. And I think his was incredibly powerful, and my theory was that he was determined, whatever happened, to be successful or famous, despite the fact that, as his mother said, he had no talent and no one liked him.

Reporter: In the beginning, were you someone who wanted to be famous?

Grant: Ha-ha. I honestly don't think I was. I didn't ever think, "I want to be in the, [massively](#) in the sort of world limelight." [Definitely not](#). Little bit of local limelight. I quite liked being the [centre](#) of attention, you know, out to lunch with my family or something, but [that's as far as it went](#).

translation ▶

Reporter: Would you [be tempted to work](#) in television?

Grant: You know, if you, I don't think I'd want to particularly host a show, but I [am quite susceptible to reality television](#). I'm [ashamed of](#) that part of myself, as I'm sure we all are. And there are some good ones. There's one in England called [Wife Swap](#) which I particularly like. There was a brilliant one recently where they took a lot of [delinquent](#), violent teenagers and put them through -- did you see this? -- a 1950's education and another one where they put them through an army [boot camp](#); brilliant, really [fascinating](#).

Reporter: Do you think reality television has [hindered](#) the making of big stars? It's like we have fewer than we used to.

Grant: I've never, I haven't thought about that. Although someone made an interesting point yesterday that, in a way it's quite nice for people who are, for instance, just want to do the acting and leave it at that, that if you've got these people coming off celebrity shows, if the [paparazzi](#) would [chase](#) them instead, it does leave, you know, a little bit of peace for other people.

tanslation ▶

Reporter: In the 90's, you were a bit of a favourite with the women, you know, you did a few romantic comedies and the ladies loved you. Now, in this decade, you seem to be playing the role of a bit of an [arse](#). Do you think you're gonna keep the female fans?

Grant: Uh, well, you know, that's not my main [consideration](#) in life, and, you know, some of the less [cuddly](#) characters I've played, like in [Bridget Jones's Diary](#) or in [About a Boy](#), there are women who do quite like that kind of person, actually. So I'm not sure you're right about that. Anyway, I start tomorrow in another romantic comedy, in which I play an 80's pop star who's [fallen on hard times](#). And he's relatively [likeable](#). He's not an "arse."

Reporter: You have [accomplished](#) so many things so far, but do you still have a dream that you wish to [come true](#)?

Grant: Well, I mean, I still hope to [going](#) back to being [properly](#) creative like I was in my mid-20's, which is 20 years ago now. But I remember feeling -- you know, with doing those comedy shows in little [pubs](#) in London -- I remember feeling like a real man [at the end of the day](#). It was our show, we'd written it, we performed it, and I felt more alive and more like a man then than I have after any day's filming on a [mega-budget](#) film.

Reporter: You're entering your 40's, do you think you've changed your [outlook](#) on fame and celebrity?

Grant: Uh, maybe a bit, yeah. You get a bit [weary](#) and a bit [wary](#). Yes, yes.

Reporter: How do you imagine your [midlife crisis](#) to be?

Grant: Um, I don't know. I think I've had it, actually. I think I've had it. Look at that [Aston Martin](#). If that's not a midlife crisis, I don't know what is, um. Do you know there was about six months where I wore some quite [dodgy](#) shirts and, uh, just a bit too tight, but that was about five years ago. I think [I'm through](#) it, yeah. I did [burst into tears](#) watching [Finding Nemo](#) the other day, so maybe that's a midlife crisis as well.

Reporter: We know ageing is a huge [issue](#) in [Hollywood](#) and you've got quite a close-up in the beginning of the film. You always say you hate watching yourself on film, how do you feel now? Is it still [horrible](#) to you?

Grant: Uh, I'm very [hurt](#) by your question, actually. I had never even thought there was anything wrong with that close-up. OK, I'm a little [craggy](#) now. OK, OK. I play a bit of golf [in the open air](#), that happens. [Bitch](#). Um, no I, I'm not one, I really don't care. I really honestly don't care.

Comedy Acting is Harder

DL Track10

用語解説 語注

Reporter: You don't seem to care about image anymore but I remember every time you did a [Merchant Ivory film](#) people would say, "Wow, Hugh Grant can really act." Were you finding that you were getting [negative criticism](#) when you were doing the lighter stuff, and did you want to do more serious [stuff](#) to improve your image?

Grant: Um, no, I've never been tempted to do that, to go and do the part where I cry or get [AIDS](#) or, you know, save some people from a [concentration camp](#) just to get good reviews. I [genuinely](#) believe that [light comedy](#) acting is as hard, if not harder, than serious acting. And it genuinely doesn't [bother](#) me that all the prizes go to -- and the good reviews, [automatically](#), by [knee-jerk](#) reaction go to -- the deepest, darkest, serious, most serious performances and parts. It makes me laugh.

Reporter: Do you ever get tired of people [kissing your arse](#) all the time?

Grant: No, [the more the merrier](#). I don't get enough.

Reporter: Thank you very much.

Grant: All right. Thank you.

translation ▶

*Interviewed by Jordan Riefe / Planet Syndication
Narrated by Sharon Hennessy, Peter von Gomm*

脚光を浴びること


 [DL](#)  [Track07](#)

記者：さて、これが最初の質問です。有名になって名声を得ることに関するご自身の経験に照らしてみて、トウィードという人物は、かつてはいい人間だったこともあったと思われますか？

ヒュー・グラント：ははは。いいえ。そうは思わないですね、実のところ。彼は幼少のころにひどいダメージを受けてしまったんだと思います。生まれながらにして障害があつたんじゃないかと思いますよ、実は。つまり、一部の人が持つて生まれる、有名になりたい、脚光を浴びたい、と願わせる遺伝子というのは障害なんです。実際、生まれつきの奇形みたいなものです。そして、彼のその遺伝子はものすごく強力で、僕の説では、彼は何があらうと成功して有名になろうと心に決めていたんですよ。たとえ事実は、本人の母親が言ったように、何の才能もなく、誰にも好かれていなかったとしても。

記者：そもそも、あなたは有名になりたいと思っていた人でしたか？

グラント：はは。正直、そうではなかったと思います。「ものすごく、世界的といえる規模で脚光を浴びたい」と思ったことは一度もありませんでした。絶対にないですね。地元で少々脚光なら浴びたかったですけど。注目の的になるのはとても好きでしたから、ほら、家族と昼食に出かけた時なんかは。でも、その程度のものでしたね。

[【原文】](#) 

リアリティー・テレビ


 [DL](#)  [Track08](#)

記者：テレビで仕事をしたいと思われませんか？

グラント：そうですね、もしも、特に番組の司会をしたいとは思いませんが、リアリティー・テレビ番組にはけっこう弱いんですよ。自分のそういう部分は恥ずかしいとは思いますが、きっとみんなそうでしょう。それに面白いのもあるんですよ。イギリスに僕が特に好きな『ワイフ・スワップ』というのがあります。最近素晴らしい回があって、非行少年や暴力少年のティーンエイジャーをたくさん集めてそいつらに――この番組、見ました？――1950年代流の教育を施したり、別の回では軍隊の新兵訓練を体験させたりするんです。素晴らしい、本当に面白い番組です。

記者：リアリティー・テレビ番組は、大スターの出現を妨げていると思われませんか？ 昔に比べて、スターが減ってきているように思うのですが。

グラント：それについては考えたことはないですね。昨日、面白いことを言った人がいましたけどね。例えば、ただ演技をやりたくて、ほかのことに煩わされたくない人間にとっては、ある意味、すごくいいことだって。有名人を輩出する番組出身の人たちがいて、パパラッチが代わりにそういうやつらを追いかけ回してくれば、確かに、そう、ほかの人々には少しばかり平和が訪れますよね。

[【原文】](#) 

中年の危機

 [DL](#)  [Track09](#)

記者：1990年代、あなたは女性の憧れの的でしたよね、いくつかロマンチック・コメディーに出演なさって、ご婦人方はあなたに夢中でした。現在、ここ10年ほど少々下劣な役を演じられているように思います。それでも女性ファンの心をつなぎとめることができると思われますか？

グラント：まあ、そうですね、それが僕の人生の最重要課題というわけではありませんが、それに、そう、『ブリジット・ジョーンズの日記』や『アバウト・ア・ボーイ』でやったような、あまりかわいらしくない役ですが、ああいう役をすごく気に入ってくれる女性もいるんですよね、実は。ですから、あなたのご指摘が正しいかどうかわかりません。とにかく、明日からまた別のロマンチック・コメディーに取り掛かることになっていて、その映画で僕は今や落ち目になってしまった1980年代のポップスターを演じます。そして彼は比較的いいやつです。「下劣なやつ」ではありません。

記者：これまで多くのことを成し遂げてこられました、今でも実現させたい夢はお持ちですか？

グラント：まあ、そうですね、また20代半ばのころのように、ちゃんと創造的なことをやりたいと今も思ってます、もう20年前のことですけどね。でも、こう感じたことを覚えています——ロンドンの小さなバブで、ああいうコメディー・ショーをやっていたころ——一日の終わりには本物の男になったみたいを感じたんです。それは自分たちのショーであり、自分たちで書いて自分たちが演じたものでしたから、巨額を投じた映画を撮ったどんな日より、活力にあふれ、男であると感じましたね。

記者：あなたも40代に入りましたが、名声や有名人というものに関してご自分の見方が変わったと思われますか？


グラント：うーん、そう、少しは変わったかもしれませんが。少し辟易し、用心深くなりましたね。ええ。

記者：ご自身の中年の危機は、どのような形で訪れると思われますか？

グラント：さあ、どうでしょうね。実はもう経験していると思いますよ。もうあつたんじゃないかな。あのアストン・マーチンを見てくださいよ。あれが中年の危機じゃないとしたら、何がそうなのかって感じです。半年ほど、僕がヤバめなシャツを着ていた時期があつたのをご存じですか、そう、かなりピチピチの、でもそれも5年ほど前の話です。ですから、すでに通り過ぎたんだと思いますよ、ええ。先日『ファインディング・ニモ』を見ていて突然号泣したんですが、ひょっとしたらそれも中年の危機かもしれません。

記者：周知のとおり、年を取るということはハリウッドにおいて大きな問題ですよ。この映画の冒頭で、あなたのかかなりのクローズアップがあります。あなたは常日ごろから、ご自分の姿を映画で見るのは大嫌いだとおっしゃっていますが、今はどうお感じになっていますか？　今も嫌なものですか？

グラント：実は、あなたの質問には非常に傷つきました。あのアップに問題があるとはつゆほども思ってなかったもので。まあ、確かに今はちょっとゴツくなってますよ。ええ、認めますよ。屋外で少々ゴルフをやりますから、そうもなりますよ。クソ女め。ええと、うそですよ。私は違います。（自分のクローズアップを）本当に気にしてません。本当に、正直、気になりません。

【原文】 

コメディーは難しい

 [DL](#)  [Track10](#)

記者：もうご自分のイメージなど気にされていないようですが、あなたがマーチャント・アイボリー映画に出演するたびに、「わあ、ヒュー・グラントは本当に演技ができるんだ」と人々が評価していたことを覚えています。軽い映画に出ていらしたときに否定的な評価を受けていると感じられたり、イメージアップのためにもっと深刻な作品をやりたいと思われたりしませんでしたか？


グラント：いいえ、そういうふうにしたことは一度もありません、いい評を得るために、泣いたり、エイズにかかったり、強制収容所から人々を救い出したりする役をやりたいなんて思ったことはね。僕は、軽いコメディーでの演技はシリアスな演技と同じくらい難しい―それ以上に難しくはないとしても―と心から思っています。そして、賞という賞が―そしていい評が、自動的に、型通りの反応で―最大限に深遠で、暗く、深刻で、大まじめな演技と役柄に行くということが、僕は本当にまったく気にならないんですよ。笑ってしまいますね。

記者：周りの人々が四六時中あなたにこびへつらってくることにうんざりすることはありますか？

グラント：いいえ、へつらわれればへつらわれるほど楽しいです。いくらへつらわれても足りません。

記者：どうもありがとうございました。

グラント：どうも。ありがとう。

[【原文】](#) 

Vocabulary List

A

- AIDS** エイズ、後天性免疫不全症候群 ★= Acquired Immune Deficiency Syndrome
- arse** 最低のやつ、バカ ★[ɑ:rs]。アメリカ英語では ass で、発音は [æs]。
- at the end of the day** 一日の終わりには

B

- be ashamed of** ~ ~を恥じている
- be susceptible to** ~ ~に影響されやすい
- be tempted to do** ~ ~する気にさせられる
- be through** ~ ~を終えている
- bitch** 嫌な女、あばずれ
- boot camp** (アメリカ軍の)新兵訓練所、基礎訓練キャンプ
- bother** (～を)困惑させる、(～に)嫌な思いをさせる
- burst into tears** 突然泣きだす、ワッと泣きだす

C

- celebrity** 名声
- centre** 中心 ★アメリカ式つづりでは center。
- concentration camp** 強制収容所
- consideration** 考慮すべき事柄
- craggy** ごつごつした、いかつい
- cuddly** 抱き締めたくなるような

D

- definitely not** まったく違う、とんでもない
- deformed** ゆがんでいる、奇形の
- delinquent** 非行の
- dodgy** へまな、不器用な、危なっかしい

F

- fall on hard times** つらい目に遭う
- fascinating** 興味をそそる、非常に興味深い

G

- gene** 遺伝子
- genuinely** 心から、本音で

H

- hinder** 邪魔する、妨げる
- horrible** ぞっとするほど嫌な、恐ろしい

K

- kiss one's arse** ～にこびへつらう、～のご機嫌を取る
- knee-jerk** 反射的な、型通りの

M

- mega-budget** 巨大予算の
- midlife crisis** 中年の危機 ★中年になった時、精神的、肉体的衰えを実感する中で、老いていくことを受け入れられず、焦燥感を覚えること。

N

- negative criticism** 否定的な批評

O

- outlook** 見解、視点

P

- paparazzi** ババラッチ ★この意味では通例、複数形。報酬のために有名人を追いかけるフリーのカメラマンのこと。
- properly** きっちりと、相応に

R

- reality television** リアリティ・テレビ ★ある状況に置かれた人々の“ありのまま”の反応を観察するテレビ番組。

S

- stuff** 物

T

□**that's as far as it goes** その程度のものだ

□**the more the merrier** 人多ければ楽しみ多し ★文字通り「人数が多ければ多いほど楽しい」という意味のことわざ。merryは「愉快的」の意。

W

□**wary** 慎重な、用心深い

□**weary** 疲れた、辟易した

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	グラントは、もともと世界的に脚光を浴びるような有名人になりたいとひそかに思っていた。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	グラントは、テレビの仕事には関しては、番組の司会を除けばまったく興味がない。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	グラントは、リアリティー・テレビ番組が大スターの出現の妨げになっているかどうかについては考えたことがない。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	下劣な役を演じることで女性ファンを失いつつあるのでは、という記者の指摘に対して、グラントはそれを率直に認めている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	グラントは、20代の頃の自分の演技や活動を創造的で活力にあふれていたと思っている。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	グラントは、中年の危機はすでに経験し、すでに通り過ぎたものだと考えている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	グラントは自分の姿を映画で見るのが嫌いで、今回の映画でも冒頭にある自分のアップのシーンをいやがっている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	グラントは、軽いコメディーもので否定的な批評を受けたため、深刻な作品をやることでイメージを挽回しようと考えている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	深刻な映画に比べコメディーの評価が低いことにグラントは不満を訴えている。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	グラントは、周囲の人間が自分のご機嫌取りをすることにもうんざりした、と言っている。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

答え [▶](#)

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	グラントは、もともと世界的に脚光を浴びるような有名人になりたいとひそかに思っていた。	C	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
2	グラントは、テレビの仕事には関しては、番組の司会を除けばまったく興味がない。	A	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
3	グラントは、リアリティー・テレビ番組が大スターの出現の妨げになっているかどうかについては考えたことがない。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	下劣な役を演じることで女性ファンを失いつつあるのでは、という記者の指摘に対して、グラントはそれを率直に認めている。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
5	グラントは、20代の頃の自分の演技や活動を創造的で活力にあふれていたと思っている。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	グラントは、中年の危機はすでに経験し、すでに通り過ぎたものだと考えている。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	グラントは自分の姿を映画で見るのが嫌いで、今回の映画でも冒頭にある自分のアップのシーンをいやがっている。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
8	グラントは、軽いコメディーもので否定的な批評を受けたため、深刻な作品をやることでイメージを挽回しようと考えている。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
9	深刻な映画に比べコメディーの評価が低いことにグラントは不満を訴えている。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	グラントは、周囲の人間が自分のご機嫌取りをすることにもうんざりした、と言っている。	C	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

(Martin) Tweed

★*American Dreamz*（邦題『アメリカン・ドリームズ』。2006年アメリカ映画。監督ポール・ウェイツ。共演デニス・クエイド）でグラントが演じたテレビ番組司会者。この映画は、世界的大ヒット番組『アメリカン・アイドル』をモチーフに、現代アメリカ社会を痛烈に皮肉るブラック・コメディ。『アメリカン・アイドル』は、アメリカの公開オーディション番組で、アメリカ各地で行われる地区予選を経てスタジオ・オーディションに進んだ出場者は、視聴者の電話投票によって勝ち上がっていく。優勝者は、レコード会社と契約を結ぶことができ、過去の優勝者はすでにメジャー・デビューを果たしている。『アメリカン・アイドル』は日本でも人気があり、いろいろな種類のDVDが発売されている。

[▶本文に戻る](#)

Wife Swap

『ワイフ・スワップ』 ★（2003年）。イギリスのリアリティー・テレビ番組。対照的な2つの家庭の母親だけを2週間入れ替えることにより、各家庭のルールや常識の違いが浮き彫りになる、という趣向の番組。ここでグラントが話している非行のティーンエイジャーを更生させる番組とは、別のリアリティー・テレビ番組である、*Brat Camp*（'05年）を指しているものと思われる。

[▶本文に戻る](#)

Bridget Jones's Diary

『ブリジット・ジョーンズの日記』 ★（2001年）。イギリス映画。監督シャロン・マグワイア。共演レニー・ゼルウィガー、コリン・ファース。ロンドン在住の独身女性の日常を赤裸々に描いた、ヘレン・フィールディングのベストセラー小説の映画化。この映画でグラントは、不埒なプレイボーイの雑誌編集長ダニエル役を演じ、絶賛された。

[▶本文に戻る](#)

About a Boy

『アバウト・ア・ボーイ』 ★（2002年）。アメリカ映画。監督ポール・ウェイツ、クリス・ウェイツ。共演レイチェル・ワイズ、トニー・コレット。イギリスの人気作家、ニック・ホーンビィの小説の映画化。グラントは、亡き父が残した唯一のヒット曲の印税で暮らす無責任な独身男役を演じている。

[▶本文に戻る](#)

Aston Martin

アストン・マーチン ★イギリスの高級車。グラントは、アストン・マーチン V12 ヴァンキッシュを購入している。ここでは、中年の危機を象徴する行動として若者向けのスポーツカーやバイクを購入することなどが挙げられる点を踏まえている。

[▶本文に戻る](#)

Finding Nemo

『ファインディング・ニモ』 ★（2003年）。アメリカ映画。監督・原案・脚本アンドリュー・スタントン。「トイ・ストーリー」シリーズ、『モンスターズ・インク』を世に送り出したピクサー社による、傑作アニメーション。オーストラリアのグレートバリアリーフを舞台に、熱帯魚のカクレクマノミのマリンが、人間に捕獲された最愛の息子ニモを救い出すべく大海原へと旅立つ物語。

[▶本文に戻る](#)

Hollywood

ハリウッド ★アメリカ、カリフォルニア州、ロサンゼルスにある地区。アメリカ映画産業そのものを指すことが多い。

[▶本文に戻る](#)

Merchant Ivory film

マーチャント・アイボリー映画 ★インド生まれの映画制作者、イスマイル・マーチャント（1936-2005）と、アメリカ生まれの映画監督、ジェームズ・アイボリー（1928-）が設立した制作会社、マーチャント・アイボリー・プロによる映画のこと。文学作品を映画化することが多く、代表作に『眺めのいい部屋』（'86年）、『ハワーズ・エンド』（'92年）などがある。グラントが出演したマーチャント・アイボリー映画は、E・M・フォースターの名作の映画化で、同性愛者のエリート・ケンブリッジ大学生を演じて注目された『モーリス』（'87年）と、カズオ・イシグロの英国ブッカー賞受賞作品を映画化した『日の名残り』（'93年）。

[▶本文に戻る](#)

語注

celebrity

名声
[▶ 本文に戻る](#)

damaged

損傷を受けた
[▶ 本文に戻る](#)

insofar as I think . . .

★ここでは、前文の I think he was born damaged, actually. を説明するために、by that I mean . . . くらいのニュアンスで用いている。insofar as ~ は「～の限りにおいて」の意。

[▶ 本文に戻る](#)

gene

遺伝子
[▶ 本文に戻る](#)

deformed

ゆがんでいる、奇形の
[▶ 本文に戻る](#)

massively

大規模に
[▶ 本文に戻る](#)

definitely not

まったく違う、とんでもない
[▶ 本文に戻る](#)

centre

中心 ★アメリカ式つづりでは center。
[▶ 本文に戻る](#)

that's as far as it goes

その程度のものだ ★ここでは「自分の功名心・野心が及ぶ範囲はその程度のものだ」くらいの意。as far as ~ は「～の限り」。

[▶ 本文に戻る](#)

be tempted to do

～する気にさせられる

[▶本文に戻る](#)

be susceptible to ～

～に影響されやすい

[▶本文に戻る](#)

reality television

リアリティー・テレビ ★ある状況に置かれた人々の"ありのまま"の反応を観察するテレビ番組。

[▶本文に戻る](#)

be ashamed of ～

～を恥じている

[▶本文に戻る](#)

delinquent

非行の

[▶本文に戻る](#)

boot camp

(アメリカ軍の) 新兵訓練所、基礎訓練キャンプ

[▶本文に戻る](#)

fascinating

興味をそそる、非常に興味深い

[▶本文に戻る](#)

hinder

邪魔する、妨げる

[▶本文に戻る](#)

paparazzi

パパラッチ ★この意味では通例、複数形。報酬のために有名人を追いかけるフリーのカメラマンのこと。

[▶本文に戻る](#)

chase

追いかける、追い回す

[▶本文に戻る](#)

arse

最低のやつ、バカ ★[ɑ:rs]。アメリカ英語では ass で、発音は [æs]。
[▶本文に戻る](#)

consideration

考慮すべき事柄
[▶本文に戻る](#)

cuddly

抱き締めたくなるような
[▶本文に戻る](#)

fall on hard times

つらい目に遭う
[▶本文に戻る](#)

likeable

感じのいい、好ましい
[▶本文に戻る](#)

accomplish

成し遂げる、達成する
[▶本文に戻る](#)

come true

(願望などが) 実現する
[▶本文に戻る](#)

going

★正しくは、go。
[▶本文に戻る](#)

properly

きつちりと、相応に
[▶本文に戻る](#)

pub

パブ、飲み屋
[▶本文に戻る](#)

at the end of the day

一日の終わりには
[▶本文に戻る](#)

mega-budget

巨大予算の
[▶本文に戻る](#)

outlook

見解、視点
[▶本文に戻る](#)

weary

疲れた、辟易した
[▶本文に戻る](#)

wary

慎重な、用心深い
[▶本文に戻る](#)

midlife crisis

中年の危機 ★中年になったとき、精神的、肉体的衰えを実感する中で、老いていくことを受け入れられず、焦燥感を覚えること。
[▶本文に戻る](#)

dodgy

へまな、不器用な、危なっかしい

[▶本文に戻る](#)

be through ~

~を終えている

[▶本文に戻る](#)

burst into tears

突然泣きだす、ワッと泣きだす

[▶本文に戻る](#)

issue

問題、争点

[▶本文に戻る](#)

horrible

ぞっとするほど嫌な、恐ろしい

[▶本文に戻る](#)

hurt

傷ついた、感情を害した

[▶本文に戻る](#)

craggy

ごつごつした、いかつい

[▶本文に戻る](#)

in the open air

屋外で、野外で

[▶本文に戻る](#)

bitch

嫌な女、あばずれ

[▶本文に戻る](#)

negative criticism

否定的な批評

[▶本文に戻る](#)

stuff

物 ★ここでは「映画作品」を指す。

[▶本文に戻る](#)

AIDS

エイズ、後天性免疫不全症候群 ★= Acquired Immune Deficiency Syndrome

[▶本文に戻る](#)

concentration camp

強制収容所

[▶本文に戻る](#)

genuinely

心から、本音で

[▶本文に戻る](#)

light comedy

軽喜劇

[▶本文に戻る](#)

bother

(～を) 困惑させる、(～に) 嫌な思いをさせる

[▶本文に戻る](#)

automatically

自動的に、機械的に、惰性的に

[▶本文に戻る](#)

knee-jerk

反射的な、型通りの

[▶本文に戻る](#)

kiss one's arse

～にこびへつらう、～のご機嫌を取る

[▶本文に戻る](#)

the more the merrier

人多ければ楽しみ多し ★文字通り「人数が多ければ多いほど楽しい」という意味のことわざ。merryは「愉快的」の意。

[▶本文に戻る](#)

A black and white portrait of Scarlett Johansson. She has wavy, shoulder-length hair and is wearing a dark, high-collared top with a large bow at the neck. The background is dark with some large, light-colored letters visible at the top.

Scarlett Johansson

写真：GEGUNDEZ Jose Perez/Gamma/ アフロ

妖艶さと清純さをあわせ持つ新時代の最注目女優

Scarlett Johansson

“I’ve always loved filmmaking, and I’ve always loved acting, and, I mean, every part of filmmaking.”
「私はずっと映画制作が大好きで、演技することも大好きで、そう、映画制作のすべてを愛してきたわ」

Supervising Editor’s Comment

声は低めで、リズムはゆったりしている。その分、年齢より落ち着いた印象を受ける。とはいえ、必ずしも聞き取りやすくはない。つぶやくような話し方で、弱く発音される部分（代名詞・助動詞・前置詞・冠詞・接続詞など）がかなり弱く速くなり、明瞭度が低いためだ。it would be a lot of fun（「Shooting with Woody Allen」前半）では、fun以外は耳に残らないくらいだ。また、you knowやkind ofなどの挿入表現や、言い直しなども多いのも特徴。

Interview Data	
収録日	2006年7月10日
収録地	ニューヨーク（アメリカ）
スピード	普通
語彙	やさしい
発音	明瞭

スカーレット・ヨハンソン

Scarlett Johansson

1984年11月22日、アメリカ・ニューヨーク州生まれ。8歳のころから子役として活躍。『モンタナの風に抱かれて』（1998年）などでキャリアを積む。2003年公開の『ロスト・イン・トランスレーション』『真珠の耳飾の少女』の2作で、ゴールデン・グローブ賞、英国アカデミー賞主演女優賞にダブル・ノミネート。今、最も活躍が期待される女優のひとり。

子役時代から培ってきた演技力とコケティッシュな魅力で今最ももてやはされている若手女優のひとり、スカーレット・ヨハンソンが、ウディ・アレン作品を中心に、アレン監督との関係や共演男優について、そして今後の夢について語ったインタビュー。

Shooting with Woody Allen

DL Track12

用語解説 語注

Reporter: In [Match Point](#) you were directed by [Woody Allen](#), but in [Scoop](#) you actually get to act [opposite](#) him.

Scarlett Johansson: Right.

Reporter: That must have been funny.

Johansson: When we were shooting Match Point, we had such a nice [banter](#) between us, and I thought, I mean I've always admired him as, you know, a writer and a director, and as a comedian, and I've always loved him as an actor. And I thought that, uh, you know, I said, "Well, [it's a shame](#), like, we can't -- you know I wish we could be acting together because it would be a lot of fun." He said, "Oh, you know, I'll think of something." And then he thought of Scoop.

So, Scoop is really kind of, it's sort of our off-screen banter on-screen. And, uh, you know, it was a lot of fun to shoot it. And you know, of course, I've somehow [figured](#) a way to, to just, you know, talk to Woody with a [straight face](#). I mean, one of us has to be kind of the straight man, and of course it's always me.

But [Hugh Jackman](#), you know, was laughing hysterically at each take. And Woody would turn to him and be like, "[I'm supposed to be](#) an idiot, you can't be laughing at me. I'm not really supposed to be funny, you know?" But Hugh couldn't help it, so he worked, kind of worked with the charm [and, of](#) his character, you know?

Reporter: As in many of your previous roles, [yet again](#), in this film, you are cast opposite an older [love interest](#). Do you ever say to your people, "Can you put me with someone of my own age [for a change](#)?"

Johansson: I think that there's, a, um, you know, a small group of kind of leading men that are, I mean, actors like Hugh Jackman, who's just this incredibly [charismatic](#), [gorgeous](#), [talented](#), and charming, guy. He's like an old movie star. He's a real movie star, and he's like, uh, you know, I always say he's, kind of, like a [William Holden](#) type, or somebody; it's a [Cary Grant](#), you know? He's got this incredible charisma, and a darkness, but he's also, you know, just so charming. And I think that Woody had created this character that wasn't -- he was a man, he was an absolutely, a [fully formed](#), you know, [masculine](#), kind of, [Prince Charming](#). And, you know, I was supposed to be this kind of [bumbling](#) college student.

And I also think that, as women sort of [mature](#), seems to be, quicker than men. You know, you end up having kind of this gap between a woman who's fully formed and kind of a young man, or a kind of boy-man, or something. So I do, you know, I mean I have been cast, obviously, in [The Black Dahlia](#), you know, I was with [Josh Hartnett](#), and, you know, I feel like -- in [The Prestige](#), of course, again I'm with Hugh and [Christian Bale](#), but I think that there's, you know, definitely, uh, a kind of maturation [that's](#) happens quicker with women than it does with men. And it, it's obvious on screen, you know? And that's why I get so lucky with all these gorgeous guys.

tanslation ▶

Lucky Teenage Years

DL Track13

用語解説 語注

Reporter: Do you think that's one of the reasons why you've been able to make such a smooth transition from being a child actor to an adult actor playing adult roles?

Johansson: I think I just got incredibly lucky, you know, I mean I, I really did. I was able to [film](#) even during my most, kind of, [awkward](#) stages, I mean, [puberty](#), you know, like, doing [The Horse Whisperer](#) or even [Ghost World](#), I was, like, 15. And, you know, even during [Lost in Translation](#), you know, I was 17 when we shot that. So I've really been able to, kind of, somehow, just get really lucky, you know?

And since I was always focused on my career, and I never, you know, I considered college for some time, but, um, I mean, I've always loved filmmaking, and I've always loved acting, and, um, I mean, every part of filmmaking.

translation ▶

Vision of a Director

DL Track14

用語解説 語注

Reporter: You say you love every aspect of filmmaking, and you've worked with amazing directors throughout your career. Have they inspired you to think that you might like to direct in the future?

Johansson: Yeah, I would, you know, I've, of course I would love to direct something. That's always been, something that I've kind of [pined after](#) and thought about. And when I read scripts I think that I have, you know, a vision when I read a script. And, of course, I'm sure, you know, as does every actor. But I do have, kind of the ambition to take it to the next level. And, and I would love to work with actors as a director, and, you know, kind of help them to get to where they need to be to, you know, really give great performances. And I have always been really interested in that.

But, you know, it's hard in this industry, I think as a young woman, and particularly as a young [actor](#), for anybody to kind of consider that. I've spoken to certain people in this industry who've said, like, you know, actors make absolutely the worst directors. And, which I completely d -- I'm, like, what about [Clint Eastwood](#), what about [Rob Redford](#), you know, what about [Steve Buscemi](#)? What about all of these, you know, [Sydney Pollack](#), and I [couldn't disagree more](#).

tanslation ▶

Reporter: Am I right in saying that you grew up in New York?

Johansson: Yes.

Reporter: You seem very sophisticated for someone who is still only 21 years old. Do you think New York has [contributed to](#) this in any way?

Johansson: Absolutely. New York is *a huge part of who I am, and a huge part of my, you know, [consciousness](#) is, is in New York, of New York. And all of my, you know, my whole life is here, and, uh, I love this city. And, you know, I [feel absolutely passionate about](#) this city. I think it's the greatest city in the world. And, you know, I think it's constant inspiration for artists and young people to explore their curiosities and to question, you know, uh, authority, and all of those things. I mean it's an, it's just a, such a free thinking and, kind of [volatile](#) and, you know, [bustling](#) and, spiritual city with such a great energy, that, you know, uh, as, um, a young person, and as an actor I . . . I'm constantly inspired here.

tanslation [▶](#)

*Interviewed by Jordan Riefe / Planet Syndication
Narrated by Steven Ashton*

ウディ・アレンとの撮影

DL **Track12**

記者：『マッチポイント』ではウディ・アレンが監督でしたが、『タロットカード殺人事件』では実際に彼の相手役として演技をなさいましたね。

スカーレット・ヨハンソン：はい。

記者：すごく面白かったですよね。

ヨハンソン：『マッチポイント』を撮影していたとき、私たちの間にはとてもいい雰囲気で冗談を言い合える関係が生まれて、そのとき思ったんですが、つまり、ウディさんのことはずっと尊敬してきました、作家として、監督として、そしてコメディアンとして。そして俳優としての彼はずっと大好きだったんです。そして思ったのが、そう、私はこう言いました、「残念ですね、私たちが一緒にできないのは——そう、一緒に演技ができればいいのに、だってとても楽しいでしょうから」って。すると彼は、「ああ、そうだね、何か考えてみるよ」と言いました。で、彼は『タロットカード殺人事件』を思い付いたんです。

ですから、『タロットカード殺人事件』は、ある意味本当に、スクリーンの外での私たちのおふさがスクリーンに映し出されているようなものなんです。あれを撮影するのはとても楽しかったですね。そう、もちろん、私はなんとか、まじめな顔でウディさんと話をする方法を見つけ出しました。なにしろ、私たちのどちらかは、まじめな役回りつばいのを演じなくてはいけないんですけど、それはいつも私の役目ですから。

でも、ヒュー・ジャックマンさんは、撮影が止まるたびに笑い転げていました。そしてウディさんは彼のほうを向いて、「私はマヌケな男の役のはずなんだから、私のことを笑っていては駄目だよ。本当は面白くないはずなんだから、いいね？」って。でもヒューさんは笑いをこらえることができなくて、そんなわけで、ウディさんはけっこう自分の役柄の魅力を生かしていたんですよ。

記者：これまでなさってきた多くの役柄同様、またしても、この映画（『タロットカード殺人事件』）で、年上の男性を相手に恋に落ちる役を与えられています。周りのスタッフに「たまには同年代の人と演技をさせてもらえない？」なんて言うことはありますか？

ヨハンソン：ごく少数の主演俳優の方々の中には、そう、ヒュー・ジャックマンさんのように、とてつもなくカリスマ性があって、格好よくて、才能豊かな、素敵な男性がいると思います。ヒューさんは往年の銀幕スターのような方です。本物の映画スターで、まるで、その、私はいつも言っているんですが、ウィリアム・ホールデンか誰かみたいなタイプだって。ケーリー・グラントのような人なんです。ものすごいカリスマ性を持っていて、陰もあり、それと同時に、とにかく、ものすごく魅力的な人です。そして、ウディさんがこの役柄をつくり上げたのですが、その役柄というのは——本物の男で、完璧に、成熟していて、そう、男らしい、ある意味、理想の王子様のような人物でした。そして私はといえば、例のどじな大学生という役回りでした。

それと、そもそも女性というのは、どうも男性より早熟な部分があると思うんです。ですから、（同世代の男女を並べると）結局、成熟した大人の女性と青年とか少年つばい男性、というギャップみたいなものが出てしまうんです。ですから確かに、『ブラック・ダリア』では（6歳上の）ジョシュ・ハートネットさんと共演して、感じたんですが——それに『ザ・ブレステージ』では、ご存じのとおり、また（16歳上の）ヒューさんや（10歳上の）クリスチャン・ベールさんとご一緒しました。やっぱり確実に、男性より女性のほうが早く成熟するということはあると思います。そしてそれは、スクリーン上ではつきりわかるものなんですよ。だからこそ、私は幸運にもこのような素敵な男性たちと共演できているんだと思います。

【原文】[▶](#)


恵まれていた思春期

 **DL**  **Track13**

記者：あなたが子役から大人の役を演じる大人の役者へと、とてもスムーズに移行することができたのも、そうしたことが理由のひとつだと思いますか？

ヨハンソン：私はただ、とてつもなく運が良かったんだと思っています。本当にそうです。一番扱いにくいような時期、つまり思春期のころでさえ、映画撮影に参加することができたんですから。そう、『モンタナの風に抱かれて』や『ゴーストワールド』のような作品をやったとき、私は**15歳**でした。それに、『ロスト・イン・トランスレーション』の間だって、あれを撮ったとき、私は**17歳**だったんです。ですから私は本当に、ある意味、何と言うか、本当についてたと思います。

それに、私は常に自分のキャリアに集中してきましたし、一度も、まあ、大学に行くことを考えた時期はありましたけど、私はずっと映画制作が大好きでしたし、演技することも大好きで、そう、映画制作のすべてを愛してきました。

[【原文】](#) 

監督のビジョンで

DL **Track14**

記者：映画制作のすべての面が好きだとおっしゃいましたが、ご自身のキャリアを通して、素晴らしい監督の方々と一緒にこられました。その方々から影響を受けて、いつか監督してみたいなど思われることはありますか？

ヨハンソン：そうですね、もちろん何かを監督してみたいとは思います。それはずっと、私が、ある意味で恋焦がれ、考えてきたことです。それに、脚本を読むとき、私にはビジョンが生まれるみたいなんです、脚本を読むときにね。そして私は、もちろん、それはほかの俳優の皆さんも同じだと思いますが。でも、確かに、そのビジョンをさらに上の段階へと持っていきたいという野心はあります。そしてぜひ、監督として俳優と仕事してみたいと思っていますし、俳優の方々が本当に素晴らしい演技ができるレベルに到達できるよう、ある意味手助けができれば素晴らしいと思います。ずっと、そういうことには本気で興味を抱いてきました。

でもこの業界で、女性が若いときに、とりわけ女優が若いときに、誰であれ、それ（監督業への進出）を考えたりするのは難しいと思います。この業界のある方々と話をしたら、そう、俳優というのは監督としては完全に最悪だ、と言っていました。そして、それには私はまったく——だって、それじゃあ、クリント・イーストウッドさんはどうなの、ロブ・レッドフォードさんは、スティーブ・ブシェミさんは？ こういった方々はどうなのでしょう、そう、シドニー・ポラックさんもいますよね、ですから、そうした意見は全然当たっていないと思います。

【原文】[▶](#)

ニューヨーク

 [DL](#)  [Track15](#)

記者：あなたはニューヨークでお育ちになったのですね？

ヨハンソン：はい。

記者：あなたは、たった**21**歳にしては、とても洗練されているようにお見受けします。ニューヨークがそういうことに何らかの形で貢献したとお思いになりますか？

ヨハンソン：もちろんです。ニューヨークは、私という人間の大きな部分を占めていて、私の意識の中の大きな部分がニューヨークにあります。私の生活のすべてがここにありますが、この街が大好きです。私はこの街にとにかく夢中なんです。世界で一番素晴らしい街だと思っています。そしてここは、アーティストや若い人たちにとって、自分の好奇心を探究したり、権威などといったものに疑いを抱いたりする刺激を常に与えてくれる場所だと思います。なにしろ、ここはとにかく、とても自由な発想のできる、ある意味で移り変わりの激しい、にぎやかで、精神的に豊かで、とてつもなく巨大なエネルギーに満ちた街ですから、一人の若者として、そして俳優として、私は・・・私は常にこの街に刺激を受けています。

【原文】[▶](#)

Vocabulary List

A

□**awkward** 不器用な、扱いにくい

B

- banter** 悪意のない冗談、冷やかす
- be supposed to do** ～するはずである
- bumbling** どじな、不器用な
- bustling** にぎやかな、騒がしい

C

- charismatic** カリスマ性のある
- consciousness** 意識、自覚
- contribute to** ～に寄与する
- couldn't disagree more** まったく同意できない、絶対反対だ ★直訳すると「これ以上の反対はできない」。

F

- feel passionate about** ～に夢中である
- figure** 見つけ出す、考え付く
- film** 映画を制作する
- for a change** たまには、気分転換に
- fully formed** 完全に形成された、成熟した

G

- gorgeous** ハンサムな、素敵な、格好いい

I

- it's a shame**とは残念だ

L

- love interest** 恋愛の対象

M

- masculine** 男らしい、男っぽい
- mature** 成熟した ★**maturity** は「成熟」という意味の名詞。

O

- opposite** ～ ～の相手役で、～と共演して

P

- pine after** ～ ～を切望する、～を思い焦がれる
- Prince Charming** 理想の男性 ★シンデレラの物語に出てくる、王子の名前。
- puberty** 思春期

S

- straight face** （笑い・怒りなどの感情をこらえた）無表情な顔、まじめな顔

T

- talented** 才能のある

V

- volatile** 移ろいやすい、不安定な

Y

- yet again** さらにもう一度

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	『スクープ』でのヨハンソンとアレンの共演は、ヨハンソンのちょっとした発言がきっかけで実現した。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	『スクープ』はコメディーだが、撮影現場は真剣そのもので、ヨハンソンやほかの出演者にとって、面白い、楽しいと感じる余裕はなかった。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	女性の方が男性より成長が早いので、このため自分は年上の男性と共演する幸運をもらっている、とヨハンソンは述べている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	ヨハンソンは、15歳から17歳の最も難しい思春期には一時的に映画の仕事から離れていた。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	ヨハンソンは、子役から大人の役への移行期に、大学に進学することを考えた時期があった。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	ヨハンソンは、俳優としてだけでなく、プロデューサーとしても映画作りをやってみたいと思っている。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	ヨハンソンは、脚本家になることにも強い興味を持っている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	「俳優でいていい監督はいない」という人がいるが、ヨハンソンも、アレンのケースを除けば、これと同意見である。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	ヨハンソンは、ニューヨークが自分に与えた影響は甚大で、この街に自分の生活のすべてがあると感じている。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	ニューヨークはアーティストや若者にとっては刺激的な街だとよく言われるが、そこで暮らす者にとっては必ずしもそうでない、とヨハンソンは言っている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

答え [▶](#)

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	『スクープ』でのヨハンソンとアレンの共演は、ヨハンソンのちょっとした発言がきっかけで実現した。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	『スクープ』はコメディーだが、撮影現場は真剣そのもので、ヨハンソンやほかの出演者にとって、面白い、楽しいと感じる余裕はなかった。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
3	女性の方が男性より成長が早いので、このため自分は年上の男性と共演する幸運をもらっている、とヨハンソンは述べている。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	ヨハンソンは、15歳から17歳の最も難しい思春期には一時的に映画の仕事から離れていた。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
5	ヨハンソンは、子役から大人の役への移行期に、大学に進学することを考えた時期があった。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	ヨハンソンは、俳優としてだけでなく、プロデューサーとしても映画作りをやってみたいと思っている。	C	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
7	ヨハンソンは、脚本家になることにも強い興味を持っている。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
8	「俳優でいていい監督はいない」という人がいるが、ヨハンソンも、アレンのケースを除けば、これと同意見である。	A	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
9	ヨハンソンは、ニューヨークが自分に与えた影響は甚大で、この街に自分の生活のすべてがあると感じている。	C	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	ニューヨークはアーティストや若者にとっては刺激的な街だとよく言われるが、そこで暮らす者にとっては必ずしもそうでない、とヨハンソンは言っている。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

用語解説

Match Point

『マッチポイント』 ★（2005年）。イギリス・アメリカ・ルクセンブルグ映画。監督ウディ・アレン。セックスアピールを武器にイギリスの上流階級に入り込もうとする男女を描く。ヨハンソンは本作でヒロインを演じた。

[▶本文に戻る](#)

Woody Allen

ウディ・アレン ★（1935-）。アメリカの映画監督・俳優。代表作に『アニー・ホール』（'77年）、『ハンナとその姉妹』（'86年）、『ブロードウェイと銃弾』（'94年）ほか。

[▶本文に戻る](#)

Scoop

『タロットカード殺人事件』 ★（2006年）。イギリス・アメリカ映画。監督ウディ・アレン。共演ヒュー・ジャックマン。イギリスで休暇を過ごすアメリカの大学生（ヨハンソン）が連続殺人事件の真犯人を突き止め、スクープを狙おうと奔走するコメディ。

[▶本文に戻る](#)

Hugh Jackman

ヒュー・ジャックマン ★（1968-）。オーストラリアの俳優。代表作に「X-Men」3部作（2000年、'03年、'06年）、『ニューヨークの恋人』（'01年）など。

[▶本文に戻る](#)

William Holden

ウィリアム・ホールデン ★（1918-81）。アメリカの俳優。代表作に『サンセット大通り』（'50年）、『喝采』『麗しのサブリナ』（'54年）など。

[▶本文に戻る](#)

Cary Grant

ケーリー・グラント ★（1904-86）。イギリスの俳優。二枚目ながら二枚目半の軽妙な演技で愛された往年の名優。代表作に『フィラデルフィア物語』（'40年）、『北北西に進路を取れ』（'59年）、『シャレード』（'63年）など。

[▶本文に戻る](#)

The Black Dahlia

『ブラック・ダリア』 ★（2006年）。アメリカ映画。監督ブライアン・デ・パルマ。原作ジェームズ・エルロイ。共演ジョシュ・ハートネット、ヒラリー・スワンク。1947年、実際にアメリカで起きた凶悪殺人事件を2人の刑事が追う。

[▶本文に戻る](#)

Josh Hartnett

ジョシュ・ハートネット ★（1978-）。アメリカの俳優。出演作に『ヴァージン・スーサイズ』（'99年）、『パールハーバー』（'99年）、『ブラックホーク・ダウン』（2001年）など。

[▶本文に戻る](#)

The Prestige

『プレステージ』 ★（2006年）。アメリカ映画。監督クリストファー・ノーラン。共演ヒュー・ジャックマン、クリスチャン・ベール。20世紀初頭のイギリスを舞台に、2人の天才奇術師の対決を描く。

[▶本文に戻る](#)

Christian Bale

クリスチャン・ベール ★（1974-）。イギリスの俳優。スティーブン・スピルバーグ監督作品『太陽の帝国』（'87年）の演技で名子役として名をはせる。そのほかの出演作に『アメリカン・サイコ』（2000年）、『バットマン・ビギンズ』（'05年）など。

[▶本文に戻る](#)

The Horse Whisperer

『モンタナの風に抱かれて』 ★（1998年）。アメリカ映画。主演・監督ロバート・レッドフォード。共演クリスティン・スコット・トーマス。落馬事故で心身共に傷を負った少女とその母が、馬と心を通わせることができる男の下で立ち直ろうとする。

[▶本文に戻る](#)

Ghost World

『ゴーストワールド』 ★（2001年）。アメリカ・イギリス・ドイツ映画。監督テリー・ツワイゴフ。共演ソーラ・バーチ。没個性、迎合をよしとする周囲の小市民的な価値観を耐え難く感じる少女イーニドの生活を描く。

[▶本文に戻る](#)

Lost in Translation

『ロスト・イン・トランスレーション』 ★（2003年）。アメリカ・日本映画。監督ソフィア・コッポラ。共演ビル・マーレイ。孤独な新妻とうつ気味の中年大物俳優が、東京のホテルで出会い、心を通わせる。

[▶本文に戻る](#)

Clint Eastwood

クリント・イーストウッド ★（1930-）。アメリカの俳優・映画監督。「ダーティハリー」シリーズ（'71年、'73年、'76年、'83年、'88年）でスターの地位を確立。監督としては『許されざる者』（'92年）、『ミリオンダラー・ベイビー』（2004年）の2作でアカデミー賞最優秀監督賞を受賞している。
[▶本文に戻る](#)

Rob Redford

ロブ・レッドフォード ★（1936-）。ロバート・レッドフォードのこと。ロブはロバートの愛称。アメリカの俳優・映画監督。俳優としては『明日に向かって撃て!』（'69年）、『スティング』（'73年）などに出演。監督としては『普通の人々』（'80年）でアカデミー賞最優秀監督賞に輝いている。
[▶本文に戻る](#)

Steve Buscemi

スティーブ・ブシェミ ★（1957-）。アメリカの俳優・映画監督。出演作に『レザボアドッグス』（'91年）、『ファーズ』（'96年）など。ヨハンソンとは『ゴーストワールド』、『アイランド』（2005年）で共演。監督作に『トゥリーズ・ラウンジ』（'96年）など。
[▶本文に戻る](#)

Sydney Pollack

シドニー・ポラック ★（1934-）。アメリカの映画監督・俳優・プロデューサー。監督として『追憶』（'73年）、『トッツィー』（'82年）、『愛と哀しみの果て』（'85年）などの名作を世に送り出す。『アイズ ワイド シャット』（'99年）などで俳優としても活躍。
[▶本文に戻る](#)

語注

opposite ~

～の相手役で、～と共演して

[▶本文に戻る](#)

banter

悪意のない冗談、冷やかし ★ここでは「気楽に冗談を言えるような関係」のこと。

[▶本文に戻る](#)

it's a shame ...

...とは残念だ

[▶本文に戻る](#)

figure

見つけ出す、考え付く

[▶本文に戻る](#)

straight face

(笑い・怒りなどの感情をこらえた) 無表情な顔、まじめな顔

[▶本文に戻る](#)

be supposed to do

～するはずである

[▶本文に戻る](#)

and, of ...

★and と言いかけて of と言い直している。

[▶本文に戻る](#)

yet again

さらにもう一度

[▶本文に戻る](#)

love interest

恋愛の対象

[▶本文に戻る](#)

for a change

たまには、気分転換に

[▶本文に戻る](#)

charismatic

カリスマ性のある

[▶本文に戻る](#)

gorgeous

ハンサムな、素敵な、格好いい

[▶本文に戻る](#)

talented

才能のある

[▶本文に戻る](#)

fully formed

完全に形成された、成熟した

[▶本文に戻る](#)

masculine

男らしい、男っぽい

[▶本文に戻る](#)

Prince Charming

理想の男性 ★シンデレラの物語に出てくる王子の名前。

[▶本文に戻る](#)

bumbling

どじな、不器用な

[▶本文に戻る](#)

mature

成熟した ★maturation は「成熟」という意味の名詞。

[▶本文に戻る](#)

that's

★正しくは that。

[▶本文に戻る](#)

film

映画を制作する

[▶本文に戻る](#)

awkward

不器用な、扱いにくい

[▶本文に戻る](#)

puberty

思春期

[▶本文に戻る](#)

pine after ~

～を切望する、～を思い焦がれる

[▶本文に戻る](#)

actor

★ここでは主に女優を指していると思われる。

[▶本文に戻る](#)

couldn't disagree more

まったく同意できない、絶対反対だ ★直訳すると「これ以上の反対はできない」。

[▶本文に戻る](#)

contribute to ~

～に寄与する

[▶ 本文に戻る](#)

a huge part . . . of New York.

★= the way I think is greatly influenced by my experiences in New York and I'm very aware of New York society.

[▶ 本文に戻る](#)

consciousness

意識、自覚

[▶ 本文に戻る](#)

feel passionate about ~

～に夢中である

[▶ 本文に戻る](#)

volatile

移ろいやすい、不安定な

[▶ 本文に戻る](#)

bustling

にぎやかな、騒がしい

[▶ 本文に戻る](#)

A black and white portrait of actress Helen Mirren. She is shown from the chest up, wearing a light-colored, possibly lace-trimmed, top. Her hair is short and styled in a voluminous, wavy manner. She is smiling slightly, looking directly at the camera. The background is a plain, light color.

Helen Mirren

写真：Startraks/アフロ

国の象徴である女王を気高く演じたイギリスの国民的女優

Helen Mirren

“I didn’t want to be a famous actress. I didn’t want to be a movie star. I wanted to be a great actress.”

「私は有名な女優になりたいとは思わなかったし、映画スターになりたいとも思わなかった。偉大な女優になりたかったの」

Supervising Editor’s Comment

女王役にふさわしい、落ち着いた品の良い話し方だ。控え目な声量、柔らかな響き、ゆっくりめの発話速度などから判断できる。英国では、社会階層の上の人が標準的な発音（RP＝Received Pronunciation「容認発音」）を使う。また上の層ほど、話し方は穏やかで柔らかだ。彼女は英国の田舎の下層中流階級の出身と語っているが、父親はロシアから亡命した貴族だという。発音自体はRPでロシア語訛りなどはないが、品の良い話し方は家庭環境によるものかもしれない。

Interview Data	
収録日	2007年1月29日
収録地	カリフォルニア（アメリカ）
スピード	普通
語彙	普通
発音	明瞭

ヘレン・ミレン
Helen Mirren
1945年、ロンドン生まれ。1965年に舞台デビュー、『としごろ』（1969年）で映画デビュー。舞台・テレビ・映画に幅広く活躍し、テレビシリーズ「第一容疑者」（1991年～）の主役、ジェーン・テニスンを演じて高い評価を得る。2003年には、イギリスを代表する名女優としてデйм（dame）の称号を授与される。『クイーン』で2006年度アカデミー主演女優賞受賞。現英国王室を正面から描いた問題作『クイーン』でアカデミー主演女優賞を受賞した、英国を代表する名女優、ヘレン・ミレンが、イギリス人の王室への複雑な思い、エリザベス女王を演じた際の役作りについて語る。女王役にふさわしい典雅なイギリス英語が聞ける。

Setting the Right Tone

DL Track17

用語解説 語注

Reporter: [The film](#)'s been open for two weeks in the U.K. and it's been, it's [doing tremendous business](#). What is your reaction to how well it's doing? And what is your reaction to how people are [embracing](#) it?

Helen Mirren: It's wonderful. It's absolutely great. I mean, [do you, one knew](#) that this was a [hot potato](#) and, and one knew that it would be looked at with the greatest of [scrutiny](#) in Great Britain because the British people have such a, a [schizophrenic](#) relationship with their [Royal Family](#) of, [utter](#), sort of, love and respect and, and -- [bordering on obsession](#) - and then, sort of hatred and [resentment](#). So it's, it's a very, very schizophrenic relationship. So, one knew that, it would be [scrutinised](#).

And it was dangerous, because to get, if the [tone](#) was wrong, if it was a [cheap shot](#), it would've been enjoyed as a cheap shot 'cause the British love more than anything to take cheap shots at the Royal Family, but, I think to see it embraced the way it has been is very, very [gratifying](#).

It was an honest [piece of work](#). I think [*we all tried very hard to be truthful and honest, and, and as much integrity as possible without being sycophantic and, without being unfairly attacking, to try and find the middle road in a world that really we know nothing about. You know, we're all taking a guess. It's an educated guess, but it is a guess.](#)

translation ▶

Reporter: There is an [unguarded](#) moment in the movie when [the Queen](#)'s car breaks down and she begins to cry. We never see this kind of emotion from the real Queen, so can you talk a little about what you were trying to [portray](#) in that scene?

Mirren: It was written in the script, I think partly because we have never seen the Queen . . . Well she, she cried once -- she cried at [her mother](#)'s funeral. But she's been [extraordinary](#) in her ability not to [display](#) her emotions [publicly](#). You can't imagine how difficult that [must've](#) been sometimes and [requiring incredible depths](#) of [self-control](#). Difficult to do, you know. Very difficult to do.

You think of all the [traumas](#) that she's [been through](#) in her whole life, she had to go out and [put a brave face on](#) it. And so I think the moment where you see the Queen crying freely because she's alone, she's utterly alone, the pressure of that, of everything [coming down upon](#) her head -- the loss of [Diana](#), because I think that was very traumatic for all of them, you know; [the incomprehension of the public as to](#) why they were doing what they were doing; the conflict between the sense of [protocol](#) and tradition and people saying, "[To hell with](#) tradition," you know, "Now we [gotta](#), you know, do whatever we've gotta do." -- and I think of the pressure of all that, I thought that was a very [believable](#) scene.

Reporter: Because you grew up seeing the Queen on television and hearing her on the radio, did you feel you really needed to study her character much?

Mirren: Oh, absolutely. Of course. Because she was like [Big Ben](#), you know. I could draw Big Ben with my eyes shut, point, circle in the middle, [handles](#), [twiddly bits](#) here and there, somewhere or other. But I, 'cause I've driven past Big Ben a thousand time--a million times, but I've never actually looked at it. It's so utterly familiar, but at the same time, I don't know what goes on inside of Big Ben. I've no idea.

So, um, yes, I had to absolutely study her in a completely different way which was [fascinating](#); fascinating to have one's [prejudices upturned](#) -- some confirmed, some upturned -- and to look at this person as a person, as a [psychology](#), rather than an [icon](#) and a [figurehead](#).

The Un-vain Queen

DL Track19

用語解説 語注

Reporter: How important were the [wardrobe](#) decisions in [establishing](#) the character?

Mirren: The wardrobe was very important here. But, but I think more than the wardrobe, it was to [let go of](#) any sense of [vanity](#), because the Queen who was one of the most beautiful young women, um, you know, absolutely beautiful -- young [Elizabeth Taylor](#) -- I mean [gorgeous](#), um, I don't think, ever had any [personal](#) vanity.

And she's never [dyed](#) her hair, she's never changed her [hairdo](#), she likes clothes that are comfortable, [appropriate](#). If she's gotta wear a hat, a dress and she's gotta be seen, she'll wear a bright [turquoise](#) hat and dress to be seen, not whether it [flatters](#) her or not. She doesn't care about that. I mean she's . . . For a woman, and I think she's a very [womanly](#) woman, she absolutely doesn't care about clothes at all. It's really interesting or, and is completely [un-vain](#).

And for someone who's [photographed all the time](#) and filmed all the time, to have someone who so doesn't care about the [image](#) . . . But [in a way](#) I think that's, that puts her into this other world, the world of [the monarchy](#), where you're not a fashion model, you're not a celebrity. [One tries to explain to people how a monarch is not a celebrity](#); you're [way beyond](#) the concept of celebrity.

translation ▶

Reporter: When you were little, what was it that *inspired you to reach for the stars, to do something great with your life? What interested you in becoming an actress?

Mirren: Well, I never thought of it in terms of doing something great. I mean in my dreams I wanted to be a great actress. I didn't want to be a famous actress. I didn't want to be a movie star. I wanted to be a, a great actress. I was inspired by, and loved the stories of, Sarah Bernhardt and Eleonora Duse and that sort of 19th-century concept of actors. But that was on one side.

But the other thing was, you know, was engaging in the world of imagination, and, and that I just, I loved. I grew up in a very mundane, you know, *backwater of England. Um, lower-middle-class-income family. I mean very lower middle class, you know. I mean, like, very little, very, very little money in the household, no TV, no records, no radio, no heating, no car, no washing machine, no refrigerator.

So that was my, you know, how I grew up. I mean, until I was, left home, you know, the, to the day we left home we didn't . . . think we got a fridge when I was probably about 15 or something.

Reporter: Are you ready to say farewell to the character of Jane Tennison?

Mirren: I have said farewell to Jane. Yes, I mean, the last one is coming on television mid-November, and, um, and it's great. It's really great. It's very, very different from the Queen's, that's for sure.

translation ▶

*Interviewed by Jordan Riefe / Planet Syndication
Narrated by Steve Martin, Michael Rhys, Julia Yermakov*

正しいトーン

 **DL**  **Track17**

記者：この映画は、イギリスでは2週間前に封切られて大ヒットしています。この好調ぶりをどう受け止めますか？ また、この映画を観客が好意的に受け入れたことについて、あなたのお考えは？

ヘレン・ミレン：素晴らしいことです。本当に素晴らしいことだと思います。つまり、これは扱いが難しいテーマだとわかっていましたし、イギリスではきわめて厳しい視線が注がれることも承知していました。イギリス人は王室と矛盾した関係、いわば無条件の敬愛の念——ほとんど執着心とも言うべき——とある種の憎しみと反感という矛盾した感情を抱いているからです。すごく矛盾した関係なんです。ですから、あれこれ言われるのはわかっていました。

そして危険でもありました。作品のトーンを間違えれば、つまり低俗な攻撃になつてしまえば、それはそれで喜ばれたでしょう。イギリス人は王室に対する低俗な攻撃が何よりも大好きですから。でも、あんなふうに受け入れられたのは、とてもうれしいことです。

これは誠実な作品だったのです。私たちは皆、事実在即して誠実で正直であらうと大いに努力をしました。へつらうことも、アンフェアに攻撃をすることもなく、できる限り品位を保とうとしたのです。私たちが本当に何も知らない世界の中で中間の道を見いだそうと努力しました。そう、当て推量なのです。知識に基づいた推量ではありましたが、推量であることに変わりはありません。

【原文】[▶](#)

一人の人間としての女王

 [DL](#)  [Track18](#)

記者：映画の中で、女王の車が故障し、彼女が泣き出すという無防備なシーンがありましたね。実際の女王がこのように感情をあらわにするのを誰も見たことはありませんが、このシーンで何を表現しようとしたのか、少し話していただけますか？

ミレン：脚本に書かれていたのです。ひとつには、おそらく（女王が泣くところを）誰も見たことがないから・・・いや、一度ありましたね——皇太后の葬儀で泣いたことがあります。ですが、公の場で感情を表に出さないということにかけては彼女は卓越していました。それが時にどれほど困難なことだったか想像もできません、信じられないほど強い自制心を必要としたことでしょう。難しいことですよ。非常に難しいことです。

彼女は人生を通してあらゆる心の痛手を経験してきましたが、外に出て平静を装わなければなりませんでした。ですから、映画の中で女王が思う存分泣くのは、彼女が独り、完全に独りだったからで、あらゆることから受けるプレッシャーが彼女に不意にのしかかってきたのだと思います——ダイアナの死もそうです、あれは誰にとっても衝撃でしたからね。それに、王室がなぜああした態度を取ったのかということに対する大衆の無理解もそうです。慣習意識や伝統と、「伝統なんかくそくらえ」とか、「やらなきゃならんことはやらなきゃならん」という大衆とのあつれきです——こうしたすべてのプレッシャーを思うと、あのシーンはとても真実味のあるものだとは思いました。

記者：あなたは女王をテレビで見たり、彼女の声をラジオで聞いたりしながら育ったわけですが、それでもやはり女王の人柄を大いに研究しなければならないと感じましたか？

ミレン：ええ、当然です。もちろんですよ。彼女はビッグベンみたいなものでしたから。私は目をつぶっていてもビッグベンを描くことができます。尖塔、真ん中に丸（い文字盤）、針、あちこちに入り組んだ装飾、といった具合にね。ビッグベンの横を車で何度も何度も——嫌になるほど通ってますから。でも実際、きちんと見たことは一度もないんです。これ以上ないくらい身近なものなのに、ビッグベンの内部がどうなっているのか知りません。全然わからないわ。

ですから、そう、まったく違った方法で女王を研究しなければならなかったわけで、それはとても興味深いことでした。先入観が覆されたり——裏付けられたものも、覆されたものもありました——そしてこの人物を、象徴やお飾りではなく、一人の人間として、一個人の心理状態として考察するのは、実に興味深かったですね。

【原文】[▶](#)

虚栄心ゼロの女王

 [DL](#)  [Track19](#)

記者：女王の人物像を作り上げるにあたって、衣装決めはどのくらい重要でしたか？

ミレン：衣装は非常に重要でした。しかし、衣装というより、自分を実物以上に見せたいという気持ちを一切なくすことでしたね。なぜなら、女王は若いころ、誰にも負けないくらい美しかった、完璧な美人でした―若き日のエリザベス・テラーみたいに―とにかく目の覚めるような、にもかかわらず、女王には外見を飾ろうという虚栄心がまったくなかったのではないかと思います。

女王は髪を染めたこともないし、髪型を変えたこともない。そして着心地がよく、その場にふさわしい服が好きです。公の場に出るために帽子や服を着用しなければならないときは、鮮やかなターコイズブルーの帽子や服を身に着けます。自分が引き立って見えるかどうかは気にしない。そういうことは頭がないんです。つまり彼女は・・・女性として、彼女はとても女性らしい女性だと思いますが、着るものにまったく無頓着なんです。とても興味深いというか、虚栄心がまったくないんですよ。

常に写真や映像を撮られ続けている人物として、自分の外見を気にかけないというのは・・・しかし、ある意味ではこれこそが、あの浮世離れた世界、つまりファッションモデルでも有名人でもない、王室世界の住人たるゆえんでしょうね。王族というのは有名人とは違うということを申し上げたいんですよ。有名人という概念をはるかに超越しているのですから。

【原文】[▶](#)

夢、そして別れ

 [DL](#)  [Track20](#)

記者：子どものころ、高みを目指そう、人生で偉大なことを成し遂げよう、とあなたを駆り立てたものは何だったのですか？ 女優になることのどんなところに興味を引かれたのでしょうか？

ミレン：何か偉大なことをしよう、といったことは考えていませんでした。偉大な女優になりたいという夢はありましたが。有名な女優になりたいとは思いませんでしたし、映画スターになりたいわけでもなかったんです。偉大な女優になりたかった。サラ・ベルナールやエレオノーラ・ドゥーゼのような**19世紀**の俳優の概念に刺激を受け、大好きになりました。でもそれは一つの側面でした。

もう一つは、私は想像力の世界にのめり込んでいて、それが大好きだったことです。私はイギリスの田舎で、下層中流階級の所得しかなかった家庭に育ちました。つまり、とても下層の中流階級です。家の所得はとても低かったし、テレビも、レコードも、ラジオも、暖房も、自動車も、洗濯機も、冷蔵庫ありませんでした。

ええ、そんなふうに育ったんです。私が家を出るまで、私たちが家を出るまでは何も……。冷蔵庫を買ったのは私が**15歳**ぐらいのときだったと思います。

記者：ジェーン・テニスン役にお別れをする準備はできていますか？

ミレン：もうジェーンには別れを告げました。ええ。最終回は**11月**半ばにテレビ放映されますが、いいドラマですよ。ほんとに素晴らしいです。女王（役）とはまったく違った役だったことだけは確かですね。

【原文】[▶](#)

Vocabulary List

A

- a piece of work** （一編の）作品
- as to** ～ ～に関する

B

- backwater** 発展の遅れた地域、僻地
- be through** ～ ～を経験する
- believable** （登場人物や状況などが）もつともらしい、現実にあるような
- border on** ～ ～に近い

C

- cheap shot** 卑劣なプレー、低俗な当て付け ★**take a cheap shot at** ～で「～に卑劣な攻撃をする」。
- come down upon** ～ ～を不意に襲う

E

- educated** （推察が）知識や経験に基づいた
- embrace** 受け入れる
- engage in** ～ ～にふける、～にかかわる

F

- fascinating** 興味をそそる、とても面白い
- figurehead** 名目上の長、お飾り
- flatter** （衣装などが～を）引き立てる

G

- gratifying** 満足できる

H

- hairdo** 髪型
- hot potato** 難題、扱いが難しいもの

I

- icon** 象徴、偶像
- in terms of** ～ ～の点から
- inspire ~ to do** ～（人）に刺激を与える、～の関心をかき立てる
- integrity** 誠実さ、高潔、品位

L

- let go of** ～ ～をなくす、～から解放される
- lower-middle-class-income** 下層中流階級の所得の

M

- mundane** 平凡な、ありふれた

P

- personal** 容姿の、風采の
- portray** （役を）表現する、（人を）生き生きと描写する
- prejudice** 先入観
- protocol** 儀礼、慣習
- psychology** （個人などの）心理状態
- put a brave face on** ～ ～について平静を装う

R

- reach for the stars** 困難なことをやろうとする、高望みをする
- resentment** 敵意、憤り、反感

S

- schizophrenic** 分裂した、矛盾した ★原義は「統合失調症の」。発音は[skitʃəfrɛnik]。
- scrutinise** 吟味する ★アメリカ英語では**scrutinize**。
- scrutiny** 吟味、精密な調査
- sycophantic** おべっかを使う、へつらう

T

- the monarchy** 王室、君主制 ★**a monarch**で「君主、最高支配者」の意味。
- to hell with** ～ ～なんかくそくらえ、～はうんざりだ

□**twiddly bit** 入り組んだ装飾（部分）

U

□**un-vain** 虚栄心のない

□**upturn** ひっくり返す

□**utter** まったくの、無条件の

V

□**vanity** 虚栄心、うぬぼれ

W

□**way** はるかに

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	今回の映画が観客に好意的に受け入れられていることに対して、ミレンは率直に喜んでいる。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	イギリス人は王室に対して敬愛と憎悪という矛盾した感情を同時に抱いている、とミレンは述べている。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	この作品では、事実在即して偏ることなく誠実で正直であろうと努力し、一切の推量は排除した、とミレンは述べている。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	女王は公の場では感情を表に出すことはなく、自分の母親の葬儀でも涙を見せなかった、とミレンは説明している。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	ミレンは女王が泣き出すシーンを演じたが、あの演技はミレン自身が有名人として抱える普通のプレッシャーから生まれたものだ、と述べている。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	ミレンは、女王について、国会議事堂のビッグベン同様、幼い頃から何度も見聞きしてきたので、今回改めて役作りの研究をする必要はなかった。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	女王は髪を染めたり髪型を変えたりしたことはない。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	女王は華やかな服装を好み、身に付けるものには常に神経を使っていたので、映画での衣装選びは容易でなかった。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	ミレンは貧しい家庭に育ったため、子どもの頃、とにかく将来は有名な女優に、有名な映画スターになることを夢見ていた。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	ミレンは子どもの頃、想像の世界に浸ることが好きで、そのことも今の自分がある重要な要素のひとつだと彼女自身思っている。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

答え [▶](#)

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	今回の映画が観客に好意的に受け入れられていることに対して、ミレンは率直に喜んでいる。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	イギリス人は王室に対して敬愛と憎悪という矛盾した感情を同時に抱いている、とミレンは述べている。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	この作品では、事実在即して偏ることなく誠実で正直であろうと努力し、一切の推量は排除した、とミレンは述べている。	A	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
4	女王は公の場では感情を表に出すことはなく、自分の母親の葬儀でも涙を見せなかった、とミレンは説明している。	C	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
5	ミレンは女王が泣き出すシーンを演じたが、あの演技はミレン自身が有名人として抱える普通のプレッシャーから生まれたものだ、と述べている。	A	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
6	ミレンは、女王について、国会議事堂のビッグベン同様、幼い頃から何度も見聞きしてきたので、今回改めて役作りの研究をする必要はなかった。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
7	女王は髪を染めたり髪型を変えたりしたことはない。	C	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	女王は華やかな服装を好み、身に付けるものには常に神経を使っていたので、映画での衣装選びは容易でなかった。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
9	ミレンは貧しい家庭に育ったため、子どもの頃、とにかく将来は有名な女優に、有名な映画スターになることを夢見ていた。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
10	ミレンは子どもの頃、想像の世界に浸ることが好きで、そのことも今の自分がある重要な要素のひとつだと彼女自身思っている。	C	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

The film

この映画 ★ミレンが現英国女王エリザベス2世を演じた『クイーン』を指す。2006年イギリス映画。監督スティーブン・フリアーズ、共演マイケル・シーン、ジェイムズ・クロムウェルほか。1997年、ダイアナ元皇太子妃事故死の直後、王室と国民、マスコミの間に起きた軋轢と、その狭間で苦悩する女王の姿を描く。ミレンはこの演技で2006年アカデミー賞主演女優賞を受賞。

[▶本文に戻る](#)

the Queen

★現英国女王、エリザベス2世（1926-）を指す。

[▶本文に戻る](#)

her mother

★エリザベス女王の母、エリザベス皇太后（1900-2002）のこと。

[▶本文に戻る](#)

Diana

ダイアナ妃 ★（1961-97）。チャールズ皇太子の元妃。1981年に結婚。ウィリアム、ヘンリーの2人の王子をもうけるも、'96年に離婚。'97年にパリで交通事故で死去。

[▶本文に戻る](#)

the incomprehension of the public

大衆の無理解 ★ダイアナ元妃の交通事故死に際して、英王室は当初、彼女は民間人であるとしてコメントを発表せず、大衆の憤激を買い、批判を浴びた。

[▶本文に戻る](#)

Big Ben

ビッグベン ★イギリス国会議事堂の時計塔。ロンドンの象徴的建物。

[▶本文に戻る](#)

Elizabeth Taylor

エリザベス・テラー ★（1932-）。かつて「世界一の美女」と言われたアメリカの映画女優。

[▶本文に戻る](#)

Sarah Bernhardt

サラ・ベルナール ★（1844-1923）。フランスの女優。ミレンは英語式で発音している。

[▶本文に戻る](#)

Eleonora Duse

エレオノーラ・ドゥーゼ ★（1858-1924）。イタリアの舞台女優。ここでも発音は英語式。

[▶本文に戻る](#)

backwater of England

★ミレンは、大ロンドンの一部チジックの出身。

[▶本文に戻る](#)

Jane Tennison

ジェーン・テニスン ★英国のテレビシリーズ *Prime Suspect*（1991年～。邦題『第一容疑者』）でヘレン・ミレンが演じていた主役の警部（後に警視）。

[▶本文に戻る](#)

語注

do tremendous business

大もうけする、繁盛する ★ここでは『クイーン』が大ヒットしていることをこう言っている。 ★tremendous は「ものすごい、とても大きい」。
[▶本文に戻る](#)

embrace

受け入れる
[▶本文に戻る](#)

do you, one knew . . .

★do youで文を始めかけて、one knewと言い直している。
[▶本文に戻る](#)

hot potato

難題、扱いが難しいもの ★焼きたてのジャガイモが熱くて扱いにくいことから。
[▶本文に戻る](#)

scrutiny

吟味、精密な調査、詮索
[▶本文に戻る](#)

schizophrenic

分裂した、矛盾した ★原義は「統合失調症の」。発音は[skisəfrénik]。
[▶本文に戻る](#)

Royal Family

(イギリスの) 王室
[▶本文に戻る](#)

utter

まったくの、無条件の
[▶本文に戻る](#)

border on ~

～に近い
[▶本文に戻る](#)

obsession

執着、強迫観念
[▶本文に戻る](#)

resentment

敵意、憤り、反感
[▶本文に戻る](#)

scrutinise

吟味する ★アメリカ英語ではscrutinize。
[▶本文に戻る](#)

tone

調子、スタイル
[▶本文に戻る](#)

cheap shot

卑劣なプレー、低俗な当て付け ★take a cheap shot at ~で「～に卑劣な攻撃をする」。
[▶本文に戻る](#)

gratifying

満足できる
[▶本文に戻る](#)

a piece of work

(一編の) 作品

[▶ 本文に戻る](#)

we all tried very hard to be . . . and as much integrity . . .

★ = we all tried very hard to be . . . and have as much integrity . . .

[▶ 本文に戻る](#)

integrity

誠実さ、高潔、品位

[▶ 本文に戻る](#)

sycophantic

おべっかを使う、へつらう

[▶ 本文に戻る](#)

unfairly

不当に、フェアでないやり方で

[▶ 本文に戻る](#)

guess

推量、推測、想像

[▶ 本文に戻る](#)

educated

(推察が) 知識や経験に基づいた

[▶ 本文に戻る](#)

unguarded

無防備の、警戒心のない

[▶本文に戻る](#)

portray

(役を)表現する、(人を)生き生きと描写する

[▶本文に戻る](#)

extraordinary

並外れた、非凡な、驚くべき

[▶本文に戻る](#)

display

表す、露呈する

[▶本文に戻る](#)

publicly

公の場で、人前で

[▶本文に戻る](#)

must've

★= must have

[▶本文に戻る](#)

requiring

★正しくは、it must have required または it is something requiringとなるべき。

[▶本文に戻る](#)

incredible

信じられない

[▶本文に戻る](#)

depth

深さ、強さ

[▶本文に戻る](#)

self-control

自制心

[▶本文に戻る](#)

trauma

心の傷、精神的な痛手 ★traumaticは「心を苦しめる、(心に傷を残すほど)衝撃的な」という意味の形容詞。

[▶本文に戻る](#)

be through ~

~を経験する

[▶本文に戻る](#)

put a brave face on ~

~について平静を装う

[▶本文に戻る](#)

come down upon ~

~を不意に襲う

[▶本文に戻る](#)

as to ~

~に関する

[▶本文に戻る](#)

protocol

儀礼、慣習

[▶本文に戻る](#)

to hell with ~

～なんかくそくらえ、～はうんざりだ

[▶ 本文に戻る](#)

gotta

★= got to

[▶ 本文に戻る](#)

believable

（登場人物や状況などが）もつともらしい、現実にあるような

[▶ 本文に戻る](#)

handles

★hands（時計の針）と言おうとしたと思われる。

[▶ 本文に戻る](#)

twiddly bit

入り組んだ装飾（部分）

[▶ 本文に戻る](#)

fascinating

興味をそそる、とても面白い

[▶ 本文に戻る](#)

prejudice

先入観

[▶ 本文に戻る](#)

upturn

ひっくり返す

[▶ 本文に戻る](#)

psychology

（個人などの）心理状態

[▶ 本文に戻る](#)

icon

象徴、偶像

[▶ 本文に戻る](#)

figurehead

名目上の長、お飾り

[▶ 本文に戻る](#)

wardrobe

衣装、衣服
[▶ 本文に戻る](#)

establish

確立する、打ち立てる
[▶ 本文に戻る](#)

let go of ~

~をなくす、~から解放される
[▶ 本文に戻る](#)

vanity

虚栄心、うぬぼれ
[▶ 本文に戻る](#)

gorgeous

華やかな、素晴らしい
[▶ 本文に戻る](#)

personal

容姿の、風采の
[▶ 本文に戻る](#)

dye

染める
[▶ 本文に戻る](#)

hairdo

髪型
[▶ 本文に戻る](#)

appropriate

適切な、ふさわしい
[▶ 本文に戻る](#)

turquoise

青緑色の、ターコイズブルーの
[▶ 本文に戻る](#)

flatter

（衣装などが~を）引き立てる、（衣装などが~に）よく似合う
[▶ 本文に戻る](#)

womanly

女性らしい
[▶ 本文に戻る](#)

un-vain

虚栄心のない
[▶ 本文に戻る](#)

photograph

写真を撮る
[▶ 本文に戻る](#)

all the time

いつも、四六時中
[▶ 本文に戻る](#)

image

姿
[▶ 本文に戻る](#)

in a way

ある意味では

[▶本文に戻る](#)

the monarchy

王室、君主制 ★a monarchで「君主、最高支配者」の意味。

[▶本文に戻る](#)

One tries to explain . . . concept of celebrity.

★ここでは、I want to explain that a monarch is not a celebrity, because as a concept a monarch is completely different from a celebrity. といった意味。

[▶本文に戻る](#)

way

はるかに

[▶本文に戻る](#)

beyond ~

~を超えた

[▶本文に戻る](#)

inspire ~ to do

～（人）に刺激を与える、～の関心をかき立てる

[▶ 本文に戻る](#)

reach for the stars

困難なことをやろうとする、高望みをする

[▶ 本文に戻る](#)

in terms of ~

～の点から

[▶ 本文に戻る](#)

engage in ~

～にふける、～にかかわる

[▶ 本文に戻る](#)

imagination

想像力

[▶ 本文に戻る](#)

mundane

平凡な、ありふれた

[▶ 本文に戻る](#)

backwater

発展の遅れた地域、僻地

[▶ 本文に戻る](#)

lower-middle-class-income

下層中流階級の所得の

[▶ 本文に戻る](#)

household

家庭、世帯

[▶ 本文に戻る](#)

refrigerator

冷蔵庫 ★=fridge

[▶ 本文に戻る](#)

farewell

別れ、別れのあいさつ

[▶ 本文に戻る](#)

the last one

★ここではテレビドラマ・シリーズの「最終回」を指す。

[▶ 本文に戻る](#)



Orlando Bloom

写真：Rex Features/アフロ

Orlando Bloom

“It’s a sort of transition time for me. . . and I’m excited about doing other film work, but also going in to doing some theatre stuff.”

「僕にとっては過渡期のようなもので.....ほかの映画の仕事もすごくやりたいけど、舞台も手がけてみたいと思ってるんだ」

Supervising Editor’s Comment

RP（英国の標準的発音）よりも少しくだけた、大衆的な発音をしている。大きな特徴は、1）語中語末などの[t]が聞こえなくなる。about the Piratesの下線部はその典型。[t]は英語でもっとも多い子音だけに、これが聞こえなくなると、わからなくなることが多い。2）wayなどの[eɪ]が「アイ」に近くなる。これらは、現在の英国の（特に南部の）若い世代の人にはごく普通に使われる特徴である。

Interview Data	
収録日	2007年5月17日
収録地	ロサンゼルス（アメリカ）
スピード	速い
語彙	普通
発音	明瞭

オーランド・ブルーム

Orlando Bloom

1977年1月13日、イギリス・ケント州カンタベリー生まれ。名門ギルドホール音楽演劇学校在学中に『オスカー・ワイルド』（1997年）で映画デビュー。「ロード・オブ・ザ・リング」三部作（2001年、'02年、'03年）で注目を浴び、「パイレーツ・オブ・カリビアン」三部作（2003年、'06年、'07年）、『トロイ』（2004年）といった大作に出演している。「ロード・オブ・ザ・リング」シリーズに続き、「パイレーツ・オブ・カリビアン」三部作にも出演、瞬く間に大スターになった英国人俳優が、30歳を迎えてアイドル的キャラクターから「真の役者」への脱皮を目指す心境や、環境問題について語った興味深いインタビュー。

The Unexpected Trilogy

DL Track22

用語解説 語注

Reporter: [Trilogies](#) are a very successful [weapon](#) for [Hollywood](#) for movies, so what do you think about being in [two of the most popular trilogies](#) of [the cinema](#)?

Orlando Bloom: That makes me really nervous when people [put](#) it like that. We [set out](#) making [Pirates 1](#) and we, the success of the first movie [led to](#) another two. I, I don't think anyone expected that we would make three films. And, um, so it's [phenomenal](#) that the audience has [embraced](#) it. And as an actor you're a storyteller and so to, for people to be interested in hearing your story or seeing you [bring that story to life](#), it's [fantastically rewarding](#).

I think what's so cool about the Pirates trilogy is that it was [in response to](#) the audience's embrace that the second and third movies were made.

And it was no easy [feat](#) for the writers to take what was one film -- and only meant to be one film -- and then, kind of, [spin it into](#) a second and then finish it with a third. So, you know, it's not an easy thing to do, but, um, I think it's exciting because it feels like whatever anyone writes about this film or says about this film, the audiences have [taken ownership of](#) it at this point. And as an actor to [be involved in](#) that, or anyone I think, for any of us to feel involved in that, it's really rewarding, you know. It's why we make movies -- for people to enjoy them, so.

Reporter: How, do you think, was [Will Turner](#) growing from picture to picture -- the character?

Bloom: Um, I felt very, really very lucky to play Will. I often would see, you know, [Johnny](#) playing [Captain Jack](#), and go, you know, just [marvel at](#) what he can do -- you know, at his ability, [physically](#), to create this character. And, and [Geoffrey](#), sort of, felt like he had "freedom" [tattooed](#) across his [forehead](#). He was just [out there](#), and I was, like . . .

But actually, as I saw the first movie and, and then the second movie, Will's this, kind of, the [emotional core](#), [in a way](#). He's got these two very clear [objectives](#): he's [gotta](#) save his father from a [fate](#) worse than death, and he's [gonna](#) get the girl for, you know, and he'll die for it. And, and I think that there was something really [heroic](#) and beautiful and simple about that that made him a really great character to play.

translation ▶

Reporter: *You're gonna [turn](#) 30, so is that [a world's end](#) to you, too?

Bloom: No, I was actually really excited to turn 30. And, and, uh, I sort of felt like *I didn't have to [take myself seriously](#) anymore 'cause the number did it for me, in a way. And it was a good, big [relief](#). I had a great birthday and, uh . . . Yeah, it's good. It's a sort of [transition](#) time for me. It's an exciting time, you know -- end of a really big series of movies, and I'm excited about doing other film work, but also to, going in to doing some theatre stuff just to [work on](#) the [foundation](#).

You know, Geoffrey Rush -- and I've seen him [onstage](#) a couple of times. And [Bill Nighy](#) -- I saw him in New York recently. And all these actors that I really [admire](#) have all mixed doing theatre with film. And that's what I think keeps them sharp. So, you know, at least that's the way it's been described to me by them as well. So, it'd be good to do some. Yeah.

Moderator: This has been part of your life for, really been a huge [chunk of](#) your life for so many years now. Is it with mixed emotions that you now [sit back](#) and [assess](#) all the experiences you've had over these three films?

Bloom: Yeah, I feel very fortunate. I, it feels like I've been doing a Pirate movie for most of my adult life. But I feel very fortunate, because obviously, it, it's a [quality](#) film and it's a great -- I've been working with great people, and [under the direction of Gore](#) and working [alongside](#) Johnny and a great cast, and [Jerry](#). It's been a fantastic, sort of, [safety net, as it were](#), you know, I'm excited. So, it's [definitely](#) a [bittersweet](#) feeling of . . . you know, it's gonna be sad to say goodbye to the character of Will, 'cause I love him, you know. He's completely [fearless](#). And he's become a pirate by the end of it. So, it sort of, just as I was starting to, sort of, get excited about being a pirate, it's [come to an end](#), so . . .

But it's cool because, um, yeah, I'm ready. I'm going back to London to do some theatre. I need to do something completely different. I [wanna](#) go back to what it felt like when I left drama school, you know. That feeling of, like, something, a completely, of [immersing myself in](#) a completely different world.

Reporter: You mentioned earlier that these trilogies were your safety nets, as they were. So . . .

Bloom: Did I mention it like that?

Reporter: Yeah, you did say it.

Bloom: Oh, right.

Reporter: And I was just wondering how you feel about your career right now. Or, theatre has been, for a lot of [established](#) actors in the movies, sort of, a way of going back and showing their [craft](#). I mean, [Harry Potter is naked in London](#). Is that, like, a [route](#) you wanna go?

Bloom: Go naked in London? Nothing wrong with a bit of [nudity](#). Um, yeah, I mean, it's been really fantastic to have a successful trilogy of films -- to be a part of for such a long time -- and [to have done one before that](#). But it, it's also taken me into . . . you know, it's a really big movie, and, you know, I kind of wanna [go back to basics](#) a little bit. And, uh, I guess turning 30 and looking at my life and thinking how fortunate I've been -- you know, "What can I do that's completely different and challenging me in a completely different way?"

You know, I'm very fortunate to be able to say that I'm quite comfortable on a huge movie set. I feel very [blessed](#) to be able to say that. You know, not many actors have the opportunity to work on movies with Jerry Bruckheimer and . . . You know what I mean? And it's an [intimidating](#) environment. But they may be more comfortable, say, "Well, I've done theatre my whole life and I'm really comfortable with that." Well, I haven't, and so that will be a challenge for me. And I'm [always up for](#) a challenge. So, I'm gonna [give it my best shot](#).

Reporter: Now you're getting a chance to actually [live some life](#) . . .

Bloom: Yeah.

Reporter: . . . which you probably haven't had much time to do. And I understand you're building an [eco-friendly](#) house.

Bloom: Mm.

Reporter: Uh, can you tell us a little about that? And, you know, what else do you want to do that you just haven't had time to do recently?

Bloom: Well, yeah, the, um, [*I just got back from Antarctica](#) -- I did a trip to Antarctica -- and it was, kind of, [fascinating](#) to see, really, what was [at stake](#).

The environment is such a massive issue that we all, kind of, think it's [doom and gloom](#). You know, it's [all or nothing](#). But actually, I don't think [that's the case](#). You can be somebody who drives an [SUV](#). That's fine, but there's a balance. So if you do that, then maybe use [energy-efficient light bulbs](#) at home, or just be conscious of switching off lights. If you [can afford to drive](#) an SUV, maybe you can afford to [make a donation to](#) a [wind farm](#) or a, you know, or plant some trees or . . . it's all about balance, you know.

If you think of the [ice caps](#) as, you know, the fridge of, of our planet, if your [fridge](#) at home [died](#), the food that you eat would [go rotten](#) and you'd [starve](#). So it's just about balance, really.

And, uh, my home in London is, sort of, um, I mean, I'm using [solar](#), I'm [figuring out](#) using solar panels -- a version of solar panels -- to use, to [run](#) it, and, uh . . . But, again, all my light bulbs will be energy efficient. And [I'll just do what you can](#). It's a balance, I think. That's the important thing.

Moderator: Haven't you also been doing some stuff for [UNICEF](#)?

Bloom: Yeah, I've been trying to. [We had a trip canceled](#), unfortunately, for security reasons, but yeah, it's [in the pipeline](#) to do some work with them. And I'm really excited to do so.

Reporter: I am from Argentina, and I want to know, *what is your relation with the [star system](#)? And what is your life when you don't work? What do you like to do? The music, sports, I don't know. The people in Argentina want to know more about you.

Bloom: I just try to keep it very, very real. I have a great family. I have great friends. I have a cool dog. And *I've been [afforded](#) the ability to have a home and I'm working on living in that home and creating a sort of very real life. When you work in such a [surreal](#) environment as movies, you, sort of, [go](#), "OK." When you're not working, just reading a book or listening to some news, [tunes](#), or [hanging out with](#) friends is, kind of, what you [crave](#), or just time alone even. So, I've been, kind of, enjoying that.

tanslation [▶](#)

Interviewed by Jordan Riefe / Planet Syndication

「パイレーツ・オブ・カリビアン」の成功

DL **Track22**

記者：三部作はハリウッド映画で大いに功を奏している手法ですが、映画界で最も人気のある三部作のうち2つに出演したご感想はいかがですか？

オーランド・ブルーム：そういう言い方をされると、本当に困ってしまうんですよ。僕たちは1作目の『パイレーツ（・オブ・カリビアン／呪われた海賊たち）』を作り始めて、その1作目の成功が後の2作につながりましたが、3本製作することになるなんて誰も予想していなかったと思います。つまり、観客にあれほど支持されるなんて驚きだったわけです。語り手である俳優としては、観客が自分の物語を聞きたがったり、自分が物語に命を吹き込むのを見たがったりしてくれるのは、この上なく報われることです。

「パイレーツ」三部作のとても素晴らしいところは、観客の支持に応えて、2作目と3作目が製作されたことだと思います。

そして、脚本家たちにとっては、まったく容易な業ではありませんでした。その1本の映画を基にして——しかも1本だけで完結するはずだった作品ですよ——そこから2作目を紡ぎ出し、3作目で完結させるというのはね。ですから簡単なことではないのですが、でも、すごいことですよ。だって、この作品について誰が何を書こうが言おうが、この映画は（1作目が成功した）その時点で観客のものになっていたわけですから。俳優としてこの作品に携わるのは、あるいは誰であれ、この作品に参加したと感ずるのは、とてもやりがいがあることだったんです。僕たちはそのために映画を作っているんですから——観客に楽しんでもらうためにね。

記者：ウィル・ターナーは、作品を重ねるにつれて、どう成長していったと思われますか——その人格についてですが？

ブルーム：ウィル役を演じられるのはものすごく、本当にものすごく幸運だと感じていました。ジョニー（・デップ）がキャプテン・ジャックを演じているのを目の当たりにしては、彼の力量に目を見張り——彼の、この役柄をつくり上げる身体表現能力にね。それにジェフリー（・ラッシュ）は、何というか、おでこに「自由奔放」と入れ墨でもしているような感じでした。彼がそこにいてだけで、僕はもう・・・

でも実は、1作目、2作目と見ていくと、ウィルは一種の情緒的な中核になっているんです。彼には2つのとても明確な目的があります。彼は、死よりも悲惨な運命から父親を救い出さなければいけないし、恋人を手に入れようとしていて、そのためには命を懸けます。そこにはとても勇敢で美しくて純粋なものがあって、それが彼をととても演じがいのある人物にしていたと思うんです。

【原文】[▶](#)

「30歳」が向かう場所

 [DL](#)  Track23

記者：30歳を迎えられますよね。それは、あなたにとっても「この世の終わり（ワールド・エンド）」ですか？

ブルーム：いいえ、実は30歳になることにとてもワクワクしていました。自分自身を真剣にとらえる必要がもうなくなったような気がしたんです。ある意味、（30という）数字のおかげで（自然に）そうなりますからね。ですから、うれしくて、すごくほっとしました。素晴らしい誕生日を迎えましたし・・・そう、いいものですよ。僕にとってはいわば過渡期ですね。刺激的な時期なんです——とても大きなシリーズ映画が終わって、ほかの映画の仕事もすごくやりたいですけど、舞台も手がけてみたいと思っています、基礎を鍛えるためにね。

ジェフリー・ラッシュは——何度か彼の舞台を見たことがあります。それにビル・ナイも——ニューヨーク（の舞台）で最近見ました。僕が心から尊敬する俳優は皆、舞台と映画を掛け持ちしていて、そのことが彼らの切れ味を保っているのだと思います。少なくとも、本人たちからもそう聞いています。ですから、やってみたいですね。ええ。

司会者：この作品は、これまであなたの人生の一部を、何年もの間、本当に人生の非常に大きな部分を占めてきました。3作品にわたって培ったいろいろな経験をあらためて振り返ると、いろいろな気持ちが入り交じるものですか？

ブルーム：ええ、自分が非常に幸運だと感じます。僕は、大人になってからの年月の大半を「パイレーツ」シリーズに取り組んできたような気がします。でも、とても幸運だと思っています。というのも、明らかに、質の高い作品でしたし、素晴らしい——僕は素晴らしい人たちと仕事をしてきたわけです。ゴア（・ヴァービンスキー）の指揮の下、ジョニーをはじめとする素晴らしい役者たち、それからジェリーと一緒に仕事をしました。最高の、安全網という感じでしたね、言ってみれば、胸が躍るような。ですから、確かにほろ苦い気持ちです・・・ウィルという役に別れを告げるのは悲しいことです、僕は彼のことが大好きでしたから。彼はまったく恐れ知らずで、最後には海賊になりました。ですから、ある意味、僕はちょうど海賊をやるのが面白くなってきたところで映画が終わりを迎えたわけで・・・

でも、それでいいんです、覚悟はできてますから。僕はロンドンに戻って舞台をやります。まったく違うことをする必要はあるんです。演劇学校を卒業した時の気持ちに戻りたいんです。何か、完全に、まったく別の世界に没頭する、あの感覚に。

記者：先ほど、これらの三部作がいわば安全網だったとおっしゃいましたね。それで・・・

ブルーム：そんなふうに言いましたっけ？

記者：ええ、確かにおっしゃいました。

ブルーム：ああ、そうでした。

記者：そこでお聞きしたかったのですが、現在のキャリアをどう思っているのでしょうか？ その、舞台演劇というのは、映画界での地位を確立した多くの俳優が舞い戻って技量を示す手段のようなものになっていますね。そう、ハリー・ポッターもロンドンで裸になっていますし。そういうのがあなたが行こうと思っっている路線ですか？

ブルーム：ロンドンで裸になること？ ちょっと脱いでみるのも悪くないですね。そうですね、つまり、成功を収めた映画の三部作に出演したことは本当に素晴らしい経験でした——こんなに長い間そこに参加して——しかも、その前にも1つやりましたし。でも、同時に僕は・・・つまり、超大作ですからね、ある意味ちよつと原点に戻りたいんです。30歳を迎えて人生を見詰め、自分がいかに幸運だったかをかみしめて——「まったく違うことで、まったく違った形で意欲をかきたててくれるもので、自分に何ができるだろう？」ってね。

巨大な映画の撮影現場にいてとても快適だと言えるのは、実に幸運なことです。そう言えるのはとても恵まれていると思います。ジェリー・ブラッカイマー作品に出演する機会に恵まれる俳優は限られていますし・・・わかりますよね？ しかも、それは非常に緊張感の高い環境です。でも、もつと気を楽にしていられるかもしれないですよね、例えば、「まあ、ずっと舞台演劇をやってきたから、すごく落ち着いていられるよ」といった具合に。まあ、僕にはまだ（舞台の）経験がないから、僕にとっては挑戦になります。僕はいつだって挑戦がしたくてたまらないんです。全力を尽くすつもりですよ。

【原文】[▶](#)

環境のこと

 [DL](#)  [Track24](#)

記者：これで、ご自分の生活を送れるようになりそうですね・・・

ブルーム：ええ。

記者：・・・今まで時間が足りなくてできなかったような生活を。それで、確か環境に配慮した家を建てていらっしやるとか。

ブルーム：ええ。

記者：そのことについて少し話していただけますか？ それから、最近時間がなくてできなかったことで、やってみたいことはほかに何がありますか？

ブルーム：そうですね、僕は南極から戻ってきたばかりで――南極旅行をしてきたのですが――危機にさらされているものを見て、言ってみれば、心を奮われました、本当に。

環境はあまりにも規模が大きい問題なので、僕たちは皆、状況を悲観的にとらえています。全力で取り組むか、あきらめるかだと。でも本当は、そうじゃないと思うんです。**SUV**車に乗っていてもいいんです。それは構わないんですが、問題はバランスです。もし**SUV**車に乗るなら、例えば、家では省エネ型の電球を使ったり、意識して電気を消すようにしたりするとか。**SUV**車に乗る余裕があるなら、たぶん風力発電事業に寄付をしたり植樹をしたりする余裕もあるでしょう・・・すべてはバランスの問題なんです。

（極地の）氷冠を地球の冷蔵庫だと考えると、家の冷蔵庫が動かなくなったら食べ物が腐って飢えてしまいますよね。ですから、とにかくバランスなんですよ、まさに。

それで、ロンドンの僕の家は、ソーラーを使っていて、ソーラーパネル――ある種のソーラーパネル――を使って家の電力を賄おうと考えていますし・・・先ほども言いましたが、電球はすべて省エネ型にします。自分にできることをするだけです。バランスだと思います。それが大事なことです。

司会者：ユニセフにご協力されたりもしていらっしやいませんか？

ブルーム：ええ、そうしようとしてきました。（視察）旅行の予定があったのですが、治安上の理由で残念ながら取りやめになって、でも、ええ、彼らに協力するための準備を進めています。とても楽しみですよ。


【原文】[▶](#)

プライベートの過ごし方

 [DL](#)  [Track25](#)

記者：私はアルゼンチンから来ました。お聞きしたいのですが、スター・システムとあなたの関係はどのようなものですか？ お仕事をしていないときの生活はどういうものですか？ 何をするのが好きですか？ 音楽、スポーツ、何でしょうか？ アルゼンチンの人々はあなたのことをもっと知りたがっています。

ブルーム：ごくごく現実的な生活を保つようにしています。僕には素晴らしい家族がいて、素晴らしい友人がいます。素敵な犬もいます。家を持つことができ、その家に住んで、きちんと地に足の着いた生活をしようとしています。映画のような現実離れた環境で仕事をしていると、「もうわかったよ」という感じになるんです。仕事を離れているときは、ただ読書したり、ニュースや音楽に耳を傾けたり、友達付き合いをしたりといったことをすごくしたいですし、一人の時間が持てるだけでもいいんです。ですから、そういったことを楽しんでいますね。

[【原文】](#) 

Vocabulary List

A

- Antarctica** 南極大陸
- as it were** いうなれば、いわば
- assess** 評価する、査定する
- at stake** 危うくなって、危機に瀕して

B

- be up for** ~ ~に乗り気で
- bittersweet** ほろ苦い
- blessed** 恵まれた、幸運な
- bring ~ to life** ~に生気を吹き込む

C

- can afford to do** ~する金銭的余裕がある
- chunk of** ~ かなりの~
- crave** 渴望する

D

- die** 動かなくなる、機能が停止する
- doom and gloom** 悲観的な

E

- eco-friendly** 環境に優しい
- energy-efficient** 省エネの

F

- feat** 離れ業、偉業、芸当、妙技
- figure out** ~ ~を考え出す
- forehead** 額

G

- give ~ one's best shot** ~を全力でやってみる
- go rotten** 腐る
- go** 言う

H

- hang out with** ~ ~と付き合う

I

- ice cap** 氷冠、万年雪
- immerse oneself in** ~ ~に没頭する
- in the pipeline** 進行中で、準備中で
- intimidating** 畏縮させるような

M

- make a donation to** ~ ~に寄付をする
- marvel at** ~ ~に驚嘆する

O

- objective** 目標、目的
- out there** あそこに、向こうに

P

- phenomenal** 並々ならぬ、驚くべき
- physically** 身体的に、肉体的に
- put** 表現する、言う

Q

- quality** 上質の、素晴らしい

R

- rewarding** 報われる、やりがいのある
- run** 動かす

S

- sit back** （仕事を終えて）くつろぐ
- spin A into B** A から B を紡ぎ出す
- starve** 餓死する、飢える
- SUV** スポーツ用多目的車 ★= sport utility vehicle

T

- take ownership of ~** ~の所有権を得る
- that's the case** それが事実だ ★**the case**で「真相、事実、実状」の意。
- the cinema** 映画界、映画産業
- trilogy** 三部作
- tune** 楽曲、旋律
- turn** （ある年齢などに）達する

U

- under the direction of ~** ~の指揮の下に

W

- wind farm** 風力発電基地
- work on ~** ~に取り組む

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	ブルームは、「パイレーツ」の1作目を作り始めた時点で、この作品が三部作になることを予感していた。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	1作目が観客の支持を得て好調だったものの、脚本家たちにとって2作目、3作目とストーリーを続けることは容易ではなかった。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	ブルームは30歳になり、体力的な面でいままでのような演技ができなくなることを心配している。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	ブルームは、演技の基礎を鍛えるために舞台もやってみたいと考えている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	ブルームは、第3作を終えたときに海賊を演じることに若干飽きが来たことを漏らしている。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	ブルームは環境問題に関心が強く、最近、北極を旅行した。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	ブルームは、SUVのような環境にやさしくない車には乗るべきでないと訴えている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	ブルームは、自分のロンドンの家では太陽エネルギーを利用して省エネを実行している。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	ブルームはユニセフに協力する活動を計画していたが、資金的問題で現在一時中断している。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	ブルームは映画のセットが好きで、私生活でもセットのような現実離れた環境の中で家族や友人と時間を過ごすことを楽しんでいる。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

答え [▶](#)

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	ブルームは、「パイレーツ」の1作目を作り始めた時点で、この作品が三部作になることを予感していた。	C	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
2	1作目が観客の支持を得て好調だったものの、脚本家たちにとって2作目、3作目とストーリーを続けることは容易ではなかった。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	ブルームは30歳になり、体力的な面でいままでのような演技ができなくなることを心配している。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
4	ブルームは、演技の基礎を鍛えるために舞台もやってみたいと考えている。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	ブルームは、第3作を終えたときに海賊を演じることに若干飽きが来たことを漏らしている。	A	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
6	ブルームは環境問題に関心が強く、最近、北極を旅行した。	A	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
7	ブルームは、SUVのような環境にやさしくない車には乗るべきでないと訴えている。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
8	ブルームは、自分のロンドンの家では太陽エネルギーを利用して省エネを実行している。	C	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	ブルームはユニセフに協力する活動を計画していたが、資金的問題で現在一時中断している。	A	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
10	ブルームは映画のセットが好きで、私生活でもセットのような現実離れた環境の中で家族や友人と時間を過ごすことを楽しんでいる。	A	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

用語解説

Hollywood

ハリウッド ★カリフォルニア州ロサンゼルスの一地区で、映画産業の中心地。アメリカの映画界そのものを指すことも多い。
[▶本文に戻る](#)

two of the most popular trilogies

★「ロード・オブ・ザ・リング」三部作と「パイレーツ・オブ・カリビアン」三部作の2つを指す。
[▶本文に戻る](#)

Pirates 1

★『パイレーツ・オブ・カリビアン／呪われた海賊たち』（2003年）を指す。
[▶本文に戻る](#)

Will Turner

ウィル・ターナー ★「パイレーツ・オブ・カリビアン」三部作でブルームが演じた主要登場人物のひとり。幼くして親と離れ、鍛冶職人として育つが、実は海賊の血を引いている。
[▶本文に戻る](#)

Johnny (Depp)

ジョニー（・デップ） ★（1963-）。アメリカの俳優。『シザーハンズ』（'90年）、『ギルバート・グレイブ』（'93年）、『ネバーランド』（2004年）など、多数の作品に主演。独特の存在感を誇り、演技力にも定評がある。
[▶本文に戻る](#)

Captain Jack (Sparrow)

キャプテン・ジャック（・スパロウ） ★「パイレーツ・オブ・カリビアン」三部作でデップが演じた、カリスマ性のある孤高の海賊。
[▶本文に戻る](#)

Geoffrey (Rush)

ジェフリー（・ラッシュ） ★（1951-）。オーストラリア出身の俳優。約20年間の舞台活動の後、『シャイン』（'96年）でアカデミー賞主演男優賞を受賞。「パイレーツ〜」三部作では、キャプテン・ジャックの宿敵キャプテン・バルボッサを演じる。
[▶本文に戻る](#)

You're gonna turn 30,

★ブルームは2007年1月にすでに30歳を迎えていたので、You turned 30, とした方が適切。

[▶本文に戻る](#)

a world's end

世界の果て、この世の終わり ★「パイレーツ・オブ・カリビアン」シリーズ第3作の副題、At World's Endに掛けている。

[▶本文に戻る](#)

Bill Nighy

ビル・ナイ ★(1949-)。テレビ・舞台・映画で活躍する、イギリスのベテラン俳優。『ラブ・アクチュアリー』(2003年)で英国アカデミー賞助演男優賞などを受賞。「パイレーツ・オブ・カリビアン」シリーズでは、顔に特殊メイクを施し、"深海の悪霊"と呼ばれる海賊ディヴィ・ジョーンズ役を演じる。

[▶本文に戻る](#)

Gore (Verbinski)

ゴア(・ヴァービンスキー) ★(1964-)。アメリカの映画監督。「パイレーツ・オブ・カリビアン」三部作の監督を務める。その他の監督作品に『マウス・ハント』('97年)、『ザ・メキシカン』(2001年)、『ザ・リング』('02年)などがある。

[▶本文に戻る](#)

Jerry (Bruckheimer)

ジェリー(・ブラッカイマー) ★(1945-)。アメリカの映画プロデューサー。「パイレーツ・オブ・カリビアン」三部作の製作者。ほかにも、『ビバリーヒルズ・コップ』('84年)、『アルマゲドン』('98年)、『パール・ハーバー』(2001年)などのヒット映画の製作を手がける。テレビドラマシリーズ「CSI」では制作総指揮を務めている。

[▶本文に戻る](#)

Harry Potter is naked in London

★このインタビューが行われた2007年5月当時、「ハリー・ポッター」シリーズで主役を演じているダニエル・ラドクリフが、ロンドンで舞台劇『エクウス』に主演しており、劇中で裸を披露して話題を呼んでいた。

[▶本文に戻る](#)

to have done one before that

★「ロード・オブ・ザ・リング」三部作のこと。

[▶本文に戻る](#)

I just got back from Antarctica

★ブルームは地球温暖化問題に関心があり、「パイレーツ・オブ・カリビアン」三部作の撮影終了後、プライベートで3週間、南極を視察してきた。
[▶本文に戻る](#)

UNICEF

ユニセフ、国際連合児童基金 ★= United Nations Children's Fund。子どもの権利擁護を目的とした国連機関。
[▶本文に戻る](#)

We had a trip canceled

★ブルームは、ユニセフに同行してインドネシアに行く予定だったという。
[▶本文に戻る](#)

語注

trilogy

三部作
[▶本文に戻る](#)

weapon

対抗手段、武器
[▶本文に戻る](#)

the cinema

映画界、映画産業
[▶本文に戻る](#)

put

表現する、言う
[▶本文に戻る](#)

set out ~

～し始める ★通例、この意味ではset out to doの形で用いられる。
[▶本文に戻る](#)

lead to ~

～につながる、～をもたらす
[▶本文に戻る](#)

phenomenal

並々ならぬ、驚くべき
[▶本文に戻る](#)

embrace

(喜んで)受け入れる ★名詞形もembraceで、「信奉、容認、受諾」の意。
[▶本文に戻る](#)

bring ~ to life

～に生気を吹き込む
[▶本文に戻る](#)

fantastically

素晴らしく、途方もなく ★形容詞形はfantastic。
[▶本文に戻る](#)

rewarding

報われる、やりがいのある
[▶本文に戻る](#)

in response to ~

～に応じて
[▶本文に戻る](#)

feat

離れ業、偉業、芸当、妙技
[▶本文に戻る](#)

spin A into B

A から B を紡ぎ出す
[▶本文に戻る](#)

take ownership of ~

～の所有権を得る
[▶本文に戻る](#)

be involved in ~

～に参加する、～に従事する

[▶ 本文に戻る](#)

marvel at ～

～に驚嘆する

[▶ 本文に戻る](#)

physically

身体的に、肉体的に

[▶ 本文に戻る](#)

tattoo

(～の) 入れ墨をする

[▶ 本文に戻る](#)

forehead

額

[▶ 本文に戻る](#)

out there

あそこに、向こうに

[▶ 本文に戻る](#)

emotional

感情の、情緒の

[▶ 本文に戻る](#)

core

中核、核心

[▶ 本文に戻る](#)

in a way

ある意味では、ある点で

[▶ 本文に戻る](#)

objective

目標、目的

[▶ 本文に戻る](#)

gotta

★= got to

[▶ 本文に戻る](#)

fate

運命、宿命

[▶ 本文に戻る](#)

gonna

★= going to

[▶ 本文に戻る](#)

heroic

英雄的な、勇敢な、高潔な

[▶ 本文に戻る](#)

turn

(ある年齢などに) 達する

[▶ 本文に戻る](#)

I didn't have to take myself seriously anymore 'cause the number did it for me, in a way.

★ここでは、I didn't have to worry about other people taking me seriously, because when you're 30, they do automatically. くらいの意味。

[▶ 本文に戻る](#)

take ~ seriously

～を真剣に受け止める

[▶ 本文に戻る](#)

relief

安心、(苦痛や心配などの) 除去

[▶ 本文に戻る](#)

transition

過渡期、変わり目

[▶ 本文に戻る](#)

work on ~

～に取り組む

[▶ 本文に戻る](#)

foundation

基礎、土台

[▶ 本文に戻る](#)

onstage

舞台上で

[▶ 本文に戻る](#)

admire

敬服する、あこがれる

[▶ 本文に戻る](#)

chunk of ~

かなりの～

[▶ 本文に戻る](#)

sit back

(仕事を終えて) くつろぐ

[▶ 本文に戻る](#)

assess

評価する、査定する

[▶ 本文に戻る](#)

quality

上質の、素晴らしい

[▶ 本文に戻る](#)

under the direction of ~

～の指揮の下に

[▶ 本文に戻る](#)

alongside ~

～と一緒に

[▶ 本文に戻る](#)

safety net

安全網、安全策 ★ここでは「安心できる環境」というような意味で使われている。

[▶ 本文に戻る](#)

as it were

いふなれば、いわば

[▶ 本文に戻る](#)

definitely

間違いなく、確かに

[▶ 本文に戻る](#)

bittersweet

ほろ苦い

[▶ 本文に戻る](#)

fearless

恐れ知らずの、勇敢な

[▶ 本文に戻る](#)

come to an end

終わる

[▶ 本文に戻る](#)

wanna

★= want to

[▶ 本文に戻る](#)

immerse oneself in ~

～に没頭する

[▶ 本文に戻る](#)

established

確立した

[▶ 本文に戻る](#)

craft

技量、技術

[▶ 本文に戻る](#)

route

路線、道筋

[▶ 本文に戻る](#)

nudity

裸の状態、裸になること

[▶ 本文に戻る](#)

go back to basics

原点に戻る

[▶ 本文に戻る](#)

blessed

恵まれた、幸運な

[▶ 本文に戻る](#)

intimidating

畏縮させるような

[▶ 本文に戻る](#)

be up for ~

～に乗り気で

[▶ 本文に戻る](#)

give ~ one's best shot

～を全力でやってみる

[▶ 本文に戻る](#)

live life

人生を送る
[▶ 本文に戻る](#)

eco-friendly

環境に優しい
[▶ 本文に戻る](#)

Antarctica

南極大陸
[▶ 本文に戻る](#)

fascinating

非常に興味深い、魂を奪うほどの
[▶ 本文に戻る](#)

at stake

危うくなって、危機に瀕して
[▶ 本文に戻る](#)

doom and gloom

悲観的な
[▶ 本文に戻る](#)

all or nothing

全部か無かの、百かゼロかの、イエスカノーかの
[▶ 本文に戻る](#)

that's the case

それが事実だ ★the caseで「真相、事実、実状」の意。
[▶ 本文に戻る](#)

SUV

スポーツ用多目的車 ★= sport utility vehicle
[▶ 本文に戻る](#)

energy-efficient

省エネの
[▶ 本文に戻る](#)

light bulb

白熱電球
[▶ 本文に戻る](#)

can afford to do

～する金銭的余裕がある
[▶ 本文に戻る](#)

make a donation to ~

～に寄付をする
[▶ 本文に戻る](#)

wind farm

風力発電基地
[▶ 本文に戻る](#)

ice cap

氷冠、万年雪
[▶ 本文に戻る](#)

fridge

冷蔵庫 ★=refrigerator
[▶ 本文に戻る](#)

die

動かなくなる、機能が停止する

[▶本文に戻る](#)

go rotten

腐る

[▶本文に戻る](#)

starve

餓死する、飢える

[▶本文に戻る](#)

solar

太陽エネルギー、太陽熱を利用した ★名詞、形容詞双方の用法がある。

[▶本文に戻る](#)

figure out ~

~を考え出す

[▶本文に戻る](#)

run

動かす

[▶本文に戻る](#)

I'll just do what you can.

★I'll just do what I can. のつもり。

[▶本文に戻る](#)

in the pipeline

進行中で、準備中で

[▶本文に戻る](#)

what is your relation with the star system?

★what your relation with the star system is. とした方が適切。

[▶本文に戻る](#)

star system

スター・システム ★「スター俳優を呼び物にして映画や演劇を作ること、あるいはその作品」という意味。

[▶本文に戻る](#)

I've been afforded the ability to have a home . . .

★ここでは、I've been able to afford a house . . . くらいの意味。

[▶本文に戻る](#)

afford

与える

[▶本文に戻る](#)

surreal

超現実の、非現実的な

[▶本文に戻る](#)

go

言う

[▶本文に戻る](#)

tune

楽曲、旋律

[▶本文に戻る](#)

hang out with ~

～と付き合う

[▶本文に戻る](#)

crave

渴望する

[▶本文に戻る](#)

A black and white photograph of Brad Pitt and Angelina Jolie. Brad Pitt is on the right, wearing a dark suit jacket over a light-colored shirt, looking slightly to the right. Angelina Jolie is on the left, wearing a dark top and a chunky necklace, looking towards the camera. The background is out of focus.

Brad Pitt & Angelina Jolie

写真：ロイター / アフロ

Brad Pitt / Angelina Jolie

“The way she combated this I find incredibly impressive and it lights a way for me.”

「彼女の戦いぶりは途方もなく感動的で、僕にとって道を照らしてくれるものなんだ」

Supervising Editor's Comment

B・ピットの英語は、母音が長めで比較的緩やかに聞こえる。しかし、すつきりと頭に入ってきやすい、とは言えない。つぶやくような話し方に加え、具体的に指し示せないような事柄について話しているからだ（特に後半）。A・ジョリーの場合、ピットより透る声だが、やや早口だ。早口でも句切りを多くして話してくれればいいのだが、息継ぎなく話し続けがちだ。それだけに、私たちの英語の処理速度を超えてしまうため、やはり理解しやすいとは言えないだろう。

Interview Data	
収録日	2007年5月21日
収録地	カンヌ（フランス）
スピード	速い
語彙	難しい
発音	明瞭

ブラッド・ピット／アンジェリーナ・ジョリー
Brad Pitt / Angelina Jolie

ブラッド・ピット
1963年12月18日、アメリカ・オクラホマ州生まれ。『12モンキーズ』（1995年）など主演作多数。『Mr. & Mrs. スミス』（2005年）での共演をきっかけにジョリーと交際を始め、正式な結婚はしていないが、共に家庭を築いている。

アンジェリーナ・ジョリー
1975年6月4日、ロサンゼルス生まれ。『17歳のカルテ』（1999年）でアカデミー助演女優賞受賞。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の親善大使も務め、海外から孤児3人を養子にしている。ピットとの間に実子が3人いる。

ハリウッド最強のビッグ・カップル、ブラッド・ピット&アンジェリーナ・ジョリーが、初めて2人揃って記者団に答えた2007年カンヌ映画祭での記者会見。ピットがプロデュース、ジョリーが主演した『マイティ・ハート』や親としての愛情について、仲良く答える。

The Joint Appearance

DL Track27

用語解説 語注

Reporter: Congratulations, everybody on a, uh, *tremendous film. And for Angelina and Brad Pitt, uh, I think this is the first time you're really *making a joint appearance, uh, before the world press and you're here in Cannes. Well, how do you feel about that?

Brad Pitt: Uh, y'know, truthfully, it doesn't feel much different for us 'cause we usually got a camera following us around every day in some capacity.

But, um, *it's not a conscious effort other than we're really happy to be here with this project and with *everyone here on this dais and the other cast here.

We're, we have great respect for this story and its place in the world and our friendship that has formed because of it. And, and the message is, is very important to us and we think it stands on its own. So, that's first and foremost in our minds.

tanslation ▶

Reporter: I have a question for Angelina and also for Brad. One of the real strong [themes](#), it seems like, in the film is [motherhood](#) and family. And Angelina, I was wondering if you could speak a little bit about how motherhood has changed you, the way that you work. Um, and also Brad, being a parent, what that has given to you.

MC: Uh, [in conjunction with](#) this film?

Jolie: Well, I'll, I'll, I'll say how it relates to the film, which is that I, I think you know, many people know this story then, and they tend to forget maybe that [Mariane](#) was five, five and half months [pregnant](#) at the time.

And when, when we're [going over](#) this story, I remember being six months pregnant and thinking, "I can't imagine, at this time, not having, uh, the father with me, and being concerned about his life, and trying to eat, and trying to remember to get some sleep, and trying to [take a deep breath](#), and [physically](#) even just [moving around](#)." So as a woman it just made me so much more, uh, [connected to](#) her and aware of her.

And also knowing that [carrying](#) that life inside, you know, that that little boy that's half Danny, that is so, so amazing, and her love, um, I'm sure there couldn't also be a greater gift at that time to help [pull you through](#) something like that.

Pitt: I'll just [throw in](#), as a, you know, as a father, too, I, I, I look at my kids and realize that they will [inherit](#) this world. And, and, I know this is true for Mariane as well, and we [wanna](#) do everything we can to [throw our weight in](#) and make it a little bit better.

The Message

DL Track29

用語解説 語注

Reporter: I wanted to ask you, what is the kind of message that you're [putting out](#) with this film? Could you be a bit more [elaborate](#) about what you, what is your message?

Pitt: The themes that really spoke to me, when, [upon first reading](#) from Mariane's words, were something that [Angie mentioned before about their ideals of what journalism could be](#), about creating dialogue -- that to make an [informed](#) decision **you have to understand the* [unbiased dynamics](#) of a situation to move the thing forward, and that as a [profession](#) and as a [global community](#) where we seem to be failing, or we could be doing better.

Reporter: You mean journalists or actors?

Pitt: No, I'm saying we [as a whole](#). So, I'm saying [civilians](#), um, understanding the other side, hearing the other side, instead of immediately [jumping to demonization](#) or some kind of [simplification](#), because things are complex.

And, too, this idea of, in taking this man and trying to [destroy](#) him, that it actually brought people from different cultures and different [faiths](#) together. It actually did quite the opposite of what it was intended to do.

And, um, I find that very powerful and, again, a, a great example for the world, and [last and certainly not least](#), it was the strength of, of Mariane through this situation. I, for me it was, it was as [epiphany](#) -- um, to immediately not to [go at it](#) -- as Angie said, she [had every reason to come out of](#) this [embittered](#) and angry and full of [hatred](#), and instead has shown us another way.

And even in that, uh, it was something that was [recognizable](#) when, when it first [hit the, the airwaves](#), this strength instead of this idea of victim. And the way she [combated](#) this I find [incredibly impressive](#) and it [lights](#) a way for me.

translation ►

Wafting in the Words

DL Track30

用語解説 語注

Reporter: Question for Angelina Jolie, that I'm very curious about the power of cinema to tell a very [specific](#) story and then have a broader [context](#) and meaning in what it [conveys](#) to us [in the aftermath](#). So could you talk about [delving into](#) this specific story in order to tell a larger story from your [point of view](#)?

Jolie: From my point of view, I was focused on getting to know Mariane as a woman, and, and learning about her and reading her work and trying to understand where she was coming from as a woman, as a mother, and as a wife. And the relationships with the, the different people who were around her.

And one of the things that meant the most to me, and was the most interesting to me at this time, is her relationship with [Captain](#), who was a Pakistani man, a [Muslim](#) man. He became uh, the, the best [friend'd](#) be the right thing to say.

But, but this is a very interesting relationship at this specific time for these two people, [considering](#) what was going on in the world and to her family. Um, and I think it's a friendship that should be looked at, and thought about.

So that, as an actress, not just between our characters, but, uh, but to learn about that in the world, and, and to meet these people, and to meet people of all different faiths -- as, um, as we mentioned before, there was pretty much every different faith [represented](#) in that house.

And, considering so much of this -- as people say that the, this aggression is about faith -- it was very interesting to have [a house full of](#) people of, of these faiths, and different faiths coming together, with friendship and concern and talking and dialogue, and what that [symbolizes](#).

MC: Brad?

Pitt: I'm sorry? Was, was there a question to me?

MC: Would you kindly elaborate?

Pitt: I was, I was [wafting](#) in the words of . . . [what's-her-name](#).

translation ▶

Special Thanks to Jordan Riefe / Planet Syndication

2人そろって

 [DL](#)  [Track27](#)

記者：皆さん、素晴らしい作品の完成、おめでとうございます。アンジェリーナさんとブラッド・ピットさんが世界の報道陣の前に実際にそろって現れるのは初めてのことだと思います。こうしてカンヌにいるわけですが、どんなお気持ちですか？

ブラッド・ピット：ええと、率直に言うと、いつもとそれほど変わらない気がしますね。というのも、僕らには普段からカメラが毎日、ある程度付きまとっていますから。

ただ、わざわざ2人そろって初めて人前に出ようと意図したわけではありませんが、この作品とともに、そしてこの壇上にいる皆さん、ほかのキャストたちとともにここにいられて、とてもうれしいですね。

僕たちは、この物語にも、世界におけるその位置づけにも、そこから生まれた友情にも、大いに敬意を払っています。作品のメッセージは僕たちにとってとても重要で、おのずから伝わると思います。それが何より先に僕たちの心に浮かぶことです。

【原文】[▶](#)

親になって得たもの

 **DL**  **Track28**

記者：アンジェリーナと、それからブラッドにも質問があります。この映画の非常に強いテーマのひとつは、母性と家族であるように思われます。そこで、アンジェリーナ、母性というものがご自身や仕事の仕方をどう変えたか、少しお話しいただけないでしょうか。それとブラッドにもお尋ねしたいのですが、親になることで得たものは何ですか？

司会者：ええと、この映画に関連してでしょうか？

ジョリー：ええと、その質問が映画にどう関連するか、私をご説明しましょう。つまり、そう、この（パール記者の事件の）話はたくさんの人が知っていますが、当時マリアヌスが妊娠5カ月、いえ、5カ月半であったことは、ともすると忘れられがちです。

そして、皆でこの話をじっくり検討していたとき、私は妊娠6カ月で、こう感じたことを覚えています。「私には想像もつかないわ、こんな（妊娠中の大切な）時期に（子どもの）父親がそばにいないなんて、そして、彼の命を案じながら食事や睡眠をとり損ねないよう努め、深呼吸して心を落ち着けるようにするなんて。身体的に（妊娠5〜6カ月で）あちこち動き回るってことだけでも」って。ですから、女性として、そのことが彼女との連帯感や彼女についての理解を深めてくれました。

そしてまた、彼女があ命を身に宿していたこと、そう、半分はダニーである坊やを身ごもっていたことを彼女が知っていたのは、本当に素晴らしいことでした。彼女の愛（の深さ）といったら・・・その、あの時、あのような状況を乗り切る助けとなるのに、これ以上の贈り物はなかったでしょう。

ピット：父親としての立場から、僕もちよつと口を挟ませていただきますが、僕は子どもたちを見ると、彼らがこの世界を受け継ぐのだと実感します。これはマリアヌスにとっても同じはずです。ですから、僕たちは全力で取り組んで世界を少しでも良くするために、できることは何でもしたいのです。

【原文】 [▶](#)

映画に込めたメッセージ

 [DL](#)  [Track29](#)

記者：お尋ねしたいのですが、この映画であなたが伝えたいメッセージはどんなものなのでしょう？ あなたのメッセージをもう少し詳しく説明していただけますか？

ビット：マリアンヌの手記を初めて読んだときに、僕の心に響いてきた主題は――アンジーがさっき、マリアンヌとダニーのジャーナリズムの理想像や、対話をつくり出すということについて話していましたが――情報に基づいた判断を下すには、複雑な状況を偏見を持たずに理解して物事を前進させる必要があるということです。それも、職業として、国際社会として。その点が今はうまくいっていないようですが、もっとうまくできそうに思うのです。

記者：ジャーナリストのことをおっしゃっているのでしょうか、それとも俳優のことでしょうか？

ビット：いえ、僕たち全部のことを言っているんです。つまり、民間人は相手側を理解し、相手の言い分を聞くようにするべきだ、ということなんです。一足飛びに悪者扱いしたり、単純化のようなことをしたりせずにね。だって、物事は複雑なのですから。

そして、この男性（ダニエル・パール）を捕らえて殺そうというもくろみは、実際には、異なる文化や異なる信仰の人々を結束させました。実は意図されていたことと、まるで反対の効果をもたらしたのです。

それは非常に強力だと思いますし、繰り返しになりますが、この世界に範を示す素晴らしい例だと思います。そして、最後にもちろん大事なことは、この状況下でのマリアンヌの強さです。僕にとってはそれは啓示でした――性急に激しい言葉をぶつけるのではなく――アンジーも言っていましたが、彼女には、その憤りや怒りや、あふれんばかりの憎しみを吐き出してもいい理由が、いくらでもありました。ところが、彼女はその代わりに私たちに別の道を示したのです。

しかも、あの状況でも、それは初めて電波放送で報道されたときから見てとれました、被害者意識ではない、この強さが。彼女の戦いぶりは途方もなく感動的で、僕にとって道を照らしてくれるものです。

【原文】 [▶](#)

つい聞きほれて

 [DL](#)  [Track30](#)

記者：アンジェリーナ・ジョリーへの質問ですが、私が非常に興味をそそられるのは、きわめて特別な物語を語り、その結果として、より広い文脈と意味をわれわれに伝える映画の力です。あなたの視点から、より大きなことを伝えるためにこの具体的な物語を掘り下げるといふ努力について、話していただけますか？

ジョリー：私としては、女性としてのマリアンヌを知ることに関心しました。彼女のことを知り、彼女の著作を読み、女性として、母として、妻としての彼女の考え方や、周囲のさまざまな人との関係を理解するよう努めました。

この時、私にとって最も意義深く、最も興味深かったことのひとつが、パキスタン男性でありイスラム教徒である「キャプテン」と、彼女との関係でした。彼は彼女の親友になった、というのが最もふさわしい言い方でしょうね。

けれども、世の中に起きていたこと、そして彼女の家族に起きていたことを考えると、ほかでもないこの時期にこの2人がこうした関係にあったのは、非常に興味深いことです。これは、目を向けるべき、思いを馳せるべき友情だと思います。

ですから、女優として、映画の登場人物の間だけでなく、現実の世界でそれを学ぶこと、いろいろな人に会うこと、さまざまな信仰の人々に会うことです——先ほども申しましたが、あの家には実にさまざまな信仰の人が居合わせていました。

そして、この状況をじっくり考えると——この敵対行為は信仰をめぐるものだと言われていますよね——1つの家にこうしたさまざまな信仰を持つ人々が、友情と心遣い、会話や対話によって結ばれた人々があふれていたことや、それが象徴するものは、非常に興味深かったのです。

司会者：ブラッド？

ビット：失礼。僕に質問がありましたか？

司会者：補足していただけますか？

ビット：僕は、言葉の中を漂ってしまっていましたよ・・・そのご婦人のね。

[【原文】](#) [▶](#)

Vocabulary List

C

- carrying** （子どもを）身ごもっている ★この意味では通例、進行形で用いる。
- civilian** 民間人、一般市民
- combat** 戦う
- connected to** ~ ~にかかわって、~に連帯感があって
- convey** 伝える、伝達する

D

- dais** 演壇
- delve into** ~ ~を掘り下げる、~を詳細に調べる
- demonization** 悪魔化、悪者扱い
- dynamics** 力学、動学、動態、力関係

E

- elaborate** 念入りな、詳しい ★動詞で「詳しく説明する」という意味もある。
- embittered** 苦々しい、憤慨した
- epiphany** ひらめき、啓示、直感

F

- first and foremost** 真っ先に、何をおいても

G

- go at it** 激しくけんかする
- go over** ~ よく調べる

H

- have every reason to do** ~する正当な理由がある、~するのをもっともだ
- have respect for** ~ ~を尊敬する
- hit the airwaves** （電波メディアで）報道される、放送される

I

- impressive** 印象的な、感動的な
- in conjunction with** ~ ~に関連して
- in some capacity** どのみち、何らかの形で ★= in one way or another
- in the aftermath** 結果として、その後
- informed** 情報に基づく
- inherit** 受け継ぐ、相続する

J

- jump to** ~ （結論などへ）すぐに飛びつく、急ぐ

L

- last and not least** 最後に大事なこととして ★=last but not least
- light** 明かりを照らして案内する

P

- profession** 専門職
- pull A through B** AにBを乗り越えさせる
- put out** ~ ~を発する、~を流す

R

- recognizable** 認識できる、見分けの付く

S

- simplification** 単純化
- stand on one's own** 自立する、それ自体で成立する
- symbolize** 象徴する

T

- take a deep breath** 深呼吸する、落ち着く
- throw in** 加わる、手を貸す
- throw one's weight in** ~ ~に全力で取り組む
- tremendous** 驚異的な、非常に素晴らしい
- truthfully** 正直なところ

U

- unbiased** 偏見のない、公平な
- upon doing** ～する時に、～した途端

W

- waft** 漂う、ふわふわ浮かぶ
- what's-her-name** 何とかいう名の女性 ★名前を忘れたり、あえて名前を出したくなかったりする場合に使う。

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	この記者会見は、ビットとジョリーの2人が交際を正式に公表するために設けられた。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	ビットは、ジョリーと一緒に報道陣の前に姿を見せることについて、いつも以上に緊張していると述べている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	この映画のストーリーを検討しているときに、ジョリーは妊娠していた。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	ジョリーがこの映画で演じたマリアンヌには当時5歳の子どもがいた。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	ジョリーにとって、自分の母性は自分が演じるマリアンヌの心境を理解する上で大きな助けになった。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	ビットは、この映画について父親としてのコメントはあえてしなかった。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	この映画のテーマは、妻としての、そして母としての女性の理想像だとビットは述べている。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	ビットは、この映画の実在のモデルとなったマリアンヌの精神的強さについて絶賛している。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	マリアンヌの支えとなった男性「キャプテン」は、イスラム教徒のイラン人であった。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	ジョリーは、この映画をやって、一方では信仰の違いが生む敵対行為がありながら、信仰の違いを超えて助け合う友情もあるという人間関係に感銘を受けた。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

答え 

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	この記者会見は、ビットとジョリーの2人が交際を正式に公表するために設けられた。	C	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
2	ビットは、ジョリーと一緒に報道陣の前に姿を見せることについて、いつも以上に緊張していると述べている。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
3	この映画のストーリーを検討しているときに、ジョリーは妊娠していた。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	ジョリーがこの映画で演じたマリアンヌには当時5歳の子どもがいた。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
5	ジョリーにとって、自分の母性は自分が演じるマリアンヌの心境を理解する上で大きな助けになった。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	ビットは、この映画について父親としてのコメントはあえてしなかった。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
7	この映画のテーマは、妻としての、そして母としての女性の理想像だとビットは述べている。	A	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
8	ビットは、この映画の実在のモデルとなったマリアンヌの精神的強さについて絶賛している。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	マリアンヌの支えとなった男性「キャプテン」は、イスラム教徒のイラン人であった。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
10	ジョリーは、この映画をやって、一方では信仰の違いが生む敵対行為がありながら、信仰の違いを超えて助け合う友情もあるという人間関係に感銘を受けた。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

用語解説

a tremendous film

★ピットが制作にかかわり、ジョリーが主演した2007年アメリカ映画 *A Mighty Heart*（邦題『マイティ・ハート／愛と絆』）を指す。
[▶本文に戻る](#)

Cannes

カンヌ ★地中海に臨むフランスの都市で、毎年5月に国際映画祭が行われる。この映画祭そのものを指すことも多い。『マイティ・ハート』は2007年の特別招待作品のひとつとして上映された。
[▶本文に戻る](#)

everyone here on this dais

★会見の席の壇上には、ピット、ジョリーのほかに、原作者のマリアンヌ・パール、監督のマイケル・ウィンターボトム、ダン・ファターマンほか数名の共演俳優がいた。
[▶本文に戻る](#)

Mariane

★2002年にパキスタンでテロリストに誘拐され、後に殺害された『ウォールストリート・ジャーナル』紙のダニエル・パール記者の妻、マリアンヌ・パールを指す。『マイティ・ハート』はマリアンヌの手記（『マイティ・ハート-新聞記者ダニエル・パールの勇気ある生と死』〔邦訳は潮出版社刊〕）を映画化した作品で、ジョリーがマリアンヌ役を演じている。

[▶本文に戻る](#)

Angie mentioned before about their ideals of what journalism could be

★紙幅の都合でカットした部分で、ジョリーはジャーナリズムについても言及していた。

[▶本文に戻る](#)

Captain

★パキスタンのテロ対策本部局長で、事件解決に尽力した人物。「キャプテン」は実際の肩書きではなく、マリアンヌが付けたニックネーム。
[▶本文に戻る](#)

a house full of ~

★パキスタンでマリアンヌが身を寄せていた友人宅は関係者の集まる捜査本部のようになっており、フランス出身で仏教徒のマリアンヌ、インド出身でイスラム教徒の友人、パキスタン当局者、アメリカ領事館員など、さまざまな国籍・宗教の人々が入り交じっていた。
[▶本文に戻る](#)

語注

tremendous

驚異的な、非常に素晴らしい

[▶ 本文に戻る](#)

make an appearance

顔を出す

[▶ 本文に戻る](#)

joint

共同の

[▶ 本文に戻る](#)

press

報道陣、マスコミ

[▶ 本文に戻る](#)

y'know

★ = you know

[▶ 本文に戻る](#)

truthfully

正直なところ

[▶ 本文に戻る](#)

'cause

★ = because

[▶ 本文に戻る](#)

in some capacity

どのみち、何らかの形で ★= in one way or another

[▶ 本文に戻る](#)

it's not a conscious effort other than . . .

★we didn't intend to make a big deal of this being our first appearance but . . . くらいの意味。この other than は、本来は but くらいでよい。

[▶ 本文に戻る](#)

conscious

意識的な

[▶ 本文に戻る](#)

dais

演壇

[▶ 本文に戻る](#)

have respect for ~

~を尊敬する

[▶ 本文に戻る](#)

its place in the world

★あいまいな表現だが、the stance it takes、the opinion it presents（作品の姿勢、メッセージ）くらいの意味と思われる。

[▶ 本文に戻る](#)

form

形成する、形作る

[▶ 本文に戻る](#)

stand on one's own

自立する、それ自体で成立する

[▶ 本文に戻る](#)

first and foremost

theme

テーマ

[▶ 本文に戻る](#)

motherhood

母親であること、母性

[▶ 本文に戻る](#)

in conjunction with ~

～に関連して

[▶ 本文に戻る](#)

pregnant

妊娠した

[▶ 本文に戻る](#)

go over ~

よく調べる

[▶ 本文に戻る](#)

take a deep breath

深呼吸する、落ち着く

[▶ 本文に戻る](#)

physically

物理的に、身体的に

[▶ 本文に戻る](#)

move around

動き回る

[▶ 本文に戻る](#)

connected to ~

～にかかわって、～に連帯感があって

[▶ 本文に戻る](#)

carrying

(子どもを) 身ごもっている ★この意味では通例、進行形で用いる。

[▶ 本文に戻る](#)

pull A through B

A に B を乗り越えさせる

[▶ 本文に戻る](#)

throw in

加わる、手を貸す

[▶ 本文に戻る](#)

inherit

受け継ぐ、相続する

[▶ 本文に戻る](#)

wanna

★ = want to

[▶ 本文に戻る](#)

throw one's weight in ~

～に全力で取り組む

[▶ 本文に戻る](#)

put out ~

～を発する、～を流す

[▶ 本文に戻る](#)

elaborate

念入りな、詳しい ★動詞で「詳しく説明する」という意味もある。

[▶ 本文に戻る](#)

upon doing

～するときに、～した途端

[▶ 本文に戻る](#)

informed

情報に基づく

[▶ 本文に戻る](#)

you have to understand the unbiased dynamics of a situation

★you have to understand a situation without bias くらいの意味。dynamics という語を使ったのは異なる要素がさまざまに影響し合う「複雑さ」を表現したかったからだと思う。

[▶ 本文に戻る](#)

unbiased

偏見のない、公平な

[▶ 本文に戻る](#)

dynamics

力学、動学、動態、力関係

[▶ 本文に戻る](#)

profession

専門職

[▶ 本文に戻る](#)

global community

国際社会

[▶ 本文に戻る](#)

as a whole

全体として

[▶ 本文に戻る](#)

civilian

民間人、一般市民

[▶ 本文に戻る](#)

jump to ~

(結論などへ) すぐに飛びつく、急ぐ

[▶ 本文に戻る](#)

demonization

悪魔化、悪者扱い

[▶ 本文に戻る](#)

simplification

単純化

[▶ 本文に戻る](#)

destroy

滅ぼす、殺す

[▶ 本文に戻る](#)

faith

信念、信教

[▶ 本文に戻る](#)

last and not least

最後に大事なこととして ★=last but not least

[▶ 本文に戻る](#)

epiphany

ひらめき、啓示、直感

[▶ 本文に戻る](#)

go at it

激しくけんかする

[▶ 本文に戻る](#)

have every reason to do

～する正当な理由がある、～するのにもつともだ

[▶ 本文に戻る](#)

come out of ~

★come out with～（～を表に出す、～を吐露する）と言おうとしたと思われる。

[▶ 本文に戻る](#)

embittered

苦々しい、憤慨した

[▶ 本文に戻る](#)

hatred

憎悪

[▶ 本文に戻る](#)

recognizable

認識できる、見分けの付く

[▶ 本文に戻る](#)

hit the airwaves

（電波メディアで）報道される、放送される

[▶ 本文に戻る](#)

combat

戦う

[▶ 本文に戻る](#)

incredibly

信じられないほど

[▶ 本文に戻る](#)

impressive

印象的な、感動的な

[▶ 本文に戻る](#)

light

明かりを照らして案内する

[▶ 本文に戻る](#)

specific

具体的な、詳細な

[▶本文に戻る](#)

context

文脈、状況

[▶本文に戻る](#)

convey

伝える、伝達する

[▶本文に戻る](#)

in the aftermath

結果として、その後

[▶本文に戻る](#)

delve into ~

～を掘り下げる、～を詳細に調べる

[▶本文に戻る](#)

point of view

観点

[▶本文に戻る](#)

Muslim

ムスリムの、イスラム教の

[▶本文に戻る](#)

friend'd

★ = friend would

[▶本文に戻る](#)

considering ~

～を考慮すれば

[▶本文に戻る](#)

represent

表す

[▶本文に戻る](#)

symbolize

象徴する

[▶本文に戻る](#)

waft

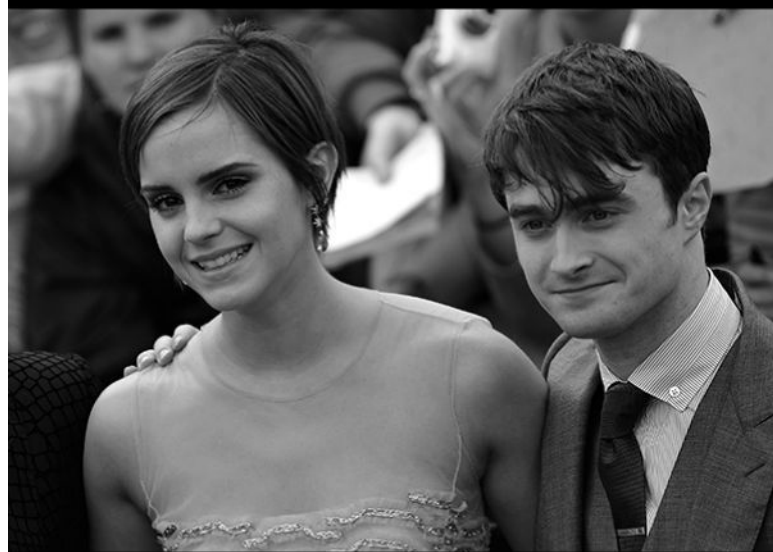
漂う、ふわふわ浮かぶ

[▶本文に戻る](#)

what's-her-name

何とかいう名の女性 ★名前を忘れたり、あえて名前を出したくなかったりする場合に使う。ここではジョリーのことをふざけてこう呼んでいる。

[▶本文に戻る](#)



Daniel Radcliffe & Emma Watson

写真：ロイター / アフロ

次なる世界へと踏み出す「ハリー・ポッター」

Daniel Radcliffe / Emma Watson

“If you know something is the truth and you know that it’s right, then you can’t let yourself be compromised by other people and outside forces.”

「何かが真実だと知っていて、それが正しいとわかっているなら、他人や外からの力に屈服してはいけないんだよ」

Supervising Editor’s Comment

D・ラドクリフの英語は、現代英国の若い世代の話し方の典型。1) 語中・語末の[t]が消える、2) [el]が「アイ」に近くなる。O・ブルーム同様の大衆的な訛り。ただ、このような訛りは女性より男性が多く使う。実際、E・ワトソンの発音では、これらの特徴はあまり聞か
れず、標準に近い。ただ相当の早口で、口を動かさず一気に発音する。これは英国では非常に多い話し方で、英国英語の難しさの一因
でもある。

Interview Data	
収録日	2007年6月22日
収録地	ロンドン（イギリス）
スピード	速い
語彙	普通
発音	明瞭

ダニエル・ラドクリフ／エマ・ワトソン
Daniel Radcliffe / Emma Watson

ダニエル・ラドクリフ
1989年7月23日、ロンドン生まれ。子役としてテレビドラマ『デービッド・コバーフィールド』（1999年）、映画『テイラー・オブ・パナマ』（2001年）に出演。「ハリー・ポッター」シリーズ（2001年～）で主役
に抜擢された。

エマ・ワトソン
1990年4月15日、バリ生まれ、イギリス育ち。『ハリー・ポッターと賢者の石』（2001年）でデビューして以来、シリーズを通してハリーの学友ハーマイオニー役を演じている。

世界的大ベストセラーを映画化した「ハリー・ポッター」シリーズの1作目から初々しいコンビを組んできた2人もいまや10代後半。5作目の『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団』のテーマについて、これからの夢に
ついて、若者らしい口調で語ったインタビュー。

New Director, New Challenge

DL Track32

用語解説 語注

Reporter: I would like to ask each of you, what is it like to work with a new director?

Daniel Radcliffe: It's great. I mean I think whenever a, [a new director comes on board](#) there's always a, a real sense of excitement because you know, [you're aware that](#) something new's [gonna](#) be [brought to the table](#) and, and that's always -- I think that can only be an exciting [prospect](#).

Emma Watson: I guess, I don't know, it's really nice. We have, I mean, a lot of the [cast](#) and [crew](#) that have been on the film, [sort of](#), since the very beginning, [kind of, been](#) there for all four or five years.

So, um, there's, sort of, quite a nice, sort of, friendly, sort of, family [ethos](#), and it, [hopefully](#) it's not, sort of, too [intimidating](#) for [newcomers](#), 'cause everyone's, kind of, really friendly and just, sort of, everyone is -- it's not . . . it's . . . yeah.

tanslation ▶

The Importance of Friendship and Truth

DL Track33

用語解説 語注

Reporter: What message do you want people to leave the movie with, both from the movie [as a whole](#) and your performances [individually](#)?

Watson: I guess, [in a big way](#), what this film is about is [Harry's in a really, really difficult place](#). He feels really [isolated](#). He wants to isolate himself, because he thinks that if he does that then he won't have as much to lose.

And I think a lot of the film is about Harry's journey to [realizing](#) that he doesn't have to do it on his own: and the importance of his friends, and the importance of just friendship, and that you need to, sort of, look at it in a positive [ways](#): and that actually the friends that he has and the people he has behind him, while it's [scary](#) because he might lose them, it actually gives him something to fight for. And that makes him a much more powerful, [wizard-slash-man](#) than, um, than [Voldemort](#). That was for me, one of the key . . .

Radcliffe: Yeah. No, absolutely. Definitely.

Watson: . . . sort of, messages that, um, that it was about.

Radcliffe: I mean, I, I also think it's about, [in terms of](#) Harry's character, you know, it's just about, you know, [sticking to your guns](#). And, er, if you know something is the truth and you know that it's right, then you can't let yourself be [compromised](#) by other people and outside forces. And I think that's what Harry and [Dumbledore go through](#) in this film.

And I think, er, for me, that's, along with [everything that, obviously, you said](#), is, er, is another central message to the film, certainly. Our performances individually, I don't really know what people . . . I think, I think it's, I don't think you . . .

Watson: I think it's a natural [step](#). I don't think it's anything that we've really thought about. I think it's just as we've grown up, and we've worked with a different director, he's [brought out different things in](#) us and helped us to develop, and we've learnt more.

translation ▶

Reporter: What [thought have you each given to](#) your careers post-Harry Potter? What would you like to be doing next?

Watson: Um, you go, [Dan](#).

Radcliffe: All right. Oh dear, um, um, I, I don't know. It's, um, I suppose just, just, just keep acting and hopefully do really interesting and different things, and hopefully just continue to find things that are really difficult for me to do, and challenge me and things, so I don't become, you know, [complacent](#) or whatever.

So I just, just [carry on](#), really, um. And, I'd, you know, I'd like to write I suppose, as well. In very, very [long way away](#), but that's another thought. But, yeah, I suppose for now is just, kind of, hopefully continue the way I'm going.

Reporter: Would you write [fiction](#)?

Radcliffe: No, no, just, sort of, um, poems and things, really. I suppose.

Watson: You can't really say this is what I want to do 'cause it's not really your choice, you know. This business is completely [unpredictable](#). You never know what films are going to be being made, what work is [out there](#). It's kind of, [you've just gotta](#) ride the -- just see what's out there really, I guess.

But, um, you know, [ideally](#), I'd love to try some theatre [at some point](#). Um, I'd love to do a [period drama](#) or I'd love to - I mean there's [loads of](#) different things I want to do. Um, I also really love to sing and I'd love like, I . . . Don't worry, I'm not [launching](#) a singing career or anything stupid like that, but, um, I, um . . .

Radcliffe: When's the album out?

Watson: Yeah, a couple of months. That'll be me. No, no, no, don't worry. Um, yeah, but I'd love to do, I'd love to do something which, like, has music in it or, I don't know. There's loads of things that I'm really interested in, but it's just what [comes up](#), really. And it's also just what works in terms of, um, scheduling and 'cause I, obviously I've got the [next two Harry Potters](#) to do, and [juggling](#) that with school [and stuff](#).

And so I'll just, I mean next summer I've got some time so, sort of, [aiming to get](#) something there. But [again](#), it's just, I'm not, I don't wanna do something just [for the sake of](#) it. I really wanna wait for the right thing to [come along](#) and, um, yeah, and I just -- to, to be the right thing and I mean hopefully, hopefully will. But you've just gotta, you've just gotta see [what's about](#) and get yourself out there and [audition for](#) lots of different [bits](#), and just, yeah, so . . .

Reporter: What are you studying?

Watson: Um, English literature, um, [geography](#), art and history of art.

Three Orphans and a Son

DL Track35

用語解説 語注

Reporter: Daniel, I just saw [December Boys](#) and it was a great performance, but there are some similar themes to Harry Potter: the loneliness and being an [orphan](#). Tell us a little bit about that and about the film you're gonna be doing in August.

Radcliffe: Oh, right. OK, um, er, yes, *December Boys* is a film I did in Australia in 2005. It's about four boys who grow up in a Catholic [orphanage](#) in the [outback](#) of Australia and, [due to](#) a, a [generous donation](#) to the orphanage, who are all sent on holiday for their birthday month, which is December. [Hence](#) why they are the "December Boys." And, er, it's about they all have a sort of, various [rites of passage](#), sort of, stories while they are away, and I think it's a really [sweet](#), [genuinely](#), sort of, warm and [heartfelt](#) film.

As you say, there are similar themes in that, you know, I've, I've, I've now, er, the, the [tally](#) is now [up to](#) three orphans, um, Harry, [David](#), and [Maps](#). And, um, yes, that's, I suppose there are similar themes in it, but it is a very, very different film. And he's a very different character from Harry, um, because Maps is much more, sort of, [restrained](#) than Harry. Harry [lets a, a lot out](#), and Maps doesn't at all.

Um, and with, er, by, and later in the year I'm doing [My Boy Jack](#), which is about [Rudyard Kipling](#) and his son who was [sent off to](#), who, who wanted to go, and, er, was sent to war despite having failed [numerous](#) army medical tests because of his [eyesight was](#) so bad. Um, and so it's a very, very sad story, er, and yes, as you, you can, sort of, guess that that one doesn't end happily.

And, um, it, but it's, it's, it's absolutely, it's a beautiful, beautiful [script](#) written by [David Haig](#) who is also playing Rudyard Kipling. So it's very exciting, yes.

translation ▶

*Interviewed by Jordan Riefe/Planet Syndication
Narrated by Nadia McKechnie*

新監督の下での新たな挑戦

DL Track32

記者：お2人それぞれにお聞きたいのですが、新しい監督と一緒に仕事をするというのはどんな感じですか？

ダニエル・ラドクリフ：素晴らしいですよ。新しい監督が参加する時は必ず、いつでも心からワクワクします、というのも、何かしら新しいことがもたらされると感じるからで、それはいつでも——とにかくワクワクするようなことがありそうだって気持ちになるんですよ。

エマ・ワトソン：たぶん、何と言うか、すごくいいことですね。つまり、この作品にかかわってきたキャストやスタッフがたくさんいるんです、ごく最初のことから、そう、4年も5年も一緒にやってきた人たちが。

ですから、ある意味、とってもいい感じの、居心地のいい、家族的な雰囲気があります。それが新しく入ってくる人たちにあまり敷居の高さを感じさせないといいんですけど。だって、みんな、そう、とっても親しみやすいし、とにかく、みんな——そんな感じじゃなくて・・・ええ。

【原文】[▶](#)

「友情」と「真実」の大切さ

 [DL](#)  [Track33](#)

記者：観客が映画館を出るときに、この映画全体とあなた方それぞれの演技から、どんなメッセージが伝わっていてほしいですか？

ワトソン：私が思うに、大きな意味で、この映画はハリーがものすごく困難な立場に置かれることが主題になっているんです。彼はとても孤独を感じます。彼は自ら孤立しようとします、そうすればそれほど多くを失わなくて済むだろうと考えているからです。

そして、この映画で多く描かれているのは、ハリーのたどる道のりです。自分一人で立ち向かう必要はないのだということに気付き、友達大切さ、友情そのものの大切さ、それをある意味で前向きに見詰めることの大切さに気付くまでの道のりです。そして、実際に自分の周りの友達や後ろで支えてくれる人たちがいるということに気付くことです。彼らを失うかもしれないという恐怖もあるけれど、実はそれこそがハリーに戦う理由を与えてくれる。そしてそれが彼をヴォルデモートよりも強い魔法使い兼人間にしてくれるのです。それが私にとって、重要なひとつの・・・


ラドクリフ：そうだね。いや、絶対に。間違いなく。

ワトソン：・・・ある意味、メッセージであり、この作品の主題でした。

ラドクリフ：つまり、僕もこの作品のテーマは、ハリーという役に関して言うと、テーマはただ「信念を曲げないこと」だと思うんです。何かが真実だと知っていて、それが正しいとわかっているなら、他人や外からの力に屈服してはいけないんです。そして、それがハリーとダンブルドアがこの映画で経験することだと思います。

だから、僕にとっては、君（ワトソン）が言ったことももちろんあるけど、それも、この映画のもう1つの中心的なメッセージだと思います、間違いなく。僕たちそれぞれの演技についてはよくわかりませんね、観客がどう・・・たぶん、そうだな・・・

ワトソン：私は、（自分たちの演技は）自然に進化しているように思います。じっくり考えてそうしてるわけじゃないと思うんです。私たちがただ成長するにつれてそうなったんだと思いますし、それに新しい監督と仕事をして、監督が私たちからいろいろ引き出してきて、私たちが伸びるように手助けしてくれたので、私たちはより多くのことを学びました。

[【原文】](#) 

「ハリー・ポッター」の次

DL **Track34**

記者：「ハリー・ポッター」の後には、それぞれどのようなキャリアを考えていますか？ この次は何をしたいですか？

ワトソン：えーと、あなたからどうぞ、ダン。

ラドクリフ：いいよ。ええと、そうですね、まだわかりません。たぶん、とにかく、しばらくは俳優を続けて、できれば心から興味を持てるようないろいろなことをして、できればとても難しいこと、力を試されるようなことを見つけていきたいですね、現状に甘んじたりしないように。

ですから、とにかく頑張って続けていきたいです、本当に。それと、執筆もしてみたいですね。ものすごく先の話ですが、それもひとつ考えていることです。でも、そうですね、今のところは、今歩んでいる道を進んでいければ、と思っています。

記者：小説をお書きになるんですか？

ラドクリフ：いえいえ、ちょつとした、まあ、詩とかそういうものです、ほんとに。そんなところです。

ワトソン：私が演じたいのはこれだ、というようなことはあまり言えないものです。というのは、本当のところ、自分では選択できないからです。この業界はまったく先が読めません。どんな映画が作られることになるのか、どんな作品が世に出るのか、全然わかりませんから。何と言うか、うまく乗るしか——どんな作品が出てくるのか見てみるしかないという感じですよ。

でも、まあ、理想を言えば、いつか舞台もやってみたいです。時代劇もやってみたいし、ほかにも——つまり、やってみたいことはいろいろたくさんあります。それに、歌うのも大好きですね、ぜひ私は・・・ご心配なく、歌手デビューしたりとか、バカなまねはしませんから、でも、そうですね・・・

ラドクリフ：アルバムはいつ出るの？

ワトソン：ええ、2、3カ月後に。そのころ出る歌手が私よ。いえいえ、ご心配なく。ええ、でも、ぜひぜひ、音楽に関係することをやってみたいです、もしくは、よくわかりませんが。すごく興味のあることはたくさんありますが、どんなチャンスが巡ってくるかに尽きますね、本当に。それと、スケジュールの点から、どんな仕事ができるかということもあります。当然「ハリー・ポッター」があと2作控えていますし、学校やその他のことをやりつつ、うまくやりくりなくちゃいけませんから。

そういうわけで、つまり、来年の夏なら少し時間があるので、そこで何かできるように目指しているところです。でもやっぱり、私は、単なる仕事のための仕事はしたくありません。ふさわしいものが現れるのを待ちたいですね、そして、ええ——ふさわしいものが出てくるのを、つまり、できればそうしたいです。でもとにかく、とにかく何があるのか見てみないといけませんから、外に出ていろいろなちょつとした役のオーディションを受けてみて、ええ、ですから・・・

記者：学校では何を勉強しているんですか？

ワトソン：ええと、英文学、地理、美術、美術史です。

【原文】[▶](#)

新しい役柄

 [DL](#)  [Track](#)35

記者：ダニエル、*December Boys* を拝見しました。見事な演技でしたが、いくつか「ハリー・ポッター」と同じようなテーマがありますね。孤独や、孤児であることです。その点について、また8月に撮影する予定の映画について、少し話してください。

ラドクリフ：はい。わかりました、ええと、そうですね、*December Boys* は2005年にオーストラリアで撮影した映画です。オーストラリアの奥地にあるカトリック系孤児院で育った4人の少年の物語なんです、孤児院への多額の寄付のおかげで、彼らは皆、誕生月に休暇旅行に出してもらえます。それが12月です。そんなわけで、彼らは“December Boys”なのです。そして、旅に出ている間に彼ら全員が一種のさまざまな通過儀礼を体験する話で、優しく、本当に、何というか、温かく、心に響く映画だと思います。

おっしゃるとおり、この作品には似たテーマがあって、僕はこれで合計3人の孤児を演じたことになり、ハリーとデービッドとマップスという。そして、そう、テーマが似ているところはあると思いますが、これはまったく違ったタイプの映画です。そして彼（マップス）はハリーとは全然性格が違います、マップスはハリーよりもずっと控えめな性格ですから。ハリーは多くを表に出しますが、マップスはまったく外に出さないのです。

それから、今年はこれから、*My Boy Jack* を撮影しますが、これはラドヤード・キップリングとその息子の話で、息子は向こうに送られて、本人も行きたかったのですが、視力がとても悪かったせいで軍の健康診断で何度も不合格になったにもかかわらず、戦地に送られたのです。ですから、ものすごく悲しい物語で、ええ、何というか、ハッピーエンドじゃないことはご想像がつくと思います。

でも、この上なく素晴らしい話で、デービッド・ヘイグが素晴らしい脚本を書き、ラドヤード・キップリング役も演じます。ですから、とてもわくわくする作品ですよ、ええ。

【原文】[▶](#)

Vocabulary List

A

- aim to do** ～することを目指す、～することを狙う
- ~ and stuff** ～など、～ほかいろいろ
- as a whole** 全体として、総括して
- at some point** ある時点で、いつか

B

- be about** 存在している、手に入る状態にある
- bit** （小さな）役柄、脇役
- bring ~ to the table** ～を（会議などの場に）持ち出す
- bring out A in B** BからAを引き出す

C

- carry on** （頑張って）続ける
- come along** やって来る、現れる
- come on board** 参加する ★on boardの原義は、「（船、列車などに）乗って」。
- come up** 現れる、浮かび上がる
- complacent** 自己満足した、現状に甘んじた
- compromise** 妥協させる、屈服させる

D

- due to ~** ～によつて、～を理由として

E

- ethos** 気風、特質
- eyesight** 視力

F

- for the sake of ~** ～を目的として

G

- generous** 気前のいい、豊富な
- genuinely** 正真正銘、純粋に
- give thought to ~** ～を一考する
- go through ~** ～（試練など）を体験する

H

- heartfelt** 心に触れる、真情あふれた
- hence** そのようなわけで、したがって

I

- in a ~ place** ～な立場で、～な境遇に置かれて
- in a big way** 大いに、とても

J

- juggle** 手際よくこなす、上手にやりくりする

L

- launch** （～を）始める、（～に）乗り出す
- let ~ out** ～を表に出す
- loads of ~** たくさんの～
- long way away** 遠く離れて、遠い将来

N

- numerous** 数々の、多数の

O

- orphan** 孤児
- orphanage** 孤児院
- out there** 世の中に、世間に
- outback** （オーストラリアの）奥地、内陸部

P

- period drama** 時代劇、歴史ドラマ

R

- restrained** 抑制された、控えめな
- rite of passage** 通過儀礼

S

- send A off to ~** Aを～に送り出す、Aを～に派遣する
- sort of** ある種、いわば
- stick to one's guns** 自説を固守する、後に引かない ★ = stand by one's guns

T

- tally** 勘定、（今のところの）合計数

U

- unpredictable** 予測できない
- up to ~** ~まで、～に至るまで

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	新しい監督と仕事をするとき、ラドクリフは、何か新しいものへの期待感でワクワクする、と答えている。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	ワトソンは、今回の映画で、結局、人間はハリーのように孤独で困難な状況は自分一人で何とかするしかない、というメッセージを伝えたい、と述べている。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	ラドクリフは、この作品で、自分の信念はときに他の人との妥協を必要とし、それは決して恥じることではない、という妥協の美学を伝えたい、と述べている。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	ラドクリフは、この先も俳優としていろいろなものにチャレンジしていきたいと考えている。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	ワトソンは、映画の仕事というのは自分の趣味で作品や役を選択できるようなものではない、と述べている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	ワトソンは舞台や歌うことにも興味があり、できればいつか歌手デビューをしたいとも思っている。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	ワトソンは学校では、英文学、地理、美術、美術史を勉強している。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	ラドクリフは映画 <i>December Boys</i> を、孤独で悲しく残酷な映画だが現代社会の問題を浮き彫りにしている作品だと評している。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	<i>December Boys</i> でラドクリフが演じるマップスという少年は、「ハリー・ポッター」シリーズのハリーと性格がよく似ている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	ラドクリフは、これから撮影する <i>My Boy Jack</i> について、初めは悲しい物語だが最後はハッピーエンドになる、と説明している。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

答え [▶](#)

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	新しい監督と仕事をするとき、ラドクリフは、何か新しいものへの期待感でワクワクする、と答えている。	C	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	ワトソンは、今回の映画で、結局、人間はハリーのように孤独で困難な状況は自分一人で何とかするしかない、というメッセージを伝えたい、と述べている。	A	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
3	ラドクリフは、この作品で、自分の信念はときに他の人との妥協を必要とし、それは決して恥じることではない、という妥協の美学を伝えたい、と述べている。	A	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
4	ラドクリフは、この先も俳優としていろいろなものにチャレンジしていきたいと考えている。	C	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	ワトソンは、映画の仕事というのは自分の趣味で作品や役を選択できるようなものではない、と述べている。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	ワトソンは舞台や歌うことにも興味があり、できればいつか歌手デビューをしたいとも思っている。	A	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
7	ワトソンは学校では、英文学、地理、美術、美術史を勉強している。	C	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	ラドクリフは映画 <i>December Boys</i> を、孤独で悲しく残酷な映画だが現代社会の問題を浮き彫りにしている作品だと評している。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
9	<i>December Boys</i> でラドクリフが演じるマップスという少年は、「ハリー・ポッター」シリーズのハリーと性格がよく似ている。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
10	ラドクリフは、これから撮影する <i>My Boy Jack</i> について、初めは悲しい物語だが最後はハッピーエンドになる、と説明している。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

a new director

★「ハリー・ポッター」シリーズは5作が映画化されているが、3作目の『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』以降、作品ごとに監督が交代していることを踏まえている。今回話題になっている第5作『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団』（2007年）の監督は、イギリス出身のデービッド・イエーツ（1963-）。

▶[本文に戻る](#)

Harry (Potter)

ハリー（・ポッター） ★J・K・ローリング原作の「ハリー・ポッター」シリーズの主人公。魔法使いの父と、魔力を持つ人間の母との間に生まれた少年。額に稲妻形の傷があり、特別な力を持つ。

[▶本文に戻る](#)

Voldemort

ヴォルデモート ★非常に大きな力を持つ闇の魔法使いで、ハリーの命を狙う。

[▶本文に戻る](#)

Dumbledore

ダンブルドア ★ハリーたちが学ぶホグワーツ魔法学校の校長。ハリーの良き理解者であり庇護者。

[▶本文に戻る](#)

next two Harry Potters

★小説の「ハリー・ポッター」シリーズは2007年7月に全7作で完結した。今後、残る2作が映画化されることになる。

[▶本文に戻る](#)

December Boys

★（2007年）。アメリカ映画。1960年代のオーストラリアを舞台に、理想的な家庭に思い焦がれる孤児たちの姿を描く。

[▶本文に戻る](#)

David (Copperfield)

デービッド（・コパーフィールド）★チャールズ・ディケンズの名作小説『デービッド・コパーフィールド』の同名の主人公。1999年にイギリスでテレビドラマ化され、子ども時代の主人公をラドクリフが演じた。

[▶本文に戻る](#)

Maps

マップス ★*December Boys*でラドクリフが演じる少年の名前。

[▶本文に戻る](#)

My Boy Jack

★イギリスで2007年11月に放映されたテレビ映画。著名な作家夫妻が第一次世界大戦出征中に行方不明になった息子を捜し求める姿を描く。

[▶本文に戻る](#)

Rudyard Kipling

ラドヤード・キップリング ★（1865-1936）。『ジャングル・ブック』などで知られるイギリスの作家・児童文学者。1907年にノーベル文学賞を受賞している。

[▶本文に戻る](#)

David Haig

デービッド・ヘイグ ★（1955-）。イギリスでテレビを中心に活動している俳優。

[▶本文に戻る](#)

語注

come on board

参加する ★on boardの原義は、「（船、列車などに）乗って」。

[▶本文に戻る](#)

be aware that . . .

...ということに気付いている

[▶本文に戻る](#)

gonna

★= going to

[▶本文に戻る](#)

bring ~ to the table

~を（会議などの場に）持ち出す

[▶本文に戻る](#)

prospect

期待、展望

[▶本文に戻る](#)

cast

出演陣、配役

[▶本文に戻る](#)

crew

撮影チーム、スタッフ

[▶本文に戻る](#)

sort of

ある種、いわば

[▶本文に戻る](#)

kind of, been

★正しくは、have, kind of, been。kind ofは「いくらか、ある意味、何となく」。

[▶本文に戻る](#)

ethos

気風、特質

[▶本文に戻る](#)

hopefully

願わくは、できれば

[▶本文に戻る](#)

intimidating

威圧的な、脅威を感じさせる

[▶本文に戻る](#)

newcomer

新規参入者

[▶本文に戻る](#)

'cause

★ = because

[▶本文に戻る](#)

as a whole

全体として、総括して

[▶ 本文に戻る](#)

individually

個々に、個別に

[▶ 本文に戻る](#)

in a big way

大いに、とても

[▶ 本文に戻る](#)

in a ~ place

～な立場で、～な境遇に置かれて

[▶ 本文に戻る](#)

isolated

孤立した、単独の ★動詞形のisolateは「孤立させる、隔離する」の意。

[▶ 本文に戻る](#)

realize

悟る、はっきりと理解する

[▶ 本文に戻る](#)

ways

★正しくはway。

[▶ 本文に戻る](#)

scary

怖い、恐ろしい

[▶ 本文に戻る](#)

wizard-slash-man

★slashは slash mark (斜線記号、/) のこと。and の代わりに使われ、日本語の「兼」に相当する。wizard は「魔法使い」。

[▶ 本文に戻る](#)

in terms of ~

～に関して、～の点から見ると

[▶ 本文に戻る](#)

stick to one's guns

自説を固守する、後に引かない ★ = stand by one's guns

[▶ 本文に戻る](#)

compromise

妥協させる、屈服させる

[▶ 本文に戻る](#)

go through ~

～（試練など）を体験する

[▶ 本文に戻る](#)

everything . . . you said

★ワトソンの発言を指す。

[▶ 本文に戻る](#)

step

歩み、道筋

[▶ 本文に戻る](#)

bring out A in B

BからAを引き出す

[▶ 本文に戻る](#)

give thought to ~

～を一考する

[▶ 本文に戻る](#)

Dan

ダン ★Danielの愛称。

[▶ 本文に戻る](#)

complacent

自己満足した、現状に甘んじた

[▶ 本文に戻る](#)

carry on

(頑張って) 続ける

[▶ 本文に戻る](#)

long way away

遠く離れて、遠い将来

[▶ 本文に戻る](#)

fiction

フィクション、架空小説

[▶ 本文に戻る](#)

unpredictable

予測できない

[▶ 本文に戻る](#)

out there

世の中に、世間に

[▶ 本文に戻る](#)

you've just gotta

★= you have just got to

[▶ 本文に戻る](#)

ideally

理想としては

[▶ 本文に戻る](#)

at some point

ある時点で、いつか

[▶ 本文に戻る](#)

period drama

時代劇、歴史ドラマ

[▶ 本文に戻る](#)

loads of ~

たくさんの～

[▶ 本文に戻る](#)

launch

(～を) 始める、(～に) 乗り出す

[▶ 本文に戻る](#)

come up

現れる、浮かび上がる

[▶ 本文に戻る](#)

juggle

手際よくこなす、上手にやりくりする

[▶ 本文に戻る](#)

~ and stuff

～など、～ほかいろいろ

[▶ 本文に戻る](#)

aim to do

～することを目指す、～することを狙う

[▶ 本文に戻る](#)

again

またその一方で

[▶ 本文に戻る](#)

for the sake of ~

～を目的として

[▶ 本文に戻る](#)

come along

やって来る、現れる

[▶ 本文に戻る](#)

be about

存在している、手に入る状態にある

[▶ 本文に戻る](#)

audition for ~

～のオーディションを受ける

[▶ 本文に戻る](#)

bit

（小さな）役柄、脇役

[▶ 本文に戻る](#)

geography

地理学

[▶ 本文に戻る](#)

orphan

孤児
[▶ 本文に戻る](#)

orphanage

孤児院
[▶ 本文に戻る](#)

outback

(オーストラリアの) 奥地、内陸部
[▶ 本文に戻る](#)

due to ~

~によって、~を理由として
[▶ 本文に戻る](#)

generous

気前のいい、豊富な
[▶ 本文に戻る](#)

donation

寄付、寄付金
[▶ 本文に戻る](#)

hence

そのようなわけで、したがって
[▶ 本文に戻る](#)

rite of passage

通過儀礼
[▶ 本文に戻る](#)

sweet

優しい
[▶ 本文に戻る](#)

genuinely

正真正銘、純粹に
[▶ 本文に戻る](#)

heartfelt

心に触れる、真情あふれた
[▶ 本文に戻る](#)

tally

勘定、(今のところの) 合計数
[▶ 本文に戻る](#)

up to ~

~まで、~に至るまで
[▶ 本文に戻る](#)

restrained

抑制された、控えめな
[▶ 本文に戻る](#)

let ~ out

~を表に出す
[▶ 本文に戻る](#)

send A off to ~

Aを~に送り出す、Aを~に派遣する
[▶ 本文に戻る](#)

numerous

数々の、多数の

[▶本文に戻る](#)

eyesight

視力

[▶本文に戻る](#)

was

★正しくは being 。

[▶本文に戻る](#)

script

脚本、台本

[▶本文に戻る](#)



Cate Blanchett

“In the end, your job as an actor is to, I suppose, invent the psychology because that’s the guessing work; no one ever knows.”

「結局、俳優の仕事は役柄の心理を作り上げることだと思うの。なぜならそれは推測する作業で、そもそも誰にもわからないのだから」

Supervising Editor’s Comment

H・ミレン同様、さすがに女王役である。落ち着いた聞きやすい標準的な英国発音（RP）に聞こえる。ただ、わずかに豪州訛りが現れる。**[eɪ]**が「アイ」になる典型例ではなく、**[ɑ:]**（喉の奥から出す「アー」）が**[a:]**（口の前のほうで出す「アー」）になるのがそれ。米語では**[æ]**が使われるため、英国英語との違いは大きいが、英国英語と豪州英語の差は、かなり微妙だ。私たちには気にならない程度の違いと言えよう。

Interview Data	
収録日	2007年9月23日
収録地	カリフォルニア（アメリカ）
スピード	普通
語彙	難しい
発音	明瞭

ケイト・ブランシェット
Cate Blanchett
1969年5月14日、オーストラリア、メルボルン生まれ。オーストラリアで舞台女優として活躍後、1997年に映画デビュー。『エリザベス』（1998年）で大役を演じ切り、高い評価を受ける。『アビエイター』（2004年）のキャサリン・ヘプバーン役ではアカデミー助演女優賞を受賞。幅広く確実な演技に定評がある。その演技力を高く評価された『エリザベス』から約10年。続編『エリザベス:ゴールデン・エイジ』でも圧倒的な演技力と存在感を示したケイト・ブランシェットが、歴史上の人物の心理を深く掘り下げる苦労や、新たな芸術監督の試みについて語る。

Revisiting the Past

DL Track37

用語解説 語注

Reporter: What were your thoughts about *returning to this character?

Cate Blanchett: Uh, I've revived characters onstage before, um, and toured with characters, so I've played them repeatedly for, you know, for a long time, but I'd never done it, uh, in a film and certainly never done it with such a length of time between it.

So, you've got enough time to decompress and regret every single choice you ever made. So, frankly, the chance of returning to it seemed to be, I could repair some things. And I, I think, in the end, what changed my mind was time, because the film that I was interested in making was about the aging process. I mean, I think the Holy War backdrop is quite, um, timely and interesting now. And I, I think Shekhar's sense of melodrama is so unusual in film that it's incredibly fun to play.

Reporter: What did you find out about her this time?

Blanchett: I'd done a lot of, a lot of research and, you know, I dipped into it again, obviously, 'cause I'm fascinated by the period and by the woman. And you know, there's been books written in the last eight, nine years about her since we . . . um, and more letters found.

I think, for me, that the difference was, um, how internal, um, the turmoil was -- like, the demons that were revisited and unearthed by her really accepting the entry point into a, the next phase of her life. So, I think that was what I found most surprising: that given even the active, epic backdrop that Shekhar gives the film, the kind of the bulk of the film is quite interior.

translation ▶

Reporter: It's hard to watch this movie and not have a lot of [admiration](#) for the woman that she was beyond the position that she held. How did you overcome the difficulty of revealing the [vulnerability](#) of such a strong character?

Blanchett: I remember the first time I, um, played the role, I watched [this fantastic documentary](#) called "[The Thatcher Years](#)" 'cause I was fascinated -- obviously very, very [*different ruler to Elizabeth I](#) -- but the [notion](#) of somebody who had to also probably [be more of a man than](#) the men in order to survive in that environment.

And I think, "Where does the person [lie](#) underneath that?" And as I said, obviously [Margaret Thatcher](#) was entirely different and had an, you know, a much more [negative impact](#) on, you know, England than, than Elizabeth I did, but I was interested in who she was when she was in her [privy chamber](#) -- and, um, so the difference between the public self and the private self. And also, I think, that's the same when you meet [the current queen](#). She has a very [*different speaking voice in person than](#) when she speaks in public.

Reporter: [There's](#) also the [jealousies](#), the difficulty with personal relationships. And I thought this [love triangle](#) between [Bess](#), Elizabeth and [Raleigh](#) was [portrayed](#) in a very interesting way. Wasn't she [pushing them together](#)? Didn't she want them to be a couple?

Blanchett: Yes. I mean, I always thought it was a little bit like [Prospero](#) sending [Ariel](#) out to, um, to gather information and have a set of experiences. But once Bess and Raleigh fall in love, then she has completely lost control of it. Um, and I think it's the notion of, um -- which is [documented](#) in letters -- that anyone who had a secret from Elizabeth, um, it really used to [freak her out](#).

So, I think it was [the](#) fact, that it was fine as long as she knew all about it, then she could [vicariously](#) live through them. Because also I think you have to remember about Elizabeth I -- and of course this is all [supposition](#); you know, I've read a few poems that [she's written](#), but still, in the end, your job as an actor is to, I suppose, [invent](#) the [psychology](#) because that's the [guessing work](#); no one ever knows -- but you know, [her mother](#) died when she was incredibly young, killed by [her father](#), and she grew up not even knowing whether she was going to live and had to [beg for her life](#) from [*her sickly brother](#), who [ascended the throne](#). And then [her sister](#) wanted to kill her. Um, and so, I think her, her notion of [intimacy](#) was incredibly [violated](#) from a very early age.

And the notion of actually [forming](#) a marriage with anybody was a, quite a dangerous and, um, unattractive [prospect](#). And I think that that [must've](#) led to somebody's [emotional life](#) being [atrophied](#), as an [adolescent](#). And so, I started thinking about what do you do, when you've got a woman -- I mean, she would've been 52 at the time I was playing her -- but, who's still got an adolescent [relationship to](#), um, her [sexuality](#), her [physicality](#) and the notion of, um, [male-female relations](#)? So, I, I mean, I think that that was [a](#) interesting thing to play.

A Huge Theatrical Responsibility

DL Track39

用語解説 語注

Reporter: You're [embarking on](#) something, coming up to be, uh, [artistic](#) -- you and [your husband](#) -- artistic directors of [the Sydney Theatre Company](#).

Blanchett: That's right. Yeah.

Reporter: And I thought what an interesting choice to make. I mean, that's going back to the beginnings of your career but also [maintain](#) that connection with theatre. Why that company in particular, and what is your relationship with them?

Blanchett: My husband and I got our first, um, I suppose, career-changing jobs, really, with the Sydney Theatre Company. And, you know, the first play I did was [Top Girls](#), [Caryl Churchill](#)'s *Top Girls*. And then I worked with [Geoffrey](#) on a very powerful production of [David Mamet](#)'s *Oleanna* at the Sydney Theatre Company. And I really had no [ambition](#) to work in film. I went to a theatre school, [the National Institute of Dramatic Art](#), and that was what I thought I would do.

And, um, about five or six years later, um, I suppose I came to film quite late, considering how young, you know, [Lindsay Lohan](#) is. Um, you know, and so it was never a particular ambition of mine. And I've always maintained a connection with the theatre in general and the Sydney Theatre Company specifically, um, so it seems quite [organic](#). I mean, it's a fantastic, incredible, um, opportunity and a huge responsibility and challenge.

translation ▶

Tangled up in Dylan

DL Track40

用語解説 語注

Reporter: You also have another film [coming out](#) at about the same time.

Blanchett: Do I?

Reporter: Isn't [I'm Not There](#) coming out?

Blanchett: Oh yes. No, that's, I think that's coming out in November.

Reporter: Can you talk just a little bit about playing [Bob Dylan](#)?

Blanchett: It was, ha, I mean, I don't think I've had this many microphones since I did the [press conference](#) in the film for Bob Dylan. I was preparing for that while I was, um, on the last [legs](#) of, um, *Elizabeth*, which was great because the filming of *Elizabeth* was incredibly [intense](#).

And so . . . Dylan's manager was very [supportive](#) of the project. And obviously I'd seen [the incredible Scorsese documentary](#) and had seen, um, the [excerpts](#) he'd used of all the, um, press conferences Dylan gave on that '65, '66 tour of Europe. And, um, he got, the, uh, all the tapes to me [*in, in, to their entirety](#), the Paris press conference, um, Sweden, um, in Stockholm and the ones in, um, in England.

And it was amazing to [chart](#) his journey and, of [disillusionment](#) and [exhaustion](#), um, through that tour. I mean, it's [the one](#) time I've seen my husband [jealous of](#) me sitting this close to the thing, just [glued to](#) Dylan. It's very difficult to play someone you're [*in utter awe of](#).

tanslation ▶

*Interviewed by Jordan Riefe/Planet Syndication
Narrated by Nadia McKechnie, Eric Kelso*

エリザベス役を再び演じて

 **DL**  **Track**37

記者：この役柄に戻るのはどんなお気持ちでしたか？

ケイト・ブランシェット：舞台では以前にも同じ役を再演していますし、巡回公演で同じ役を長い間繰り返し演じたりもしてきましたが、映画では初めてでしたね。これほど長い時間を置いての再演も、間違いなく初めてでした。

つまりは、（エリザベスの）役柄から抜け切って、それまでの（演技上の）選択をひとつひとつ反省する時間がたっぷりあったわけです。ですから、正直な話、この役に戻る機会を得て、幾つかの部分を修正できるように思えました。それと、最終的に私の考え方を変えさせたのは時間だったと思います、というのも、私がぜひ作りたいと思った映画は、年を取る過程についてのものだったので。それに、聖戦（宗教紛争）の背景は現在、非常にタイムリーで興味深いと思います。シェカール（・カプール監督）が映画において発揮するメロドラマのセンスはとても独特で、演じていてこの上なく楽しいのです。

記者：彼女について今回はどのような発見がありましたか？

ブランシェット：たくさん、たくさんリサーチをして、もう一度調べました、当然ですが、というのも、この時代とこの女性に魅了されているからです。（前作以来の）この8、9年間に彼女に関する本もいくつか出ていますし・・・手紙もさらに発見されています。

私から見た（前作との）違いは、心情の揺れがいかに彼女の内面から来るものだったかということでした——言うなれば、人生の次の段階の入り口に差し掛かったことを正面から受け止めることによって、再び訪れ、掘り起こされた悪魔ですね。ですから、そこが私にとって一番の驚きでした、シェカールがこの作品にダイナミックで壮大な時代背景を設定していながら、この作品の大半がきわめて内面的なものであるということが。

【原文】[▶](#)

私人としての女王の心理を探る

 [DL](#)  [Track38](#)

記者：この映画を見ると、彼女が就いている地位の向こう側に存在する一人の女性としての彼女に称賛の念を禁じえません。あれほど強い人物の弱さを表現するという難しさをどのように克服されたのでしょうか？

ブランシェット：最初にこの役を演じたときに、「サッチャー時代」という優れたドキュメンタリーを見たことを覚えています。というのも、非常に興味を引かれたからです——もちろん彼女はエリザベス1世とはまったく違った為政者ですが——置かれた状況で生き抜くために、彼女もまた、おそらく周囲の男たちよりも男性的であらねばならなかった人である、という意味で。

そして「その奥のどこに本人が隠れているのだろう？」と思うのです。先ほども申し上げたとおり、マーガレット・サッチャーはまったく違うタイプでしたし、エリザベス1世よりもはるかに悪い影響をイングランドに及ぼしたわけですが、私室での彼女がどんな人物であったのかに興味を覚えたのです——そして、公の人格と私人としての人格の違いにも。それは現在の女王とお会いしても同じことだと思います。あの方は、直接お会いしたときのお声が、人前で話をされるときのお声とずいぶん違うのです。

記者：嫉妬心や個人的な人間関係のもつれもありますね。ベスとエリザベス（女王）とローリーとの三角関係が非常に興味深く描かれていると思います。彼女は2人の仲を取り持とうとしていたのではなかったのですか？ 夫婦になってほしいと望んでいたのではなかったのでしょうか？

ブランシェット：そうですね。言うなれば、私はずっと、それはプロスペローが情報を集め、いろいろな経験をさせるためにエアリアルを送り出すのと少し似ていると思っていました。でも、ひとたびベスとローリーが恋に落ちてしまうと、彼女にはまったくコントロールできなくなってしまった。思うに、その考えが——複数の手紙に記録されているのですが——誰かがエリザベスに隠し事をする、と彼女は度を失ったというのです。

ですから、こういうことだったんじゃないかと思います、彼女が全部承知しているうちはよかったのでしょう、それなら、彼女も彼らを通して人生を疑似体験することができたのです。なぜなら、エリザベス1世に関してもうひとつ忘れてはならないのは——もちろん、これはすべて推測にすぎませんよ。まあ、私も彼女の書いた詩を幾つか読みましたが、それでも結局、俳優の仕事は（役柄の）心理を作り上げることだと思うんです。なぜならそれは推測する作業で、そもそも誰にもわからないのですから——でも、とにかく、彼女の母親は彼女が非常に幼い時分に亡くなりました、彼女の父親に殺されたのです。彼女は生き続けることができるかどうかともわからないまま育ち、王位に就いた病弱な弟に命ごいをしなければなりませんでした。さらに、姉は彼女を殺したがっていました。そんなわけで、彼女にとって、親愛という概念はごく幼いときからひどく阻害されていたのだと思います。

誰かと実際に婚姻関係を結ぶという考えは、非常に危険で魅力のない見通しを持つものでした。そうしたことから、恋愛面が未成熟な状態に退行したのだらうと思います。そこで私は、どうするだろうか、と考えました。ある女性がいて——つまり、私が演じていた時期の彼女は52歳になっていたはずですが——その彼女が、自分の性的な面、肉体的な面、それに男女関係のとらえ方において未成熟な考えしか持てないとしたら？　そういうわけで、その点が演じていて興味深い部分でした。

【原文】[▶](#)

芸術監督に抜擢されて

DL **Track39**

記者：あなたは芸術なことに着手なさろうとしていて――あなたとご主人ですが――シドニー・シアター・カンパニーの芸術監督に就任なさるそうですね。

ブランシェット：そうです。はい。

記者：ずいぶん興味深い選択だと思いました。というのも、それは、あなたの俳優としての原点に戻ることであり、また舞台演劇との関係を維持するということでもあるわけですから。なぜこの劇団なのでしょう、この劇団とあなたのご関係は？

ブランシェット：夫も私も、おそらく転機となった初めての仕事を、実のところ、シドニー・シアター・カンパニーからもらったのです。私が初めて出演した舞台は『トップガールズ』、キャリル・チャーチルの『トップガールズ』でした。そしてその後、シドニー・シアター・カンパニーで、ジェフリー（・ラッシュ）と一緒にデービッド・マメットの感動的な作品『オレアナ』に出演しました。私は実際、映画の仕事を目指していたわけではありません。演劇学校のオーストラリア国立演劇学院に行き、そういう仕事（舞台）をやることになるだろうと思っていたんです。

そして、それから**5、6**年後、かなり遅く映画デビューしました、リンジー・ローハンの若さに比べると、ですけど。まあ、ですから、それ（映画女優）は、特別私が目指していたことじゃなかったんです。それに、舞台演劇全般、特にシドニー・シアター・カンパニーとの関係は常に維持してきましたから、それ（芸術監督への就任）はごく自然な成り行きに思えます。とはいえ、素晴らしい、途方もない機会ですし、重大な責任であり挑戦です。

【原文】[▶](#)

ボブ・ディランになりきる

 [DL](#)  [Track40](#)

記者：ほぼ同じ時期に、もう1本、映画が公開されますね。

ブランシェット：そうですか？

記者：『アイム・ノット・ゼア』が公開されるのではありませんか？

ブランシェット：ああ、そうですね。いえ、あれは11月公開だと思います。

記者：ボブ・ディランを演じることについて、少し話していただけますか？

ブランシェット：あれは、アハハ、その、こんなに多くのマイクに囲まれるのは、ボブ・ディランの映画の中での記者会見以来ですね。あの映画の準備をしていたのは『エリザベス』がもう終わるころで、ちょうどいいタイミングでした、なにしろ『エリザベス』の撮影はとても張り詰めたものでしたから。

それに・・・ディランのマネージャーがこの企画にとっても協力的だったんです。そして当然ながら、私はスコセッシのあの素晴らしいドキュメンタリー映画を見ていましたし、'65年と'66年のヨーロッパ・ツアーでディランが行った記者会見からスコセッシが使った抜粋も、全部見ていました。しかも彼は、パリの記者会見と、スウェーデン、ストックホルムでの、それとイギリスでの記者会見のテープを丸ごと私にくれたんです。

そのツアーで彼がたどった幻滅と疲弊の旅路を描くのは素晴らしいことでした。実は、私がそれ（画面）にこんなに近寄って座り込み、ディランにくぎ付けになっていたら、夫が焼きもちを焼いてるのを初めて見ました。心から崇拜している人を演じるのは、とても難しいものです。

【原文】[▶](#)

Vocabulary List

A

- adolescent** 未熟な、青春期の
- ascend the throne** 王位に就く ★**ascend**は「上がる、高まる」の意。
- atrophy** 委縮させる、退行させる

B

- backdrop** 背景、状況
- be fascinated by** ~ ~に魅了される、~に興味をかきたてられる
- be more of A than B** B以上にAである
- beg for one's life** 命ごいする
- bulk of** ~ ~の大部分

C

- chart** 図解する、海図にする
- come out** 公開される、世に出る

D

- decompress** 圧力を減らす、緊張を緩める
- dip into** ~ ~を調べてみる、~に少し浸かる
- disillusionment** 幻滅、幻想の崩壊
- document** 記録する、（記録によって）証明する

E

- embark on** ~ ~に乗り出す、~に着手する
- entirety** 全体
- epic** 叙事詩的な、壮大な
- every single** ~ すべての~、ありとあらゆる~
- excerpt** 抜粋、引用
- exhaustion** 疲弊、消耗

F

- freak ~ out** ~をパニックに陥らせる、~の正気を失わせる

G

- glued to** ~ ~にびったりくっついて、~にくぎ付けになって
- guessing work** 推測する作業

I

- in awe of** ~ ~に畏敬の念を抱いて
- in person** 直接会って、生で
- interior** 内面的な、内心の
- intimacy** 親愛
- invent** 創造する、（想像力で）生み出す

L

- leg** （長旅やレースなどの）一区間
- lie** ある、見いだされる
- love triangle** 三角関係

M

- male-female relations** 男女関係 ★**relation**を「人間関係」という意味で使う場合は、通例、複数形。

O

- organic** 自然発生的な、有機的な

P

- physicality** 肉体的なこと
- privy chamber** 宮廷の私室

R

- revisit** 再訪する、再体験する
- ruler** 君主、支配者、指導者

S

- sickly** 病弱な、病身の

- supportive** 協力的な、支えとなってくれる
- supposition** 推測、想定

T

- the one** ~ 唯一の～
- this** ある★記憶の中の事柄を持ち出す際に使われる。
- turmoil** 騒動、混乱

U

- unearth** 掘り起こす、暴く
- utter** 完全な、徹底的な

V

- vicariously** 身代わりを使って
- violate** 侵害する、乱す
- vulnerability** 傷つきやすさ、弱さ

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	ブランシェットが映画でエリザベス役を再演するのは今回が初めてである。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	今回は準備の時間が十分あったので、以前の演技を反省したり、修正を加えたりすることができた、とブランシェットは述べている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	ブランシェットは、今回は改めて役柄のリサーチをすることはしなかった。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	ブランシェットは、エリザベス1世とサッチャー前首相は為政者として非常に似ていた、と述べている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	女性の為政者の公の人格と私人としての人格との違いに、ブランシェットは興味を持った。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	エリザベスは三角関係の恋愛を経験し、その中で自分のコントロールを失うことがあった。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	エリザベスは両親や兄弟の深い愛情の中で育てられた。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	ブランシェットはシドニー・シアター・カンパニーで芸術監督をするが、この劇団との関わりは今回が初めてである。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	ブランシェットは、もともと舞台を目指して演劇学校に行ったのであり、映画の仕事を目指していたのではなかった。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	映画 <i>I'm Not There</i> でボブディランを演じるために、ブランシェットは自分の夫が嫉妬するほどその役柄研究に打ち込んだ。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

答え [▶](#)

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	ブランシェットが映画でエリザベス役を再演するのは今回が初めてである。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	今回は準備の時間が十分あったので、以前の演技を反省したり、修正を加えたりすることができた、とブランシェットは述べている。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	ブランシェットは、今回は改めて役柄のリサーチをすることはしなかった。	C	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
4	ブランシェットは、エリザベス1世とサッチャー前首相は為政者として非常に似ていた、と述べている。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
5	女性の為政者の公の人格と私人としての人格との違いに、ブランシェットは興味を持った。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	エリザベスは三角関係の恋愛を経験し、その中で自分のコントロールを失うことがあった。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	エリザベスは両親や兄弟の深い愛情の中で育てられた。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
8	ブランシェットはシドニー・シアター・カンパニーで芸術監督をするが、この劇団との関わりは今回が初めてである。	A	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
9	ブランシェットは、もともと舞台を目指して演劇学校に行ったのであり、映画の仕事を目指していたのではなかった。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	映画 <i>I'm Not There</i> でボブディランを演じるために、ブランシェットは自分の夫が嫉妬するほどその役柄研究に打ち込んだ。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

用語解説

returning to this character

★『エリザベス』（1998年イギリス映画）に引き続き、『エリザベス：ゴールデン・エイジ』（2007年イギリス・フランス合作映画）で再びエリザベス1世役を演じることを指す。

[▶本文に戻る](#)

Holy War

聖戦 ★宗教的な大義によって神聖と見なされる戦い。『エリザベス：ゴールデン・エイジ』ではカトリックとプロテスタントの宗教間の争いが描かれており、ブランチエットはそれを現代の宗教紛争と重ね合わせている。

[▶本文に戻る](#)

Shekhar (Kapur)

シェカール（・カプール） ★（1945-）。パキスタン出身の映画監督。前作『エリザベス』に続き、今回の『エリザベス：ゴールデン・エイジ』でもメガホンを取っている。

[▶本文に戻る](#)

"The Thatcher Years"

★BBC 製作のドキュメンタリー・シリーズ。『ブリジット・ジョーンズの日記』のシャロン・マグワイア監督などが制作に携わった。
[▶本文に戻る](#)

Elizabeth I

エリザベス1世 ★（1533-1603）。イングランド女王（1558-1603在位）。イギリス国教会の確立、新大陸進出、スペイン無敵艦隊撃破などの功績を上げ、イングランド国内をまとめるとともに、同国の海洋国家としての地位を高めた。生涯独身を貫き、テューダー朝最後の国王となった。I（1世）は the first と読むことに注意。
[▶本文に戻る](#)

Margaret Thatcher

マーガレット・サッチャー ★（1925-2013）。イギリス初の女性首相（'79-90在任）。保守党。強硬路線を貫いて「鉄の女」として恐れられながら、20世紀最長の在任期間を務めた。
[▶本文に戻る](#)

the current queen

現在の女王 ★エリザベス2世（1926-）（1952- 在位）を指す。
[▶本文に戻る](#)

Bess

ベス ★= Elizabeth Throckmorton（エリザベス・スロックモートン）。エリザベス1世の侍女。ウォルター・ローリー（次項参照）と密かに結婚したため女王の怒りに触れ、宮廷から追放された。
[▶本文に戻る](#)

Raleigh

ローリー ★= Walter Raleigh（ウォルター・ローリー）。（1552 /1554-1618）。エリザベス1世の寵愛を受けた廷臣。探検家として数度にわたり入植者を率いて新大陸への航海を行った。
[▶本文に戻る](#)

Prospero

プロスペロー ★シェークスピアの戯曲『テンペスト』の登場人物。孤島に住み、魔法を操って島の生物や精霊を支配する。
[▶本文に戻る](#)

Ariel

エアリアル ★『テンペスト』に登場する空気の精。プロスペローの手足となって飛び回る。
[▶本文に戻る](#)

her mother

★アン・ブーリン（1501/1507-36）。ヘンリー8世（次項参照）の2番目の王妃。不義密通の疑いをかけられ、離婚後処刑された。
[▶本文に戻る](#)

her father

★イングランド国王ヘンリー8世（1491-1547、1509-47在位）。最初の王妃キャサリン（メアリー1世の母）と離婚してアン・ブーリンと再婚するために、離婚を認めないカトリック教会と決裂し、イングランド国教会を創設した。
[▶本文に戻る](#)

her sickly brother

★イングランド王エドワード6世（1537-53）。ヘンリー8世の3番目の王妃を母に持ち、生まれつき病弱であった。
[▶本文に戻る](#)

her sister

★イングランド女王メアリー1世（1516-58、1553-58在位）。カトリック回帰政策を推し進めた。異母妹であるエリザベスのことを強く憎んでいたといわれる。
[▶本文に戻る](#)

your husband

★オーストラリア出身の劇作家・演出家、アンドルー・アプトン（1966-）のこと。

[▶本文に戻る](#)

the Sydney Theatre Company

シドニー・シアター・カンパニー ★シドニー・オペラハウスを本拠地とする劇団。2008年1月からブランシェットとアプトンが夫妻で共同芸術監督を務める。

[▶本文に戻る](#)

Top Girls

『トップガールズ』 ★1982年に書かれた戯曲。家族を捨ててキャリアをつかもうとする女性をはじめ、出演者はすべて女性。

[▶本文に戻る](#)

Caryl Churchill

キャリル・チャーチル ★（1938-）。イギリスの劇作家。配役の男女を逆転させるなど、性差に対する既成概念に挑戦した作品で知られる。

[▶本文に戻る](#)

Geoffrey (Rush)

ジェフリー（・ラッシュ） ★（1951-）。オーストラリア出身の俳優。舞台で活躍した後、映画デビュー作の『シャイン』（'96年）でアカデミー主演男優賞を受賞。『エリザベス』でもブランシェットと共演し、策謀にたけた側近フランシス・ウォルシンガムを演じている。

[▶本文に戻る](#)

David Mamet

デービッド・マメット ★（1947-）。アメリカの劇作家。映画の脚本家として『アンタッチャブル』（'87年）、『ハンニバル』（2001年）などの作品にも参加している。

[▶本文に戻る](#)

Oleanna

『オレアナ』 ★1992年に書かれた、セクシャル・ハラスメントがテーマの男女2人芝居。ブランシェットはこの作品でシドニー演劇批評家協会最優秀女優賞を受賞した。

[▶本文に戻る](#)

the National Institute of Dramatic Art

オーストラリア国立演劇学院 ★シドニーにある、1958年設立の演劇人養成のための専門機関。通称NIDA。

[▶本文に戻る](#)

Lindsay Lohan

リンジー・ローハン ★（1986-）。アメリカの女優・歌手。3歳から子役としてテレビに出演し、12歳で『ファミリー・ゲーム』（'98年）で映画デビュー。『フォーチュン・クッキー』（2004年）、『ミーン・ガールズ』（'05年）などに主演。

[▶本文に戻る](#)

I'm Not There

『アイム・ノット・ゼア』★2007年アメリカ・ドイツ合作映画。監督トッド・ヘインズ。リチャード・ギア、クリスチャン・ベールなど6人の俳優が、ボブ・ディラン（次項参照）のさまざまな側面を象徴する役を演じる。ブランチエットは'60年代のディランを象徴する「ジュード」役で出演。

[▶本文に戻る](#)

Bob Dylan

ボブ・ディラン ★（1941-）。アメリカのシンガー・ソングライター。「風に吹かれて」、「ライク・ア・ローリング・ストーン」など、社会性の強いメッセージソングで'60年代以降のフォーク、ロックに多大な影響を与えた。

[▶本文に戻る](#)

the incredible Scorsese documentary

★アメリカの名監督マーティン・スコセッシが監督した『ボブ・ディラン ノー・ディレクション・ホーム』（2005年）のこと。ディラン本人のインタビュー、音楽映像、関係者のインタビューなどを盛り込んだ、3時間半にわたる長編ドキュメンタリー。

[▶本文に戻る](#)

語注

character

役柄、登場人物
[▶本文に戻る](#)

revive

復活させる、よみがえらせる
[▶本文に戻る](#)

onstage

ステージ上で、舞台上
[▶本文に戻る](#)

it

★前作と今回の作品とを指すので、正しくはthem。
[▶本文に戻る](#)

decompress

圧力を減らす、緊張を緩める
[▶本文に戻る](#)

regret

後悔する、悔やむ
[▶本文に戻る](#)

every single ~

すべての～、ありとあらゆる～
[▶本文に戻る](#)

repair

修繕する、正す
[▶本文に戻る](#)

change one's mind

考えを変える
[▶本文に戻る](#)

aging

加齢の、老化の
[▶本文に戻る](#)

backdrop

背景、状況
[▶本文に戻る](#)

melodrama

メロドラマ、通俗劇
[▶本文に戻る](#)

incredibly

信じられないほど、ものすごく
[▶本文に戻る](#)

dip into ~

～を調べてみる、～に少し浸かる
[▶本文に戻る](#)

obviously

明らかに、当然ながら
[▶本文に戻る](#)

be fascinated by ~

～に魅了される、～に興味をかきたてられる
[▶ 本文に戻る](#)

internal

内面の、精神的な
[▶ 本文に戻る](#)

turmoil

騒動、混乱
[▶ 本文に戻る](#)

demon

悪魔
[▶ 本文に戻る](#)

revisit

再訪する、再体験する
[▶ 本文に戻る](#)

unearth

掘り起こす、暴く
[▶ 本文に戻る](#)

entry point

入り口
[▶ 本文に戻る](#)

phase

段階、局面
[▶ 本文に戻る](#)

epic

叙事詩的な、壮大な
[▶ 本文に戻る](#)

bulk of ～

～の大部分、～の大半
[▶ 本文に戻る](#)

interior

内面的な、内心の
[▶ 本文に戻る](#)

admiration

称赞、感嘆
[▶ 本文に戻る](#)

vulnerability

傷つきやすさ、弱さ
[▶ 本文に戻る](#)

this

ある ★記憶の中の事柄を持ち出す際に使われる。
[▶ 本文に戻る](#)

fantastic

素晴らしい
[▶ 本文に戻る](#)

documentary

ドキュメンタリー、記録映像
[▶ 本文に戻る](#)

different . . . to

★different に from ではなく to を組み合わせるのは、主にイギリス英語。
[▶ 本文に戻る](#)

ruler

君主、支配者、指導者
[▶ 本文に戻る](#)

notion

発想、概念
[▶ 本文に戻る](#)

be more of A than B

B以上にA である
[▶ 本文に戻る](#)

lie

ある、見いだされる
[▶ 本文に戻る](#)

negative impact

マイナスの影響、悪影響
[▶ 本文に戻る](#)

privy chamber

宮廷の私室
[▶ 本文に戻る](#)

different speaking . . . than

★different にthan を組み合わせるのは主にアメリカ英語だが、イギリス英語で使われることもある。
[▶ 本文に戻る](#)

in person

直接会って、生で
[▶ 本文に戻る](#)

There's

★正しくは There're 。

jealousy

嫉妬
[▶ 本文に戻る](#)

love triangle

三角関係

[▶ 本文に戻る](#)

portray

描き出す、表現する

[▶ 本文に戻る](#)

push ~ together

～をくっ付ける

[▶ 本文に戻る](#)

document

記録する、（記録によって）証明する

[▶ 本文に戻る](#)

freak ~ out

～をパニックに陥らせる、～の正気を失わせる

[▶ 本文に戻る](#)

the

★正しくは a。

[▶ 本文に戻る](#)

vicariously

身代わりを使って

[▶ 本文に戻る](#)

supposition

推測、想定

[▶ 本文に戻る](#)

she's written

★正しくは she wrote。

[▶ 本文に戻る](#)

invent

創造する、（想像力で）生み出す

[▶ 本文に戻る](#)

psychology

心理、心理状態

[▶ 本文に戻る](#)

guessing work

推測する作業

[▶ 本文に戻る](#)

beg for one's life

命ごいする

[▶ 本文に戻る](#)

sickly

病弱な、病身の

[▶ 本文に戻る](#)

ascend the throne

王位に就く ★ascendは「上がる、高まる」の意。

[▶ 本文に戻る](#)

intimacy

親愛

[▶ 本文に戻る](#)

violate

侵害する、乱す

[▶ 本文に戻る](#)

form

成立させる、（関係を）結ぶ

[▶ 本文に戻る](#)

prospect

展望、将来の見通し

[▶ 本文に戻る](#)

must've

★= must have

[▶ 本文に戻る](#)

emotional life

恋愛面、感情的な生活

[▶ 本文に戻る](#)

atrophy

委縮させる、退行させる

[▶ 本文に戻る](#)

adolescent

未熟な、青春期の

[▶ 本文に戻る](#)

relationship to

★idea of ~（～に関する考え）などと言いたかったと思われる。

[▶ 本文に戻る](#)

sexuality

性、性的関心

[▶ 本文に戻る](#)

physicality

肉体的なこと、身体性

[▶ 本文に戻る](#)

male-female relations

男女関係 ★relationを「人間関係」という意味で使う場合は、通例、複数形。

[▶ 本文に戻る](#)

a

★正しくは an。

[▶ 本文に戻る](#)

embark on ~

～に乗り出す、～に着手する

[▶ 本文に戻る](#)

artistic

芸術の、芸術的な

[▶ 本文に戻る](#)

maintain

★正しくは maintaining。

[▶ 本文に戻る](#)

ambition

大望、熱望

[▶ 本文に戻る](#)

organic

自然発生的な、有機的な

[▶ 本文に戻る](#)

come out

公開される、世に出る

[▶本文に戻る](#)

press conference

記者会見

[▶本文に戻る](#)

leg

(長旅やレースなどの) 一区間 ★ここでは、on the last legsで、「(映画撮影の) 終わる寸前に」という意味で使われている。

[▶本文に戻る](#)

intense

激しい、強烈な

[▶本文に戻る](#)

supportive

協力的な、支えとなってくれる

[▶本文に戻る](#)

excerpt

抜粋、引用

[▶本文に戻る](#)

in, in, to their entirety

★to their entirety より in their entirety (丸ごと、そっくりそのまま) という方が普通。

[▶本文に戻る](#)

entirety

全体

[▶本文に戻る](#)

chart

図解する、海図にする

[▶本文に戻る](#)

disillusionment

幻滅、幻想の崩壊

[▶本文に戻る](#)

exhaustion

疲弊、消耗

[▶本文に戻る](#)

the one ~

唯一の～

[▶本文に戻る](#)

jealous of ~

～にしっとして

[▶本文に戻る](#)

glued to ~

～にびったりくっついて、～にくぎ付けになって

[▶本文に戻る](#)

in awe of ~

～に畏敬の念を抱いて

[▶本文に戻る](#)

utter

完全な、徹底的な

[▶本文に戻る](#)



George Clooney

写真：AP/アフロ

George Clooney

“You get famous and you start to think, “Yes, of course. Of course I should be famous and I’ve earned it all.” Well, you haven’t. You got lucky.”

「有名になると、『ああ、当然だよ。俺は有名になって当然だし、この地位はすべて自分の力で手に入れたんだ』と思い始める。でも、そうではない。運が良かっただけなんだ」

Supervising Editor’s Comment

声は低めで落ち着いた感じだ。A・ジョリーとは対照的に、句切りも多い。米語では母音を長めに言うことが多いが、彼も例外ではない。そのため、ゆっくりと話している印象を受けやすい。しかし、「Finding the Money」の前半、why it's difficult to get a good film...のように、実際はかなり早口であることも多い。しかも、話している内容も堅い。それだけに、訛りのない滑らかで知的な響きの話し声とは裏腹に、聞き取るためのハードルは高い。

Interview Data	
収録日	2007年10月1日
収録地	ベネツィア（イタリア）
スピード	速い
語彙	普通
発音	明瞭

ジョージ・クルーニー
George Clooney
1961年5月6日、アメリカ・ケンタッキー州生まれ。大学でジャーナリズムを学んだ後、俳優に。TVドラマ「ER緊急救命室」（1994年～）で脚光を浴び、映画『オー・ブラザー！』（2000年）や「オーシャンズ11」シリーズ（2001年、'04年、'07年）などに出演。『シリアナ』（2005年）でアカデミー助演男優賞。監督作『グッドナイト&グッドラック』（2005年）も高く評価された。金儲け主義を潔しとせず、資金集めから始めて社会派の映画作りを続けるジョージ・クルーニーは「ハリウッドの良心」とも言える存在。オバマ氏とも親交の深い彼が、現代アメリカが抱える問題について、そして有名人であることの意味について語った含蓄深いインタビュー。

Finding the Money

DL Track42

用語解説 語注

Reporter: Your new movie, *Michael Clayton* is pretty strongly political. Was it tough getting the [backing](#) to make this kind of a film?

George Clooney: It wasn't so much about politics. Um, this has much simpler [undertones](#) of why it's difficult to get a good film made anymore. It just [simply isn't](#) a [commercial](#) film. I mean, you see the film -- you've seen it -- there, you don't [sit back and go](#), "Oh, this is a big money maker." Um, so [studios](#) don't wanna make 'em.

There's a really easy math to it. If a film's gonna cost \$20 million to make anymore, which is, y'know, as you well know, it sounds like a lot of money but it's nothing in film world. Studios look at that and go, "Well, it's gonna cost us \$50 million to advertise it because we're a big machine **that everything gets going.*" And they can't [come to terms with](#) the idea of spending \$20 million on a film and then three times that on selling of it. So they don't wanna make those films anymore. So you have to go out and find the money.

The good thing is there's a lot of places you can go to right now where you can find money if [you're willing to do](#) it [for nothing](#), which is what I do with films. And you [gamble on](#) the film making money. If it makes money, you can [make a living](#), y'know. *The Good German* we don't make any money, and, y'know, *Solaris*. A lot of films you don't [make any money off of](#). But you do 'em because you wanna make the films. I'm always afraid of being 80 years old and going, "What was your, you know, what was your [legacy](#) of films?" if you didn't try to do some [decent](#) films along the way.

translation ▶

Fixing Past Mistakes

DL Track43

用語解説 語注

Reporter: Your character, Michael Clayton, seems to be [disenchanted with](#) his country. Do you think that [reflects](#) something that's happening in the country today?

Clooney: If you look at the [polls](#) now, 70 percent of our country is disenchanted with our country. We're better than what we've been doing in the last few years. Um, you know, it's a difficult time. We've put ourselves in a position to make a lot of [dumb](#) mistakes. We've [trampled on the Geneva Convention](#). We've [stepped all over](#) our [constitution](#). I mean, we've done some pretty [amazing](#) things, uh, [along the way](#).

But what we're good at and what we're in the process of doing, I hope and I believe, is [fixing](#) them. That's what, sort of, Americans have been pretty good at over the years. You know, we, we do a lot of dumb things, [*put Japanese in internment camps](#), and then we realize that's probably stupid and fix it. Takes us [awhile](#), y'know. Um, so hopefully we're in the process now of doing that. I think that our country feels that it's . . . it, it requires Middle America to go, "Oh, this was really, really stupid." And then there, you know, that's what [Vietnam](#) was. Vietnam didn't end for 13 years until [Walter Cronkite](#) said, "This is a crime," you know, "This is [unwinnable](#)." We're at that place now, and our country's starting to turn. [*You saw it in the mid-term elections](#), you'll see it now. And hopefully it'll turn around. That's what I hope.

tanslation ▶

Reporter: Do you think that having [Barack Obama](#) or [Hillary Clinton](#), or any [Democrat](#) in the White House will make a major difference? Couldn't you [argue](#) that both Democrats and [Republicans](#) are [equally](#) corrupt?

Clooney: You could argue that. You'd lose that argument, but, uh -- I think you'd have a tough argument there. "Corrupt" isn't the thing. I don't know [how, if](#) corrupt is the word, "[misguided](#)" I think is a better word. Um, uh, I like Barack because he's, he's very intelligent. He's the only guy on that, of that group -- well, not the only guy, but the only [major player](#) of that group -- that [had the nerve in 2003 to](#) write a [piece](#) that said how stupid going to that war was gonna be. And people can say, "Well, [*he wasn't in the Senate](#)." You go . . . Well, [*you were in state politics](#) which is really hard in Chicago, Illinois, at that point. It was a brave thing to do.

You know, you've been in the room [every once in a while](#) with a real rock star. And he really walks into a room, you go -- he [takes your breath away](#), you know. Um, I'd love him to be president, quite honestly. I think he's, uh, he [stands for](#) a lot of things, and I think he could win. I will [pull for](#) any Democrat right now that's in there because I think that we had one in [Gore](#), and had he been [in the office](#) at that point, uh, none of this would've happened. And that, that we know for a fact because he said it wouldn't at the time. So, I think we gotta [get something back on track](#).

You know, so, you know, I like him. I like Hillary, she's great. [Edwards](#) is terrific. There's quite a few good choices out there. I think the Republicans are [having, you know, some difficult times](#), sort of [stepping on their own toes](#) right now. So . . . we'll see, see what happens. It's a long way away. A lot of things happen. Maybe Gore'll get into the race, make it interesting.

Reporter: I'm sure the [press conferences](#) and [publicity](#) can get to be a bit much sometimes. At what point does all the press get to be [irritating](#) for you?

Clooney: Right now, you're the [epicenter](#)!

Reporter: Seriously, does it have an effect on you, though?

Clooney: Y'know, [there's things](#) that are irritating, like **when that girl got up with the espresso thing* you just go . . . You, you know, did you see at the press conference this girl was, just said it was . . . It's irritating because you go, "Well, I'm [doing the best I can](#) to try and [bring attention to](#) things and try to spend a lot of time working on projects." And every single corporation in the world is being [picketed](#), and you kind of go -- well, I'm not quite sure what her specific [agenda](#) was on that one. So, you know, those are those moments where you just wanna go, "What, what are you doing, you know, to, like, help the world?"

But [the truth of the matter is](#) I grew up around famous people. [My father](#), in the world that I grew up in, in Cincinnati, Ohio -- big star. My aunt [Rosemary](#) was a big star. Y'know, I saw it. I saw how little it [has to do with](#) you. You know what I mean? Uh, it's all about luck. The problem I think with famous people [in general](#) is that they actually think that they're [geniuses](#). Y'know, you get famous and you start to think, "Yes, of course. Of course I should be famous and I've [earned](#) it all." Well, you haven't. You got lucky.

I got lucky. I got **a TV show that got a Thursday night time slot*, Thursday night at 10 o'clock. And it was a [massive](#) hit, and now I get to do movies I wanna do. If that hadn't happened I'd be doing a TV show or making a living or not, y'know. It's luck that you've got to try to [capitalize on](#), or you have to be available for it, but it's that.

So once you sort of understand that, o--everything you're doing is sort of based on stars [aligning](#), [literally](#) stars aligning, then you don't really [take it for granted](#), you do sort of enjoy it. It came to me later in life. I saw my aunt become [unfamous](#). It wasn't like she became less of a singer along the way. You know, um, had nothing to do with her.

So I, I'm at that point in my life and my career where very few things [rattle](#) me. Like, do you get sick of being on here? I've been [around](#) it. I've seen it my whole life. I know what that is. Um, so I don't--it doesn't bother me. There are times, y'know, but not often . . . except for now.

translation ►

*Interviewed by Jordan Riefe / Planet Syndication
Narrated by Peter Von Gomm*

映画制作費を求めて

DL **Track42**

記者：あなたの新作映画、『フィクサー』はかなり政治色が強いですね。こういう映画を作るために支援を得るのは大変でしたか？

ジョージ・クルーニー：政治的かどうかということは、それほど関係ありませんでした。昨今良い映画を作るのがなぜ難しくなっているかということには、もっと単純な、表に出ない要素があるんです。それは、単に利益を生む映画ではないからです。つまり、この映画を見て――皆さんもご覧になったでしょう――リラックスして、「ああ、これは大もうけできそうだ」とは言えませんよね。ですから、映画制作会社もこういう映画を作りたがらないのです。

簡単な計算なんですよ。映画の制作費が**2000**万ドルかかるとします。これは皆さんもご存じのとおり、大金のように感じますが、映画業界では大した金額ではありません。制作会社はそれを見てこう言います、「そうだな、わが社はいろんなことをやる大きな組織だから、宣伝費に**5000**万ドルかかるだろう」。そして、映画制作に**2000**万ドルかけ、それを売り込むのにその**3**倍の費用をかけるなんていう案は受け入れられない、ということになります。だから、彼らはもうこの手の映画は作りたがらないのです。ですから、自分で外に出て資金を探さなければなりません。

幸いなことに、今は、見返りさえ求めなければ、資金を調達できる場所がたくさんあります。私も映画についてはそうしているんですが。映画で利益が出るかどうかは賭けです。利益が上がれば生活していけるわけですがね。『さらば、ベルリン』は利益がまったく出ませんでした。それから『ソラリス』もね。まったく利益につながらない映画はたくさんあります。でも、その映画を作りたいから作るのです。私がいつも恐れているのは、**80**歳になって、「いったいどれが、自分の映画のどれが後世に残せるような作品だろう？」と思うことなんです。まともな映画を作る努力をずっとしないままでいたとしたらね。

【原文】[▶](#)

過去の過ちを正す

DL **Track43**

記者：あなたが演じる役柄、マイケル・クレイトンは、自分の国に幻滅しているようです。それは、現在この国で起こっていることを反映していると思われませんか？

クルーニー：今の世論調査を見ると、アメリカ国民の**70**パーセントが国に幻滅しています。われわれは過去数年やってきたことよりもましなことができる国民です。今は難しい時期です。われわれは、多くの愚かな過ちを犯すという立場に自らを陥れてしまいました。われわれはジュネーブ条約を踏みにじりました。自らの憲法も散々に踏みにじりました。現在に至るまで、実にあきれたことをしでかしてきました。

しかし、われわれが得意としていることで、今もその途中にあると私が期待し、信じていることは、過ちを正すことです。それは、長年にわたってアメリカ人がとても得意としてきたことです。われわれは多くの愚行を犯します。日本人を強制収容所へ送って、後であれは愚かだったかもしれないと気づき、改めたりするわけです。多少の時間はかかりますよ。ですから、今はその途上にあるのだと思いたいですね。わが国は感じていると・・・アメリカの中産階級が「ああ、これは本当にバカなことだった」と声に出すことが必要なんです。ベトナム（戦争）がまさにそうでした。ベトナム戦争は、ウォルター・クロンカイトが「これは犯罪だ」、「勝つことはできない」と言うまで、**13**年間終わりませんでした。今のわれわれもそうした段階にあつて、国は方向を転換し始めています。それは中間選挙にも表れていましたし、これから目にするでしょう。そして、うまくいけば、この国は方向転換するでしょう。それが私の願いなのです。

【原文】[▶](#)

バラク・オバマの勇氣

 [DL](#)  [Track44](#)

記者：バラク・オバマかヒラリー・クリントン、あるいは誰であれ民主党の候補が大統領の座に就けば、大きな変化が起こると思われますか？　民主党も共和党も同じように腐敗していると論ずることはできないでしょうか？

クルーニー：そう論じることもできるんじゃないですか。論破されるでしょうけどね、まあ——そう主張するのは難しいと思いますよ。（それに）「腐敗」ではありません。どうでしょうね、「腐敗」というより、「誤った方向に導かれた」という言葉のほうが適切だと思います。私がバラクを好きなのは、非常に知性的だからです。彼はあの集団（民主党）でただ一人——いや、唯一ではないのですが、大物の中ではただ一人——**2003年当時、あの戦争に突き進むのがいかに愚かなことか**という文章を書く度胸を持っていました。「まあ、彼は当時、上院議員ではなかったしね」と言う人もいるでしょう。それで・・・でも、彼は当時、実に厳しい情勢だったイリノイ州のシカゴの州政治に（州議会議員として）かかわっていたんですよ。勇氣ある行動でした。

ほら、皆さんも、たまに本物のロックスターと同席することがあるでしょう。彼（オバマ）も、実際に部屋に入ってくると、人は——息をのみますよ。率直に言いますが、私はぜひ彼に大統領になつてもらいたいのです。思うに彼は、彼はさまざまなものために戦っていますし、彼なら勝てると思います。私は、現在名前の出ている民主党候補は誰でも応援します。というのも、ゴアで一度（チャンスが）あつて、もし彼があるとき大統領になっていたなら、こんなことはまったく起こっていなかったはずなのですから。それは確かなことです。彼自身があるとき（自分が大統領になっていたら）あんなことにはならなかっただろうと述べていますから。ですから、正しい軌道に戻さないといけないと思うんです。

ですから、彼（オバマ）も好きですし、ヒラリーも好きです。彼女は素晴らしい。エドワーズもすごく立派です。（民主党には）好ましい選択肢がかなり豊富です。ところが共和党は難しい局面に陥っていて、自分で自分の足を引っ張っているような状態ですね。ですから・・・結果はいずれわかることです。先はまだ長い。いろいろなことが起こりますからね。もしかしたらゴアが選挙戦に参入して、面白くしてくれるかもしれませんよ。

【原文】[▶](#)

報道陣からの圧力

 **DL**  **Track45**

記者：記者会見や宣伝活動が少々重荷になることもあるかと思いますが。どの程度までいくと、そうした報道全般が腹に据えかねるようになりますか？

クルーニー：今がそうですよ。あなたが諸悪の根源です！

記者：冗談はともかく、それが及ばず影響はありますか？

クルーニー：まあ、腹の立つことはありますよ。ほら、例の女性がエスプレッソの話題を持ち出したとき・・・ご覧になりましたか、あの記者会見で、あの女性記者が言ったこと・・・あれは不愉快ですよ、だって、自分としては、「私は全力でいろいろな問題に関心を集め、さまざまなプロジェクトに時間を費やそうとしている」んですから。世界中のあらゆる企業が監視を受けているわけですし、何と言うか――まあ、あの件で彼女がいったい何を問題にしたかったのか、私にはよくわかりませんね。そんなわけで、そういう瞬間がこう言いたくなる時です、「君こそ、世界を救うためにいったい何をしてるんだ？」ってね。

しかし実のところ、私は有名人一家に育ちました。父は、私の育ったオハイオ州シンシナティでは――大スターです。お婆のローズマリーも大スターでした。ですから、私は見てきたのです。それ（名声）がいかに本人とかかわりのないものであるかをね。おわかりですよね？　すべては運なのです。思うに、有名人が概して陥りがちな問題は、自分を本当の天才だと勘違いしてしまうことです。つまり、有名になると、「ああ、当然だよ。俺は有名になって当然だし、この地位はすべて自分の力で手に入れたんだ」と思い始める。でも、そうではない。その人は運が良かっただけなんです。

私も運が良かった。私は木曜日の夜の時間帯テレビ番組に出演しました――木曜夜**10時**の。それが大ヒットしたおかげで、今、作りたい映画を作ることができています。そのヒットがなかったら、私は今もテレビ番組に出ていたでしょうし、生計を立てられていたのかもわかりません。運も、十分に生かす努力をしたり、もののできるようにしたりする必要はありますが、とにかく運なんです。

ですから、ひとたび、自分の行動がすべて星の巡り合わせ、まさしく「スター」の巡り合わせによるものだということを、いわば理解すれば、それを当然だとは考えなくなり、ある意味で享受するようになります。私に星が巡ってきたのは、人生の後の方でした。私は、お婆が落ち目になっていくのを見ました。それは、彼女が歌手としてだんだん衰えたからというわけではありません。彼女自身とはまったく関係がなかったのです。

ですから私は、人生においても職業においても、多少のことでは動じない境地に達しています。で、まあ、付きまとわれてうんざりするか、という質問ですが？　慣れっこですから。生まれてこのかたずっと見てきたことです。どんなものかよくわかっています。ですから――気になりません。気になる時もありますが、そう頻繁ではありません・・・今この瞬間は別ですがね。

【原文】[▶](#)

Vocabulary List

A

- agenda** 議題、行動計画
- align** 整列する、並ぶ
- along the way** ここに至るまでに、これまでに
- around ~** ~の近くにいて、~をよく知っていて
- awhile** しばらくの間 ★= a while

B

- backing** 支援、援助
- bring attention to ~** ~に注意を向けさせる

C

- capitalize on ~** ~を十分に利用する
- come to terms with ~** ~と折り合いをつける、~を受け入れる

D

- decent** まともな、立派な
- Democrat** 民主党員 ★ Democratsは「民主党」。
- disenchanted with ~** ~に幻滅した
- do the best one can** できる限りのことをする、最善を尽くす
- dumb** 愚かな、間拔けな

E

- epicenter** 震源地、発生源
- every once in a while** 時々、折々

F

- for nothing** 見返りを求めずに

G

- gamble on ~** ~に賭ける
- get ~ back on track** ~を軌道に戻す、~を正しい方向に戻す
- get going** 活動する、軌道に乗る

H

- have a difficult time doing** ~するのに苦労する
- have the nerve to do** ~する度胸がある

I

- in the office** 公職に就いて、就任して
- internment camp** 強制収容所

L

- legacy** 遺産、後世に残すもの

M

- major player** 重要人物
- make a living** 生計を立てる
- make money off of ~** ~で金もうけをする
- mid-term election** 中間選挙

P

- picket** 監視する、ビケを張る
- piece** 小文、記事
- pull for ~** ~を応援する

R

- rattle** 慌てさせる、混乱させる
- Republicans** 共和党

S

- simply not ~** 断じて~ない、まったく~ない
- sit back and do** くつろいで~する、のんびりと~する
- stand for ~** ~を支持する、~のために戦う
- step all over ~** ~を散々踏みつける

□studio 映画制作会社

T

- take ~ for granted ~を当たり前だと思う
- take one’s breath away ~に息をのませる、~をはっとさせる
- the ~ thing ~とかいう代物、~ってやつ
- the Senate 上院議会
- the truth of the matter is 本当のところは、実際は
- time slot 時間帯、時間枠
- trample on ~ ~を踏みにじる

U

- undertone （表に見えにくい）潜在的要素

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	クルーニーの映画作りのポリシーは、政治的なものであろうと娯楽であらうと、とにかく利益が出る作品を作ることにある。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	クルーニーの今までの映画は、いずれも利益を出している。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	クルーニーは、世論調査で国民の70%はとりあえず国の現状に満足していると述べている。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	アメリカは過去に多くの過ちを犯してきたが、過ちを正すことについてはアメリカ人は得意だ、とクルーニーは言う。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	クルーニーは、アメリカの過去の愚行について、ベトナム戦争を引き合いに出している。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	クルーニーは、今まさにアメリカは愚行を正し方向転換しようとしている、と考えている。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	クルーニーは、民主党も共和党も同様に腐敗している、と言う。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	バラク・オバマがあゝの戦争（イラク戦争）に対して2003年当時に反対意見を示したことは勇気ある行動だ、とクルーニーは評している。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	クルーニーは、オバマに次期大統領になってほしいと願っている。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	クルーニーは、人が有名人になるのは幸運に負うところが多く、自分自身もその運をつかんだ1人だ、と述べている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

答え [▶](#)

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	クルーニーの映画作りのポリシーは、政治的なものであろうと娯楽であらうと、とにかく利益が出る作品を作ることにある。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
2	クルーニーの今までの映画は、いずれも利益を出している。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
3	クルーニーは、世論調査で国民の70%はとりあえず国の現状に満足していると述べている。	A	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
4	アメリカは過去に多くの過ちを犯してきたが、過ちを正すことについてはアメリカ人は得意だ、とクルーニーは言う。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	クルーニーは、アメリカの過去の愚行について、ベトナム戦争を引き合いに出している。	C	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	クルーニーは、今まさにアメリカは愚行を正し方向転換しようとしている、と考えている。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	クルーニーは、民主党も共和党も同様に腐敗している、と言う。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
8	バラク・オバマがあ戦争（イラク戦争）に対して2003年当時に反対意見を示したことは勇気ある行動だ、とクルーニーは評している。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	クルーニーは、オバマに次期大統領になってほしいと願っている。	C	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	クルーニーは、人が有名人になるのは幸運に負うところが多く、自分自身もその運をつかんだ1人だ、と述べている。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

用語解説

Michael Clayton

『フィクサー』 ★（2007年）。アメリカ映画。監督トニー・ギルロイ。法律事務所に雇われ、表ざたにしたくない問題のもみ消しを生業にしている主人公が、巨大企業の裏の闇に気づき陰謀に巻き込まれていく。日本では2008年GW公開。

[▶本文に戻る](#)

The Good German

『さらば、ベルリン』 ★（2006年）。アメリカ映画。監督スティーブン・ソダーバーグ。共演ケイト・ブランシェット、トビー・マグワイア。第二次世界大戦直後のベルリンを舞台としたサスペンス・ドラマ。

[▶本文に戻る](#)

Solaris

『ソラリス』 ★（2002年）。アメリカ映画。監督スティーブン・ソダーバーグ。タルコフスキー監督のSF映画『惑星ソラリス』（1972年）のリメイク。

[▶本文に戻る](#)

the Geneva Convention

ジュネーブ条約 ★戦地における傷病者と捕虜の人道的扱いを定めた条約。

[▶本文に戻る](#)

put Japanese in internment camps

★第二次世界大戦中に、12万人を超える日系アメリカ人が強制収容所に隔離された。アメリカは戦後、謝罪し補償を行った。

[▶本文に戻る](#)

Vietnam

★ベトナム戦争（1959-75年）を指す。南北に分断したベトナムの内戦に諸外国が関与し、共産主義諸国が後押しする北ベトナムと、アメリカが後ろ盾となった南ベトナムとの、泥沼の代理戦争となった。アメリカは'60年に南への援助を開始、'73年のパリ協定で撤退した。

[▶本文に戻る](#)

Walter Cronkite

ウォルター・クロンカイト ★（1916-2009）。ジャーナリスト。ニュース番組*CBS Evening News*のキャスターを1963年から'81年まで務め、「アメリカの良心」と呼ばれた。

[▶本文に戻る](#)

You saw it in the mid-term elections

★2007年の中間選挙で民主党が勝利したことを言っている。

[▶本文に戻る](#)

Barack Obama

バラク・オバマ ★（1961-）。アメリカの政治家。民主党。2004年からイリノイ州選出の上院議員であり、現在、唯一のアフリカ系アメリカ人上院議員。'08年大統領選挙の民主党指名候補。

[▶本文に戻る](#)

Hillary Clinton

ヒラリー・クリントン ★（1947-）。アメリカの政治家。民主党。夫ビル・クリントンがアメリカ大統領だった1993～2001年、国政に積極的にかかわるファーストレディとして活躍。'08年大統領選の民主党予備選でオバマと指名を争ったが敗退した。

[▶本文に戻る](#)

he wasn't in the Senate

★2002年10月、下院に続いて上院で対イラク武力行使容認決議案が採択されたことで、イラクに対する宣戦布告への道筋が整った。野党である民主党議員からも、武力行使を容認する票が投じられた。

[▶本文に戻る](#)

(Al) Gore

（アル・）ゴア ★（1948-）。アメリカの政治家。民主党。クリントン政権時の副大統領。2000年の大統領選挙に立候補し、ブッシュと接戦を演じたが、開票手続きの混乱により敗北。環境問題に関心が高く、ドキュメンタリー映画『不都合な真実』（2006年）でアカデミー賞最優秀長編ドキュメンタリー映画賞を受賞。'07年には環境活動が評価され、ノーベル平和賞を受賞。

[▶本文に戻る](#)

(John) Edwards

（ジョン・）エドワーズ ★（1953-）。アメリカの政治家。民主党。2004年の大統領選挙で副大統領候補となるが、共和党に敗れた。'08年大統領選挙の民主党予備選にも出馬したが敗退。

[▶本文に戻る](#)

when that girl got up with the espresso thing

★クルーニーはネスレ社のコーヒー、「ネスプレッソ」のCMに出演している。ネスレ社は、開発途上国における粉ミルクの売り込み手法やミネラルウォーター用水資源の取得方法といった倫理問題で社会的非難を浴びているため、前日の記者会見で彼のCM出演を批判する女性記者が現れた。

[▶本文に戻る](#)

My father

★ニック・クルーニー（1934-）のこと。オハイオ州シンシナティの地方テレビ局で長年ニュースキャスターを務め、2004年には知名度を生かして下院議員選挙に出馬したが落選。

[▶本文に戻る](#)

Rosemary (Clooney)

ローズマリー（・クルーニー） ★（1928-2002）。1950年代に人気のあったポピュラー歌手・女優。代表曲"Come On-a My House"。ビング・クロスビーとともに映画『ホワイト・クリスマス』（'54年）にも出演している。

[▶本文に戻る](#)

a TV show that got a Thursday night time slot

★クルーニーの出世作となったNBCのドラマシリーズ「ER 緊急救命室」のこと。小児科医ダグラス・ロス役で第5シーズンまで出演した。クルーニーはしばしば、「放映日がもし週末の金曜日の夜だったら、視聴率はこれほど上がらなかっただろう」と公言しており、木曜日の放映であったことを幸運ととらえている。

[▶本文に戻る](#)

語注

backing

支援、援助
[▶本文に戻る](#)

undertone

(表に見えにくい) 潜在的要素
[▶本文に戻る](#)

simply not ~

断じて~ない、まったく~ない
[▶本文に戻る](#)

commercial

商業的な、営利目的の
[▶本文に戻る](#)

sit back and do

くつろいで~する、のんびりと~する
[▶本文に戻る](#)

go

言う ★口語表現。
[▶本文に戻る](#)

studio

映画制作会社
[▶本文に戻る](#)

'em

★ = them
[▶本文に戻る](#)

that everything gets going

★正しくは that gets everything going。
[▶本文に戻る](#)

get going

活動する、軌道に乗る
[▶本文に戻る](#)

come to terms with ~

~と折り合いをつける、~を受け入れる
[▶本文に戻る](#)

be willing to do

進んで~する、~する気がある
[▶本文に戻る](#)

for nothing

見返りを求めずに
[▶本文に戻る](#)

gamble on ~

~に賭ける
[▶本文に戻る](#)

make a living

生計を立てる
[▶本文に戻る](#)

make money off of ~

〜で金もうけをする
[▶ 本文に戻る](#)

legacy

遺産、後世に残すもの
[▶ 本文に戻る](#)

decent

まともな、立派な
[▶ 本文に戻る](#)

disenchanted with ~

～に幻滅した
[▶ 本文に戻る](#)

reflect

投影する、反映する
[▶ 本文に戻る](#)

poll

世論調査
[▶ 本文に戻る](#)

dumb

愚かな、間抜けな
[▶ 本文に戻る](#)

trample on ~

～を踏みにじる
[▶ 本文に戻る](#)

step all over ~

～を散々踏みつける
[▶ 本文に戻る](#)

constitution

憲法
[▶ 本文に戻る](#)

amazing

驚くべき、素晴らしい
[▶ 本文に戻る](#)

along the way

ここに至るまでに、これまでに
[▶ 本文に戻る](#)

fix

直す、修正する
[▶ 本文に戻る](#)

internment camp

強制収容所
[▶ 本文に戻る](#)

awhile

しばらくの間 ★= a while
[▶ 本文に戻る](#)

unwinnable

勝利のあり得ない、勝者のない
[▶ 本文に戻る](#)

mid-term election

中間選挙
[▶ 本文に戻る](#)

Democrat

民主党員 ★ Democratsは「民主党」。

[▶ 本文に戻る](#)

argue

論ずる、主張する

[▶ 本文に戻る](#)

Republicans

共和党

[▶ 本文に戻る](#)

equally

等しく、同じように

[▶ 本文に戻る](#)

how, if

★howを取り消してifと言い直している。

[▶ 本文に戻る](#)

misguided

方向を誤った、見当違いの

[▶ 本文に戻る](#)

major player

重要人物

[▶ 本文に戻る](#)

have the nerve to do

～する度胸がある

[▶ 本文に戻る](#)

piece

小文、記事

[▶ 本文に戻る](#)

the Senate

上院議会

[▶ 本文に戻る](#)

you were in state politics which is really hard in Chicago, . . .

★正しくは、he (= Obama) was in state politics which was really hard in Chicago, . . .

[▶ 本文に戻る](#)

state politics

州政治

[▶ 本文に戻る](#)

every once in a while

時々、折々

[▶ 本文に戻る](#)

take one's breath away

～に息をのませる、～をはっとさせる

[▶ 本文に戻る](#)

stand for ~

～を支持する、～のために戦う

[▶ 本文に戻る](#)

pull for ~

～を応援する

[▶ 本文に戻る](#)

in the office

公職に就いて、就任して

[▶本文に戻る](#)

get ~ back on track

～を軌道に戻す、～を正しい方向に戻す

[▶本文に戻る](#)

have a difficult time doing

～するのに苦勞する

[▶本文に戻る](#)

stepping on their own toes

★通常 **step on one's toes** は「～の足を踏む、～を怒らせる」という意味。ここでは **step on one's own toes** （自分のつま先を踏む）ということから「自分で自分の足を引っ張る」という意味で使われている。

[▶本文に戻る](#)

press conference

記者会見

[▶ 本文に戻る](#)

publicity

宣伝

[▶ 本文に戻る](#)

irritating

イライラさせる、不愉快な

[▶ 本文に戻る](#)

epicenter

震源地、発生源

[▶ 本文に戻る](#)

there's things

★there're things のつもり。

[▶ 本文に戻る](#)

the ~ thing

～とかいう代物、～ってやつ

[▶ 本文に戻る](#)

do the best one can

できる限りのことをする、最善を尽くす

[▶ 本文に戻る](#)

bring attention to ~

～に注意を向けさせる

[▶ 本文に戻る](#)

picket

監視する、ビケを張る

[▶ 本文に戻る](#)

agenda

議題、行動計画

[▶ 本文に戻る](#)

the truth of the matter is

本当のところは、実際は

[▶ 本文に戻る](#)

have to do with ~

～と関係がある

[▶ 本文に戻る](#)

in general

総じて、概して

[▶ 本文に戻る](#)

genius

天才

[▶ 本文に戻る](#)

earn

獲得する、手に入れる

[▶ 本文に戻る](#)

time slot

時間帯、時間枠

[▶ 本文に戻る](#)

massive

非常に大きな、大変な

[▶ 本文に戻る](#)

capitalize on ~

～を十分に利用する

[▶ 本文に戻る](#)

align

整列する、並ぶ

[▶ 本文に戻る](#)

literally

文字どおり

[▶ 本文に戻る](#)

take ~ for granted

～を当たり前だと思う

[▶ 本文に戻る](#)

unfamous

有名でない

[▶ 本文に戻る](#)

rattle

慌てさせる、混乱させる

[▶ 本文に戻る](#)

around ~

～の近くにいて、～をよく知っていて

[▶ 本文に戻る](#)



Jude Law
Norah Jones
Wong Kar-Wai

写真：ロイター / アフロ

異文化のコラボレーションから生まれた甘美な『マイ・ブルーベリー・ナイツ』

Jude Law / Norah Jones / Wong Kar-Wai

“So you also feel film is about collaboration. Everyone’s there to make the end product look and sound and feel as good as possible.”

「映画とはコラボレーションなのだとも感じるんだ。全員が、完成作品の見た目も音も感触も、できるだけ良いものにするためにそこにいるという」

Supervising Editor’s Comment

3種類の英語が聞ける。ウォン監督は、中国語訛りはあるものの、英語は達者だ。文法的な誤りも気にならないほど滑らかに話す。イギリス人のJ・ロウ（Law[ɒ:]なので、本来はローとすべきだろう）の発音は、RPより多少庶民的だが、O・ブルームやD・ラドクリフよりも訛りが少ない。また、1語1語淡々と丁寧が発音していることもあり、聞き取りやすい。N・ジョーンズは早口だ。特に強勢を受けない部分の弱まり方が大きいため、細かいところの聞き取りは難しい。

Interview Data	
収録日	2007年5月16日
収録地	カンヌ（フランス）
スピード	普通
語彙	やさしい
発音	明瞭

ジュード・ロウ／ノラ・ジョーンズ／ウォン・カーवाई
 Jude Law / Norah Jones / Wong Kar-Wai

ジュード・ロウ
 1972年12月29日、ロンドン生まれ。舞台でキャリアを積み、『ショッピング』（1993年）で映画デビュー。『コールドマウンテン』（2003年）でアカデミー主演男優賞にノミネート。

ノラ・ジョーンズ
 1979年3月30日、ニューヨーク生まれ。デビューアルバム『ノラ・ジョーンズ』（2002年）でグラミー賞8部門を受賞。『マイ・ブルーベリー・ナイツ』で映画に初主演。

ウォン・カーवाई
 1958年7月17日、中国・上海生まれ。『いますぐ抱きしめたい』（1988年）で監督デビュー。『天使の涙』（1995年）、『ブエノスアイレス』（1997年）、『花様年華』（2000年）などで高い評価を得る。

中国の名監督ウォン・カーवाईが、英国人俳優ジュード・ロウとアメリカ人歌手ノラ・ジョーンズを主演に作ったロマンティックな映画、『マイ・ブルーベリー・ナイツ』。3人が、この素敵な異文化コラボレーションの体験について、それぞれの立場から語る。

Making a Film in a Foreign Culture and Language

DL Track47

用語解説 語注

Reporter: A question for the director. You're known for [In the Mood for Love](#), but you've changed language, culture, place; you've gone into the American tradition of the [road movie](#). I'm curious what kind of [transformation](#) and what kind of challenge that was for you, and I'd love to hear from the actors [in terms of](#) working with [you in regards to](#) the use of language.

Wong Kar-Wai: The challenge for this film is it's in English, which is not my language. And, um, like, [all through the years](#) we've seen a lot of films, made about [the] Chinese from (= by) foreign directors. And sometimes it looks (= they look) very [embarrassing](#), and because, uh, a lot of these Chinese characters has (= have) been [distorted](#). And, uh, it's (= they're) too [exotic](#).

So, I always want (= wanted) to make a film in a different language but I want (= wanted) to avoid this (= these) problems. So, when I'm (= was) working on this film I always asked Norah, Jude and all the [crew](#) some questions, which (= and) they think (= thought), "Well, it's (= that's) kind of [silly](#)." But [I have to make sure](#).

Because a kiss, [it's -- \[it\] means difference in Chinese](#), or Chinese characters. Or to a Western characters, it's quite difference (= different). There's a (= There are) [subtle undertones](#) which I have to make sure [of] because I want to [do justice to](#) Americans, to the characters, [which] I expected from other films about Chinese. I don't want to, to make the same mistake. I want to make sure [of] that.

And at (= in) the end, I, I believe there's something that we can all shares (= share) even though we are from different [races](#), different countries, different cultures, but [some emotions can we share beyond the language](#).

Jude Law: Most of the conversations that Kar-Wai and I had were about rhythm and [pace](#). And we were talking earlier, it was almost as if, it was like [tuning an instrument](#) between our different languages -- our different voices, rather, Norah and I. It was like a [duet](#) when we were together, and so [to have an ear that wasn't necessarily always listening to the language in any way other than rhythm or tone, seemed to be the general sort of direction that we were all working towards](#).

translation ►

Norah Jones's Acting Debut

DL Track48

用語解説 語注

Reporter: OK, Norah Jones and Jude Law. Norah, what was it, uh, that made you decide you wanted to make a [movie debut to start with](#), and [*how you picked Wong Kar-Wai in *My Blueberry Nights* to do?](#)

Norah Jones: Well, for me, I was not planning on making any kind of [acting](#) debut. And, um, he [knocked on my door](#) and I, [out of the blue](#), I just thought, "Uh, OK. Well, I'm [on tour](#). And I'm not an actress, so [whatever](#) . . ." And then I [got off tour](#) and I finally watched one of his films for the first time. I watched, *In The Mood For Love*, and I thought, "Wow, that's just the most beautiful thing I've ever seen!" And I thought, "Well, let's have lunch. Maybe he wants some music." And he says, "You [wanna](#) be in a movie?" And I say, "OK. You're amazing!" So I just [for some reason](#) had a [blind trust](#) -- well, not blind 'cause I thought his [filmmaking](#) was amazing, but I just kind of [jumped in](#) and said, "Well, we'll [figure it out](#) later, I guess."

Reporter: Without, without asking what the character was about? What the journey was about? What, whether there was a script -- [which, of course, there wasn't](#) . . .

Jones: Well, you can ask, but, you know, whether or not you'll receive it, you know. I asked a little bit but at that time he didn't really have a lot of information on everything. So I really just kind of jumped in [with a really good feeling of](#) trust for him. And I would not have done that, of course, with just anybody. I mean, he's an amazing filmmaker but, yeah, I blindly jumped in, and I'm really glad.

Reporter: And for Jude, for your character was there always going to be, he was going to be English? Did you think about making him American?

Law: Um, well, when Kar-Wai asked me to be in the film, we talked [primarily](#) about him being a runner -- someone who wanted to run and saw running as a, the way of expressing himself. And then this idea that for personal reasons he [hangs up](#) his running shoes and waits for someone, waits, [in a way](#), for life to catch him up, waits for his love to find him and, in a way, [puts his life on pause](#). And I immediately thought of [Tom Courtenay](#), actually, in [Loneliness of the Long Distance Runner](#).

I felt it was really important that [Jeremy](#) be [grounded](#), be [rooted](#) in this café, very busy, very [occupied](#) and I suppose those were good [Northern English personality traits](#).

tanslation ▶

An Exciting Collaboration

DL Track49

語注

Reporter: What was it like to work on this film? Was it different from your expectations?

Law: It was a very, it was a huge learning experience for me because, even on the films I've worked on where there has been an element of [improvisation](#) or [personal input](#), it really felt, on this, that a lot of the rules that perhaps we get used to [applying to](#) filmmaking [were thrown out of the window](#) and, and suddenly it felt very, very [free](#).

You really did go to work some days not knowing what was gonna happen [and that doesn't become scary](#), that suddenly becomes very [challenging](#) and very exciting. And, uh, you know that whatever happens it's gonna be true, and it's gonna be creative, and it's gonna be right, eventually, y'know?

So you also feel film is about [collaboration](#). Everyone's there to make the [end product](#) look and sound and feel as good as possible. And in this way, without the, kind of, more [rigid](#) guidelines, everyone felt like they were [putting in](#). And it was a[n] [incredibly fulfilling](#) experience [on that level](#).

tanslation ▶

Reporter: About kissing, you know, there's sort of Chinese kissing and Western kissing. I think [a kiss is still a kiss](#). But [that kiss that you do](#) is very beautiful, the actors. Could you talk, Jude and Norah, about that kiss? It's quite kind of [sexy](#) and interesting. So talk about how the kiss [came into being](#) in the movie.

Wong: No, the kiss, of course, the act is the same but the emotion is difference (= different) because the kiss . . . people [who] make a film about kissing or shooting (= shoot) a scene of two actors kissing is (= are) always [focused on](#) the kissing. But what's before and what's after is something that is very difference (= different). For a Chinese or for a Westerns (= Westerner), [it] may be [a] different approach, you know.

Law: It was interesting because, it was very clear that this moment, this [tiny](#) moment in these two people's lives was also a huge [turning point](#), [both for the film but in their lives](#), as a, of the story.

And it suddenly [struck](#) me that, y'know, we tend to make films or write films, [more often than not](#) about huge moments and years in people's lives. And, and yet really everyone's lives change and turn in a moment. And it became very clear when we filmed the kiss that this could be a moment in this film that was clearly gonna turn these two people's lives and change them forever.

And so [when we met again at the end of the film, when we came back to film in the winter](#), and, uh, we [recreated](#) it, we were all, "Ahh, we were right, we were right." This is the moment that we wanted; they both [were destined to kind](#) of return to. But [aside from](#) it being a kiss, it seemed very [apparent](#) that we were, yeah, dealing in tiny [slices](#), tiny moments.

translation ▶

*Narrated by Eda Sterner, Bill Sullivan
Special Thanks to Jordan Riefe / Planet Syndication*

英語作品へのチャレンジ

[DL](#) [Track47](#)

記者：監督にお尋ねします。あなたは『花様年華』で有名ですが、今回は言葉も文化も舞台も変えて、ロードムービーというアメリカの伝統に足を踏み入れられましたね。それがあなたにとってどのような変化であり、どのような挑戦であったのかについて、お伺いしたいのですが。また、俳優の皆さんにはぜひ、監督と仕事をするこ
とについて言葉の使い方という点からお話を聞きたいと思います。

ウォン・カーウアイ：この作品で難しかったことは、これが自分の母語ではない、英語の作品だという点です。また、長年、外国人監督が制作した中国人に関する映画をたくさん見てきましたが、時に、見ていてとても恥ずかしいこともあるのです。というのは、そういう映画の中国人の登場人物の多くが歪曲されているからです。あまりにも妙ちきりんなのです。

だから、私はずっと違う言語で映画を作りたいと思っていましたが、そういう問題がないようにしたいと思っていました。それで、この作品を撮っている間、常にノラやジュード、スタッフのみんなにいろいろ質問をしていました。みんな、「そんな、ばかばかしい」と思ったでしょうが。でも、はつきりさせておく必要があったのです。

というのも、（例えば）キスというのは、中国人、中国人の登場人物の中では違う意味を持つからです。西洋人の登場人物にとつてとは、まったく違うんです。微妙なニュアンスがあって、それを確認しなくてはならなかったんです。なぜなら、中国人に関するほかの映画で私がそうしてほしかったのと同じように、アメリカ人を、登場人物たちを正しく表現したいと思いましたからね。同じ間違いは犯したくなかったから、その点は確信を持ちたかったのです。

最終的には、たとえ人種や国、文化が違って、私たちみんなが共有できるものがあると信じています。ある種の感情は、言葉の違いを越えて共有できると思いますね。

ジュード・ロウ：カーウアイと僕が話したことは、大部分、リズムやテンポについてでしたね。（会見の前に）さっきも話していたのですが、それはまるで、異なる言語間で楽器の音合わせをするようなものでした―異なる声ですね、正しくは、ノラと僕の。2人一緒のシーンはデュエットのようでした。ですから、必ずしも言葉に耳を傾けていなくても、リズムや調子としては聞こえている、そんな耳を持つようになることが、僕たち皆が目指しているおおよその方向であるように思われました。

[【原文】](#) [▶](#)

ノラ・ジョーンズの映画デビュー

 [Track48](#)

記者：では、ノラ・ジョーンズさんとジュード・ロウさんに伺います。ノラ、そもそも、いったいどうして映画デビューしようと思ったのですか？ また、どういう経緯でウォン・カーウアイ監督の『マイ・ブルーベリー・ナイツ』を選ばれたんでしょう？

ノラ・ジョーンズ：ええと、私は、どんな形であれ、役者デビューをしようなんて思っていませんでした。それで、監督に打診されて、降ってわいたような話で、私はただ、「ふうん。でも私はツアー中だし、女優でもないし、何にしても・・・」と思いました。それから、ツアーが終わって、ようやく彼の作品のひとつを初めて見たんです。『花様年華』を見たんですが、「わあ、こんなにきれいな、見たことない！」と思いましたね。「そうだ、一緒にお昼でも食べてみよう。ひょっとしたら（映画に使う）音楽をご所望なのかも」と思ったんです。それで彼が「映画に出たいですか?」と尋ねるので、「いいわ。あなたってすごい人ですね!」と答えました。だから、どういうわけか、無条件に信頼したんです—無条件にじゃないですね、だって、彼の映画作りが素晴らしいと思ったわけですから。でも、まあ、ぱつと飛び込んで、「そうね、どうなるか、そのうちわかるかもね」と思ったんです。

記者：どんな役なのか、尋ねもしなかったんですか？ どんな旅なのか、とか？ 台本はあるのかとか—もちろんなかったわけですが・・・

ジョーンズ：まあ、尋ねてもいいんですけど、いずれにしろ（申し出を）受けるわけですからね。少しは質問しましたが、その時点ではカーウアイも、何に関しても大して情報は持っていませんでした。だから、彼は信頼できるというすごくいい感触を得て、とにかく話に乗ったという感じです。もちろん、誰とでもそんなことをしたわけではありません。本当に彼は素晴らしい映画監督だから、私は何も考えずにぱつと飛び込んだんです。とてもよかったと思っています。

記者：次は、ジュードさんにですが、あなたの役柄はずっと、イギリス人の設定だったのですか？ 彼をアメリカ人にしようと思いましたか？

ロウ：そうですね、カーウアイから本作への出演を依頼されたときに、僕たちが主に話したのは、彼がランナー—走ることを欲していて、走ることを自己表現の手段と考えている人物—であるということでした。それから、彼は個人的な理由で走ることをやめ、誰かを待っている、いわば、人生が自分に追い付くのを待ち、恋人が自分を見つけてくれるのを待っていて、ある意味で人生を一時休止にしている、という案（について話しました）。実は、僕はすぐに『長距離ランナーの孤独』のトム・コートネイのことを思いました。

それで僕は、ジェレミーがしっかり地に足を着け、このカフェに根を下ろして、とても忙しくしていることが重要だと感じました。そして、そういうところは良き北イングランド人の気質だと思います。

【原文】[▶](#)

心躍るコラボレーション


 **DL**  **Track49**

記者：この作品の制作はどのようなものでしたか？ 予想とは違っていましたか？

ロウ：僕にとってはとても大きな、勉強になる経験でした。というのも、これまで制作してきた映画でも、即興や自分なりのアイデアを入れるという要素はありましたが、この作品では、もしかすると僕たちが映画制作に適用することに慣れてしまっているルールが多くが捨て去られ、突然、ものすごく自由になった感じがしましたね。

何が起こるかわからないまま撮影現場に行く日も実際ありましたが、それは怖いことではなく、急に、とてもやりがいのある、エキサイティングなことに思えてくるんですね。何が起こるかわからないけれども、最後には偽りのない、創造性に富んだ、いいものになると信じられるのです、おわかりでしょう？

また、映画とはコラボレーションなのだとも感じました。（スタッフの）全員が、完成作品を視覚的にも聴覚的にも感触的にも、できるだけ良いものにするためにそこにいるわけです。そんなふうにして、厳密な指針などなくても、誰もが全力を尽くしているように感じました。そういう意味では、ものすごく充実した経験でしたね。

[【原文】](#) 

キスの持つ意味

 [DL](#)  [Track50](#)


記者：キスのことについてですが、中国的なキスと西洋的なキスといったものがある、と（監督はおっしゃいました）。私は、キスはやっぱりキスだと思いますが、お2人が演じられたキスシーンは非常に美しかったです。ジュードとノラ、あのキスについて話していただけますか？ とてもある意味官能的で興味を引かれます。どうして、あのキスシーンがこの作品に出てきたのでしょうか？

ウォン：いや、キスという行為はもちろん同じですが、それに伴う感情が違うのです、というのも、キス・・・キスに関する映画を作り、2人の俳優のキスシーンを撮影する人々は、必ずキスという行為に注目します。ですが、その前後が、大いに違っているのです。中国人と西洋人では（キスに対する）アプローチが違うのかもしれない。

ロウ：興味深かったですね。というのは、この瞬間、2人の人生におけるこのちょっとした瞬間が、映画にとっても、ストーリー中の2人の人生にとっても、大きなターニングポイントでもあることがはっきりしていましたから。

で、そのとき、不意に思ったのですが、つまり僕たちは往々にして、人々の人生の重大な瞬間や年月についての映画を作ったり、書いたりすることが多いですよ。でも、実際には、誰の人生も一瞬のうちに変化し、方向を変えるのです。あのキスシーンを撮ったとき、非常にはっきりしたのは、これがこの映画の中で、2人の人間の人生を明らかに方向転換させ、永遠に変えてしまう瞬間になる、ということでした。

そして、作品の最後で2人が再会したとき、冬に戻ってきて、そのシーンをまた撮影したときに、みんな「ああ、あれでよかったんだ」と思いました。これが自分たちの求めていた瞬間だ、2人がいわば戻っていくよう運命づけられていた瞬間だ、と。でも、それがキスであるということは別にして、われわれが（人生の）ひとかけら、とても小さな瞬間を扱っているということはきわめて明らかでした。

[【原文】](#) 

Vocabulary List

A

- all through the years** 長年
- aside from** ~ ~は別として、~はさておき

B

- be destined to** ~ ~するよう運命づけられる、~する運命にある
- be occupied** 専念する、従事する、忙しい
- be thrown out of the window** 問題にされなくなる、放棄される
- blind trust** 無条件の信頼

C

- challenging** やりがいのある、意欲をかき立てる
- come into being** 生じる、生まれ出る

D

- distorted** ゆがめられた、曲解された
- do justice to** ~ ~を正当に扱う、~を正しく表す

E

- embarrassing** 当惑させるような
- end product** 完成品、最終結果
- exotic** 異国風の、風変わりな

F

- figure ~ out** ~を理解する、~がわかる
- fulfilling** 充実した、達成感のある

G

- get off tour** ツアーを終える
- grounded** 基礎を据えた

H

- hang up** ~ ~をやめる、~をあきらめる、~から引退する

I

- in regards to** ~ ~については、~に関して ★**in regard to** ~とも言う。
- in terms of** ~ ~の点から見て

J

- jump in** ~ ~に飛び込む

K

- knock on one's door** ~の所にやって来る、~に打診する

M

- more often than not** しばしば、往々にして

O

- on tour** ツアー中で
- out of the blue** 出し抜けに、思いがけなく、青天の霹靂のように

P

- put ~ on pause** ~を中断させる
- put in** 力を注ぐ

R

- recreate** 再現する、作り直す
- rigid** 厳格な、厳しい
- road movie** ロードムービー ★旅や逃避行など、主人公が長距離を移動する映画。
- rooted** 根を下ろした、定着した

S

- scary** 恐ろしい、怖い
- slice** (薄い) ひと切れ、一部、部分
- strike** ~ (考えが?) ~ (人)に突然浮かぶ、思い当たる

□**subtle** 微妙な、かすかな、とらえにくい

T

□**to start with** まず第一に、初めに、そもそも

□**trait** 特徴、特質

□**transformation** 変化、転換

□**tune an instrument** 楽器の音を合わせる、楽器を調律する

U

□**undertone** 底流、底意

W

□**whatever** 何であれ

□**with a feeling of ~** ~の気持ちで、~に思っ

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	ウォン監督は、今まで外国人監督が製作した中国人に関する映画について辛口の評価をしている。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	ウォン監督は、あくまでも自分の言語（中国語）で映画を作ることこだわっている。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	ウォン監督は、登場人物が西洋人の場合、演技や表現が正しくなされているかに細かく神経を使った。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	ロウは、自分たちが特に気をつけたのは言葉そのものよりもリズムやテンポやトーンだった、と述べている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	ジョーンズは、映画の仕事には以前から興味を持っていて、俳優としてデビューすることも考えていた。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	ジョーンズは、今回の映画出演については、あまり多くのことは考えずに監督を信じて飛び込んだ、と述べている。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	ロウは、この映画でイギリス人のランナー役を演じた。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	ロウは、今回の映画で初めて即興や自分なりのアイディアを入れるという経験をした。	B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	ウォン監督は、キスシーンについて、中国と西洋ではキスの前と後が大いに違う、と述べている。	C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	ロウは、この映画のキスシーンを、瞬間の出来事が人生を大きく方向転換させ、永遠に変えてしまうことさえある、その象徴として感じ取った。	A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

答え [▶](#)

理解度チェック

インタビューの内容に一致するものは○Yes、一致しないものは○Noを選びましょう。

※質問の難易度の表示は、A=やさしい、B=普通、C=難しい、を表します

Questions		難易度	Yes	No
1	ウォン監督は、今まで外国人監督が製作した中国人に関する映画について辛口の評価をしている。	C	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	ウォン監督は、あくまでも自分の言語（中国語）で映画を作ることにこだわっている。	C	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
3	ウォン監督は、登場人物が西洋人の場合、演技や表現が正しくなされているかに細かく神経を使った。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	ロウは、自分たちが特に気をつけたのは言葉そのものよりもリズムやテンポやトーンだった、と述べている。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	ジョーンズは、映画の仕事には以前から興味を持っていて、俳優としてデビューすることも考えていた。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
6	ジョーンズは、今回の映画出演については、あまり多くのことは考えずに監督を信じて飛び込んだ、と述べている。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	ロウは、この映画でイギリス人のランナー役を演じた。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	ロウは、今回の映画で初めて即興や自分なりのアイディアを入れるという経験をした。	B	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
9	ウォン監督は、キスシーンについて、中国と西洋ではキスの前と後が大いに違う、と述べている。	C	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	ロウは、この映画のキスシーンを、瞬間の出来事が人生を大きく方向転換させ、永遠に変えてしまうことさえある、その象徴として感じ取った。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

In the Mood for Love

『花様年華』 ★（2000年）。香港映画。1960年代の香港を舞台に、許されない恋に揺れる男女の心情を描いたラブストーリー。主演のトニー・レオンは本作でカンヌ国際映画祭主演男優賞を受賞。
[▶本文に戻る](#)

movie debut

映画デビュー ★ジョーンズは『トゥー・ウィークス・ノーティス』（2003年）という映画のパーティーシーンに本人役で特別出演したことがあるので、ここは「主演としての本格的なデビュー」という意味の発言と思われる。

[▶本文に戻る](#)

My Blueberry Nights

『マイ・ブルーベリー・ナイツ』 ★（2007年）。アメリカ映画。失意の女性が愛の意味を探して旅に出るロードムービー。第60回カンヌ国際映画祭でオープニング作品として上演された。

[▶本文に戻る](#)

which, of course, there wasn't

★ウォン監督は、完成脚本なしで撮影をすることで知られているため、こう言っている。

[▶本文に戻る](#)

Tom Courtenay

トム・コートネイ ★イギリス出身の俳優（1937-）。『長距離ランナーの孤独』（'62年）で、主役のコリン・スミスを演じた。

[▶本文に戻る](#)

[The] Loneliness of the Long Distance Runner

『長距離ランナーの孤独』 ★（1962年）。イギリス映画。感化院でクロスカントリーの選手に選ばれた青年を通して、当時の若者たちの姿が描かれる。

[▶本文に戻る](#)

Jeremy

ジェレミー ★『マイ・ブルーベリー・ナイツ』で、ロウが演じる人物の名前。エリザベスが度々訪れるカフェのオーナー。

[▶本文に戻る](#)

Northern English

北イングランド人 ★北イングランドは気候が厳しいため、そこに住む人々は忍耐強いといわれる。

[▶本文に戻る](#)

a kiss is still a kiss

★ハーマン・ハプフェルド作詞・作曲のジャズのスタンダードナンバー"As Time Goes By"の歌詞の一節に掛けてこう言っている。

[▶本文に戻る](#)

that kiss that you do

★作品中で、エリザベスとジェレミーが交わすキスのこと。

[▶本文に戻る](#)

when we met again at the end of the film, when we came back to the film in the winter

★本作では、作品中の時間の経過に合わせ、撮影も4カ月の中断の後、再開された。最初の **we** はストーリー中の人物のことで、後の **we** は映画制作にかかわるキャストとスタッフのことを指していると思われる。

[▶本文に戻る](#)

語注

road movie

ロードムービー ★旅や逃避行など、主人公が長距離を移動する映画。

[▶ 本文に戻る](#)

transformation

変化、転換

[▶ 本文に戻る](#)

in terms of ~

～の点から見て

[▶ 本文に戻る](#)

you

★ウォン・カーウアイ監督のこと。

[▶ 本文に戻る](#)

in regards to ~

～については、～に関して ★in regard to ~とも言う。

[▶ 本文に戻る](#)

all through the years

長年

[▶ 本文に戻る](#)

embarrassing

当惑させるような

[▶ 本文に戻る](#)

distorted

ゆがめられた、曲解された

[▶ 本文に戻る](#)

exotic

異国風の、風変わりな

[▶ 本文に戻る](#)

crew

クルー、（複数から成る）チーム

[▶ 本文に戻る](#)

silly

ばかげた、くだらない、つまらない

[▶ 本文に戻る](#)

I have to make sure.

★過去の出来事や心情をあたかも目の前で起こっていることや感じているかのように生き生きと描写するため、現在形を使うことがある。

[▶ 本文に戻る](#)

it's -- [it] means difference in Chinese . . .

★it means something different for Chinese . . . の意。

[▶ 本文に戻る](#)

subtle

微妙な、かすかな、とらえにくい

[▶ 本文に戻る](#)

undertone

底流、底意

[▶ 本文に戻る](#)

do justice to ~

～を正当に扱う、～を正しく表す

[▶ 本文に戻る](#)

race

人種、民族

[▶ 本文に戻る](#)

some emotions can we share beyond the language

★there are some emotions (that) we can share beyond the language などの意。

[▶ 本文に戻る](#)

pace

テンポ、速度

[▶ 本文に戻る](#)

tune an instrument

楽器の音を合わせる、楽器を調律する

[▶ 本文に戻る](#)

duet

デュエット、二重奏、二重唱

[▶ 本文に戻る](#)

to have an ear that wasn't necessarily always listening to the language in any way other than rhythm or tone, seemed to be the general sort of direction that we were all working towards.

★we seemed to be working towards listening to the language more for its rhythm and tone than for its content. といった意味と思われる。

[▶ 本文に戻る](#)

to start with

まず第一に、初めに、そもそも

[▶本文に戻る](#)

how you picked Wong Kar-Wai in *My Blueberry Nights* to do?

★正しくはhow did you pick Wong Kar-Wai and *My Blueberry Nights* to do?となる。

[▶本文に戻る](#)

acting

演技、俳優業

[▶本文に戻る](#)

knock on one's door

～の所にやって来る、～に打診する

[▶本文に戻る](#)

out of the blue

出し抜けに、思いがけなく、青天の霹靂のように

[▶本文に戻る](#)

on tour

ツアー中で

[▶本文に戻る](#)

whatever

何でもあれ

[▶本文に戻る](#)

get off tour

ツアーを終える

[▶本文に戻る](#)

wanna

★= want to

[▶本文に戻る](#)

for some reason

なぜか、どういいうわけか

[▶本文に戻る](#)

blind trust

無条件の信頼

[▶本文に戻る](#)

filmmaking

映画制作

[▶本文に戻る](#)

jump in ~

～に飛び込む

[▶本文に戻る](#)

figure ~ out

～を理解する、～がわかる

[▶本文に戻る](#)

with a feeling of ~

～の気持ちで、～に思っ

[▶本文に戻る](#)

primarily

主に、最初に

[▶本文に戻る](#)

hang up ~

～をやめる、～をあきらめる、～から引退する ★ここでは「走ることをやめる」、という意味。スポーツ選手がキャリアの第一線から退く時などによく使われる。

[▶本文に戻る](#)

in a way

ある意味では、一面では

[▶本文に戻る](#)

put ~ on pause

～を中断させる

[▶本文に戻る](#)

grounded

基礎を据えた

[▶本文に戻る](#)

rooted

根を下ろした、定着した

[▶本文に戻る](#)

(be) occupied

専念する、従事する、忙しい。

[▶本文に戻る](#)

personality

性格、性質

[▶本文に戻る](#)

trait

特徴、特質

[▶本文に戻る](#)

improvisation

即興

[▶ 本文に戻る](#)

personal input

★俳優や（監督以外の）関係者の意見、提案を指す。

[▶ 本文に戻る](#)

apply to ～

～に適用する、～に当てはめる

[▶ 本文に戻る](#)

be thrown out of the window

問題にされなくなる、放棄される

[▶ 本文に戻る](#)

free

自由な、拘束されない

[▶ 本文に戻る](#)

and that doesn't become . . .

★andを but の意味で使っている。

[▶ 本文に戻る](#)

scary

恐ろしい、怖い

[▶ 本文に戻る](#)

challenging

やりがいのある、意欲をかき立てる

[▶ 本文に戻る](#)

collaboration

コラボレーション、合作、共同制作

[▶ 本文に戻る](#)

end product

完成品、最終結果

[▶ 本文に戻る](#)

rigid

厳格な、厳しい

[▶ 本文に戻る](#)

put in

力を注ぐ

[▶ 本文に戻る](#)

incredibly

非常に、とてつもなく

[▶ 本文に戻る](#)

fulfilling

充実した、達成感のある

[▶ 本文に戻る](#)

on that level

そのレベルでは、その点では

[▶ 本文に戻る](#)

sexy

セクシーな、魅力的な

[▶ 本文に戻る](#)

come into being

生じる、生まれ出る

[▶ 本文に戻る](#)

focus on ～

～に集中する、～に焦点を合わせる

[▶ 本文に戻る](#)

tiny

わずかな、ほんの少しの

[▶ 本文に戻る](#)

turning point

転換点、転機、ターニングポイント

[▶ 本文に戻る](#)

both for the film but in their lives . . .

★both A and Bを使って、both for the film and in their livesとなるべきところを、not only A but (also) Bと途中から混同したため、butとなっている。

[▶ 本文に戻る](#)

strike ～

(考えが)～(人)に突然浮かぶ、思い当たる

[▶ 本文に戻る](#)

more often than not

しばしば、往々にして

[▶ 本文に戻る](#)

recreate

再現する、作り直す

[▶ 本文に戻る](#)

be destined to do

～するよう運命づけられる、～する運命にある

[▶ 本文に戻る](#)

aside from～

～は別として、～はさておき

[▶ 本文に戻る](#)

apparent

明白な、明らかな

[▶ 本文に戻る](#)

slice

(薄い)ひと切れ、一部、部分

[▶ 本文に戻る](#)

【音声DL付】ハリウッドスターの英語3
(電子書籍版)

発行日：2013年10月1日 (ver1.0)
2015年2月1日 (ver1.1)

企画・編集：株式会社アルク

音声解説：小川直樹

英文校正：Peter Branscombe、Owen Shaefer、Joel Weinberg

和訳：春日聡子、丸山敬子、挙市玲子、増田恵里子

表紙デザイン：直井忠英（ナオイデザイン室）

カバー写真：(c)Rex Features/アフロ

電子書籍制作：有限会社ギルド

録音・編集：有限会社ログスタジオ

発行者：平本照磨

発行所：株式会社アルク

〒168-8611 東京都杉並区永福2-54-12

Email：csss@alc.co.jp

Website：http://www.alc.co.jp/

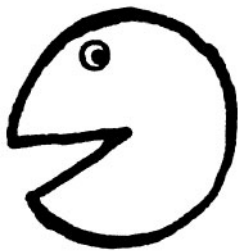
- ・本書は『ハリウッドスターの英語3』（2008年発行）の電子書籍版です。
- ・本書の全部または一部の無断転載を禁じます。著作権法上で認められた場合を除いて、本書からのコピーを禁じます。

©2013 Naoki Ogawa / Noboru Matsuoka / Yuki Tominaga / naoi design office / ALC PRESS INC.

PC：9580161

ISBN：9784757421417

地球人ネットワークを創る



アルクのシンボル
「地球人マーク」です。